

亀作遺跡 第1次

市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

亀作遺跡
第1次

二〇二〇

2020

茨城県常陸太田市教育委員会

かめ ざく い せき だい じ
亀作遺跡 第1次

市道 0112・4166・4168 号線（亀作中角線）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020

茨城県常陸太田市教育委員会

序

常陸太田市は、平成16年12月1日の1市1町2村の合併により、県内第1位の面積を誇る市となりました。市域には300か所を超える埋蔵文化財包蔵地がみられ、県内第2位の規模を誇る前方後円墳の梵天山古墳をはじめ、全長100mを越える星神社古墳と高山塚古墳、久慈郡寺の推定地とされる長者屋敷遺跡など、貴重な遺跡が数多くあります。

当市では、これらの貴重な遺跡の保護・保存を図るとともに、その性格を明らかにすることによって活用ができるようすることを目的として、市内遺跡事業に取り組み、調査を進めてまいりました。

本報告書は、それらの調査の成果を報告することを目的として刊行するもので、平成30度に実施された亀作遺跡の発掘調査で得ることができた成果について盛り込みました。

当市では、総合計画のひとつの柱としまして「地域資源を磨き活用するまちづくり（エコミュージアムによるまちづくり）」を進めております。地域に埋もれた資源を発見し、その資源について学び、活用することが地域の活性化に結びついていくものと考えております。本報告書が、そのような地域資源の発見・活用の一助になるとともに、この成果が少しでも多くの方々のお役に立つことが出来れば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行までご指導・ご協力を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げます。

令和2年3月

常陸太田市教育委員会
教育長 石川 八千代

例　　言

1. 本書は、茨城県常陸太田市に所在する「亀作遺跡」埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は、市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）道路改良工事に伴うもので、常陸太田市より委託を受けた（株）東京航業研究所が、常陸太田市教育委員会文化課の指導の下に実施した。
3. 今次調査の現地調査及び整理・報告書作成期間は以下の通りである。

現地調査 平成30年11月26日～平成31年2月19日

整理・報告書作成 令和元年5月25日～令和2年3月25日

4. 調査体制

調査主体者	常陸太田市教育委員会	教育長 石川 八千代
調査指導	常陸太田市教育委員会文化課	主任 山口 憲一
事務局	常陸太田市教育委員会文化課	課長 岩間 勇二
	同 文化振興係	係長 助川 喜作
	同 文化振興係	主事 川崎 祐子
	同 文化振興係	主事 田所 由紀
	同 文化振興係	主事 萩谷 友里恵

調査・整理担当 諸星 良一 現地調査、整理作業・報告書作成

整理担当 宅間 清公 整理作業・報告書作成

5. 発掘調査及び整理・報告書作成に際しては、下記の関係機関・各位よりご指導・ご協力を賜った。ご芳名を記して謝意を表する次第である。

茨城県教育委員会、（有）立原建設、阿久津 久、宮田 純、宮田 裕紀枝、小菅 将夫、石川 太郎
(敬称略、順不同)

6. 本書の作成は常陸太田市教育委員会文化課の指導の下、（株）東京航業研究所が行った。執筆は、第1章 第1節を山口憲一、第1章 第2節、第2章～第5章を諸星が執筆した。

7. 発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。

発掘調査

井坂 桂一、柏 勝、久野 周也、高久 照美、檜山 博、矢崎 福司、川崎 剛史

整理作業

稲毛 あゆみ、大川 亜弓、酒井 成男、高橋 昇、田口 陽祐、竹内 あい、東條 高士、長江 陽子、
野村 果央、三原 浩之、村井 建三、柳澤 美樹 (敬称略、順不同)

凡　例

1. 本遺跡の名称・調査区の略号はKSを使用する。
2. 遺構は、堅穴建物跡=SI、溝跡=SD、井戸=SE、土坑=SK、性格不明遺構=SX、ピット=Pで示す。
3. 土層注記は、土層の粒径、由来、性質によって、ローム、火山灰、シルト質土、砂質土に区分し、新版標準土色帳を色相、明度、彩度を基準にして土層を定義し、粘性、しまり、および含有物とその直径、相対的含有量について記録した。必要に応じて、遺構内の土壤を探集し、火山灰分析を実施し、遺跡の自然史と火山灰編年額のデータを収集し、遺構、遺跡の相対的年代や性格の理解に努めた。
4. 遺構図のスケールは、平面図が1/60、竈、焼土範囲は1/30である。遺物図のスケールは、1/3を原則とするが、遺物のサイズや性格に応じて変更し、その都度スケールを付した。
5. 遺構図の表現については、以下のスクリーントーンを使用した。

遺構	焼土	竈構築材	竈構築材（泥岩）	竈範囲	硬化面
遺物	内面黒色処理	器面赤彩	断面が黒ベタ表現の土器は須恵器である。		
6. 遺物観察表の法量計算値で、() 内の数値は推定値、() 内の数値は残存値を示した。
7. 調査記録、出土遺物は常陸太田市教育委員会で保管している。

目 次

序	
例言	
凡例	
目次	
第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過と概要	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
(1) 常陸太田市の位置	3
(2) 亀作遺跡の位置と地形・地質	3
第2節 歴史的環境	5
(1) 亀作遺跡について	5
(2) 遺跡分布について	5
(3) 後期旧石器時代の遺跡	7
(4) 繩文時代の遺跡	7
(5) 弥生時代の遺跡	7
(6) 古墳時代の遺跡	7
(7) 奈良・平安時代の遺跡	8
(8) 中世の遺跡	8
(9) 近世の遺跡	8
第3章 調査方法と基本層序	13
第1節 調査方法	13
第2節 基本層序 (第〇図)	14
第4章 遺構と遺物	15
第1節 遺構と遺物の概要	15
第2節 繩文時代	15
(1) 遺構の概要	15
(2) 土坑	15
第3節 古墳時代	16
(1) 遺構の概要	16
(2) 竪穴建物跡	16
(3) 土坑	62
(4) 性格不明遺構	64
(5) ピット	65
第4節 奈良～平安時代	68

(1) 遺構の概要	68
(2) 壴穴建物跡	68
(3) 溝跡	87
(4) 土坑	90
(5) 性格不明遺構	90
第5節 時期不明の遺構	92
(1) 壴穴建物跡	92
(2) 井戸	95
(3) 土坑	96
(4) 性格不明遺構	98
(5) ピット	99
第6節 調査区内出土遺物	100
(1) 繩文時代	100
(2) 弥生時代	100
(3) 古代	100
第5章 総括	104
第1節 地形・立地	104
第2節 遺構の概要	104
(1) 繩文時代の遺構	104
(2) 弥生時代の遺構	104
(3) 古墳時代の遺構	104
(4) 奈良・平安時代の遺構	105
第3節 遺物の概要	105
(1) 繩文時代の土器	105
(2) 弥生時代の土器	105
(3) 古墳時代の土器	105
(4) 奈良・平安時代の土器	106
(5) 鉄製品	106
(6) 土製品・石器・石製品	106
Summary	107
引用・参考文献	109
写真図版	
調査抄録	

挿図目次

第1図	亀作遺跡位置図	第36図	18号堅穴建物跡出土遺物（1）
第2図	亀作遺跡とその周辺の地形区分図・ 地質概念図	第37図	18号堅穴建物跡出土遺物（2）
第3図	亀作遺跡調査区付近図	第38図	19・20号堅穴建物跡
第4図	遺跡分布図	第39図	22・24号堅穴建物跡（1）
第5図	全体図	第40図	22・24号堅穴建物跡（2）
第6図	区割図1	第41図	22号堅穴建物跡出土遺物
第7図	区割図2	第42図	24号堅穴建物跡出土遺物
第8図	区割図3	第43図	25・26・27号堅穴建物跡（1）
第9図	区割図4	第44図	25・26・27号堅穴建物跡（2）
第10図	区割図5	第45図	25号堅穴建物跡出土遺物
第11図	基本層序	第46図	26号堅穴建物跡出土遺物
第12図	8号土坑	第47図	27号堅穴建物跡出土遺物
第13図	8号土坑出土遺物	第48図	28・29・30号堅穴建物跡
第14図	1号堅穴建物跡	第49図	28号堅穴建物跡出土遺物
第15図	1号堅穴建物跡出土遺物	第50図	29号堅穴建物跡出土遺物
第16図	3号堅穴建物跡	第51図	31・32号堅穴建物跡
第17図	3号堅穴建物跡出土遺物	第52図	31号堅穴建物跡出土遺物
第18図	4号堅穴建物跡	第53図	32号堅穴建物跡出土遺物
第19図	6号堅穴建物跡	第54図	36号堅穴建物跡
第20図	7号堅穴建物跡	第55図	36号堅穴建物跡出土遺物
第21図	7号堅穴建物跡出土遺物	第56図	38・39・40・41号堅穴建物跡（1）
第22図	9号堅穴建物跡（1）	第57図	38・39・40・41号堅穴建物跡（2）
第23図	9号堅穴建物跡（2）	第58図	39号堅穴建物跡カマド
第24図	9号堅穴建物跡出土遺物（1）	第59図	38号堅穴建物跡出土遺物
第25図	9号堅穴建物跡出土遺物（2）	第60図	39号堅穴建物跡出土遺物
第26図	10号堅穴建物跡	第61図	40号堅穴建物跡出土遺物
第27図	10号堅穴建物跡出土遺物	第62図	41号堅穴建物跡出土遺物
第28図	11・12号堅穴建物跡	第63図	42号堅穴建物跡
第29図	13号堅穴建物跡	第64図	44・45・46号堅穴建物跡（1）
第30図	14号堅穴建物跡	第65図	44・45・46号堅穴建物跡（2）
第31図	15号堅穴建物跡	第66図	44号堅穴建物跡出土遺物
第32図	15号堅穴建物跡出土遺物	第67図	45号堅穴建物跡出土遺物
第33図	15号堅穴建物跡カマド	第68図	48号堅穴建物跡
第34図	17号堅穴建物跡	第69図	48号堅穴建物跡出土遺物
第35図	18号堅穴建物跡	第70図	49号堅穴建物跡
		第71図	50号堅穴建物跡（1）

- | | | | |
|---------|------------------|---------|----------------------------|
| 第 72 図 | 50 号堅穴建物跡（2） | 第 105 図 | 37 号堅穴建物跡出土遺物 |
| 第 73 図 | 50 号堅穴建物跡カマド | 第 106 図 | 53・54・57・58 号堅穴建物跡 |
| 第 74 図 | 50 号堅穴建物跡出土遺物 | 第 107 図 | 54 号堅穴建物跡出土遺物 |
| 第 75 図 | 51 号堅穴建物跡 | 第 108 図 | 55・56 号堅穴建物跡 |
| 第 76 図 | 51 号堅穴建物跡出土遺物（1） | 第 109 図 | 66 号堅穴建物跡 |
| 第 77 図 | 51 号堅穴建物跡出土遺物（2） | 第 110 図 | 66 号堅穴建物跡出土遺物 |
| 第 78 図 | 52 号堅穴建物跡 | 第 111 図 | 69 号堅穴建物跡 |
| 第 79 図 | 67 号堅穴建物跡 | 第 112 図 | 69 号堅穴建物跡出土遺物 |
| 第 80 図 | 68 号堅穴建物跡 | 第 113 図 | 1 号溝跡 |
| 第 81 図 | 3 号土坑 | 第 114 図 | 1 号溝跡出土遺物 |
| 第 82 図 | 3 号土坑出土遺物 | 第 115 図 | 2 号溝跡 |
| 第 83 図 | 2・3 号性格不明遺構 | 第 116 図 | 2 号溝跡出土遺物 |
| 第 84 図 | 4・5・6 号ピット | 第 117 図 | 12 号土坑 |
| 第 85 図 | 5 号ピット出土遺物 | 第 118 図 | 1 号性格不明遺構 |
| 第 86 図 | 9・10・11・12 号ピット | 第 119 図 | 4 号性格不明遺構 |
| 第 87 図 | 2 号堅穴建物跡 | 第 120 図 | 4 号性格不明遺構出土遺物 |
| 第 88 図 | 2 号堅穴建物跡カマド | 第 121 図 | 時期不明遺構 8 号堅穴建物跡 |
| 第 89 図 | 2 号堅穴建物跡出土遺物 | 第 122 図 | 時期不明遺構 43 号堅穴建物跡 |
| 第 90 図 | 5 号堅穴建物跡 | 第 123 図 | 時期不明遺構 47 号堅穴建物跡 |
| 第 91 図 | 16 号堅穴建物跡 | 第 124 図 | 時期不明遺構 60・61 号堅穴建物跡 |
| 第 92 図 | 16 号堅穴建物跡カマド | 第 125 図 | 時期不明遺構 62 号堅穴建物跡 |
| 第 93 図 | 16 号堅穴建物跡出土遺物 | 第 126 図 | 時期不明遺構 63・64・65 号
堅穴建物跡 |
| 第 94 図 | 21 号堅穴建物跡 | 第 127 図 | 時期不明遺構 |
| 第 95 図 | 21 号堅穴建物跡 | | 63 号堅穴建物跡カマド |
| 第 96 図 | 23 号堅穴建物跡 | 第 128 図 | 時期不明遺構 1 号井戸 |
| 第 97 図 | 23 号堅穴建物跡出土遺物 | 第 129 図 | 時期不明遺構 土坑（1） |
| 第 98 図 | 33・34 号堅穴建物跡 | 第 130 図 | 時期不明遺構 土坑（2） |
| 第 99 図 | 33 号堅穴建物跡カマド | 第 131 図 | 時期不明遺構 5・6 号
性格不明遺構 |
| 第 100 図 | 33 号堅穴建物跡出土遺物 | 第 132 図 | 時期不明遺構 7・8・13 号ピット |
| 第 101 図 | 34 号堅穴建物跡出土遺物 | 第 133 図 | 調査区内出土遺物（1） |
| 第 102 図 | 35 号堅穴建物跡 | 第 134 図 | 調査区内出土遺物（2） |
| 第 103 図 | 35 号堅穴建物跡出土遺物 | | |
| 第 104 図 | 37 号堅穴建物跡 | | |

表目次

第1表	遺跡一覧表	第26表	48号堅穴建物跡出土遺物観察表
第2表	8号土坑出土遺物観察表	第27表	50号堅穴建物跡出土遺物観察表
第3表	1号堅穴建物跡出土遺物観察表	第28表	51号堅穴建物跡出土遺物観察表
第4表	3号堅穴建物跡出土遺物観察表	第29表	3号土坑出土遺物観察表
第5表	7号堅穴建物跡出土遺物観察表	第30表	5号ピット出土遺物観察表
第6表	9号堅穴建物跡出土遺物観察表	第31表	2号堅穴建物跡出土遺物観察表
第7表	10号堅穴建物跡出土遺物観察表	第32表	16号堅穴建物跡出土遺物観察表
第8表	15号堅穴建物跡出土遺物観察表	第33表	21号堅穴建物跡出土遺物観察表
第9表	18号堅穴建物跡出土遺物観察表	第34表	23号堅穴建物跡出土遺物観察表
第10表	22号堅穴建物跡出土遺物観察表	第35表	33号堅穴建物跡出土遺物観察表
第11表	24号堅穴建物跡出土遺物観察表	第36表	34号堅穴建物跡出土遺物観察表
第12表	25号堅穴建物跡出土遺物観察表	第37表	35号堅穴建物跡出土遺物観察表
第13表	26号堅穴建物跡出土遺物観察表	第38表	37号堅穴建物跡出土遺物観察表
第14表	27号堅穴建物跡出土遺物観察表	第39表	54号堅穴建物跡出土遺物観察表
第15表	28号堅穴建物跡出土遺物観察表	第40表	66号堅穴建物跡出土遺物観察表
第16表	29号堅穴建物跡出土遺物観察表	第41表	69号堅穴建物跡出土遺物観察表
第17表	31号堅穴建物跡出土遺物観察表	第42表	1号溝跡出土遺物観察表
第18表	32号堅穴建物跡出土遺物観察表	第43表	2号溝跡出土遺物観察表
第19表	36号堅穴建物跡出土遺物観察表	第44表	4号性格不明遺構出土遺物観察表
第20表	38号堅穴建物跡出土遺物観察表	第45表	時期不明遺構計測表 堅穴建物跡
第21表	39号堅穴建物跡出土遺物観察表	第46表	時期不明遺構計測表 井戸
第22表	40号堅穴建物跡出土遺物観察表	第47表	時期不明遺構計測表 土坑
第23表	41号堅穴建物跡出土遺物観察表	第48表	時期不明遺構 性格不明遺構
第24表	44号堅穴建物跡出土遺物観察表	第49表	時期不明遺構 ピット
第25表	45号堅穴建物跡出土遺物観察表	第50表	調査区内出土遺物観察表

写真図版目次

- 図版 1 亀作遺跡景観（北から） 調査区完掘状況（上空から）
- 図版 2 SI01 検出状況（北東から） SI09 検出状況（南西から） SI18・SX02・03 遺構検出状況（西から） SI19 遺物検出状況（南西から） SI07 検出状況（北北東から） SI15 検出状況南（西から） SI18-1・2号炉・遺物検出状況（東から） SI24・SK01 遺物出土状況（北から）
- 図版 3 SI24 遺物検出状況（東から） SI32 検出状況（南西から） SI39 竈検出状況（西から） SI44 検出状況（南西から） SI29 遺物検出状況（南西から） SI38 遺物検出状況（南から） SI40 遺物検出状況（東から） SI48 遺物検出状況（北から）
- 図版 4 SI48 検出状況（西から） SI50 遺構検出状況（西から） SI50 管玉検出状況（西から） SK03 遺物検出状況（東から） SI48 紗錘車検出状況（北から） SI50 囲竈検出状況（北から） SI51 遺物検出状況（西から） PIT05 遺物検出状況（東から）
- 図版 5 SI02 検出状況（東北東から） SI33 遺物検出状況（西から） SD01 遺物検出状況（南から） SK-12 遺構検出状況（北から） SI02 竈検出状況（南西から） SI65 検出状況（西から） SD01 西側検出状況（北から） SE01 完掘状況（東から）
- 図版 6 遺物図版（1）
- 図版 7 遺物図版（2）
- 図版 8 遺物図版（3）
- 図版 9 遺物図版（4）
- 図版 10 遺物図版（5）
- 図版 11 遺物図版（6）
- 図版 12 遺物図版（7）
- 図版 13 遺物図版（8）

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

常陸太田市は、市道 0112・4166・4168 号線（亀作中角線）道路改良工事を進めている。市道 0112・4166・4168 号線は、亀作町内を南北にはしる道路で狹隘な区間も散見されるなど、通行上支障をきたす状況にあったことから、利便性の向上を目的とした道路拡幅工事が計画された。

平成 29 年度、常陸太田市建設部建設課より「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」による照会が提出された。これを受け、常陸太田市教育委員会では、茨城県遺跡地図の確認ならびに現地踏査を行い、工事予定箇所内に亀作遺跡（茨城県遺跡地図番号 212054）が所在することを確認。包蔵地範囲内で道路拡幅工事が計画されたため、工事予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が所在し、試掘調査を実施し遺構及び遺物包含層の状況を確認する必要があり、文化財保護法第 94 条第 1 項に基づく通知をする必要がある旨を回答した。

試掘調査は、道路工事が予定されている亀作町 1174 番ほかにおいて平成 29 年 11 月 10・11 日及び平成 30 年 1 月 11・12 日に実施。道路の計画法線に沿った形でトレンチ 6 本を設定し、重機使用により地表面まで掘下げ、遺構の有無を確認した。試掘によって複数の住居跡が確認され、縄文土器や土師器が確認された。

この結果を踏まえ工事主体者である市土木部建設課と協議を行い、遺構に対する保護措置が困難であることから、発掘調査を実施し、記録保存を行なうことで合意した。

これを受け常陸太田市教育委員会では、亀作町 1174 番ほかの工事対象区域の内、600m 以内を調査対象として発掘調査による記録保存を実施することとし、平成 30 年 10 月 31 日、㈱東京航業研究所と業務委託契約を締結。発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査の経過と概要

亀作遺跡第 1 次調査は、平成 30 年 11 月 26 日より 3 月 29 日まで約 4 ヶ月間実施した。調査に先立ち調査担当者は、常陸太田市教育委員会と発掘調査に関する事前打ち合わせを実施し、調査に着手した。

11 月 26 日、現地において北北東の県道側から重機による掘削を開始した。廃土は、調査区間にブルー・シートを敷いて置いた。翌 11 月 27 日には、機材搬入および、基準点、ベンチマークの設定を行った。11 月 28 日は、市道側に安全対策の施柵を行った。

11 月 30 日で重機による表土の掘削が終了し、南南西の調査区から検出面と壁の清掃、遺構確認を行った。12 月 3 日より、遺構の確認と掘削を開始したが、調査区の端から竪穴住居跡が面的に確認され始め、集落遺跡であることが判明したため、切り合い関係を確認しながら遺構の調査を展開した。12 月末までに竪穴住居跡 25 軒を確認し調査を行った。

平成 31 年 1 月は 4 日から現地作業を開始した。冷え込みが厳しかったが晴天に恵まれ調査は順調に進行した。竪穴住居跡は、古墳時代後期から奈良時代の時期のものが多い傾向にあることがこの頃判明した。1 月末までに、竪穴住居跡は 57 軒登録された。

2 月も引き続き竪穴住居跡の調査を実施したが、遺構の切り合い関係があるために、先後関係の

新しい遺構から調査を実施した。2月19日に残りの竪穴住居跡の断面図を作成し、測量作業、景観写真の撮影、終了確認の検査を実施し、機材の片づけを行った。翌日より重機による調査区廃土の埋め戻しを開始し、機材の片づけ、書類、図面の整理を行った。埋め戻し作業は23日に終了した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

(1) 常陸太田市の位置（第1図）

茨城県常陸太田市は、茨城県の北東部で県都水戸市から北に約20kmに位置している。市制は、昭和29年7月に周辺の1町6村が合併して施行され、翌年には久慈郡世谷村、河内村が、さらに平成16年12月には久慈郡金砂郷村、水府村、里美村が編入し、現在に至っている。

常陸太田市の総面積は、371.99km²で茨城県内の自治体で最大の面積を有する南北40km、東西15kmの範囲で、現在の市役所の位置は北緯36度32分18秒、東経140度31分52秒である。市域は北部が福島県東白川郡矢祭町、北東は高萩市、東から南東は日立市、南部は那珂市、北西は久慈郡大子町、西から南西は常陸大宮市に接している。

現在の常陸太田市の人口は、48,573人（令和2年2月1日現在）である。

(2) 亀作遺跡の位置と地形・地質（第1・2図）

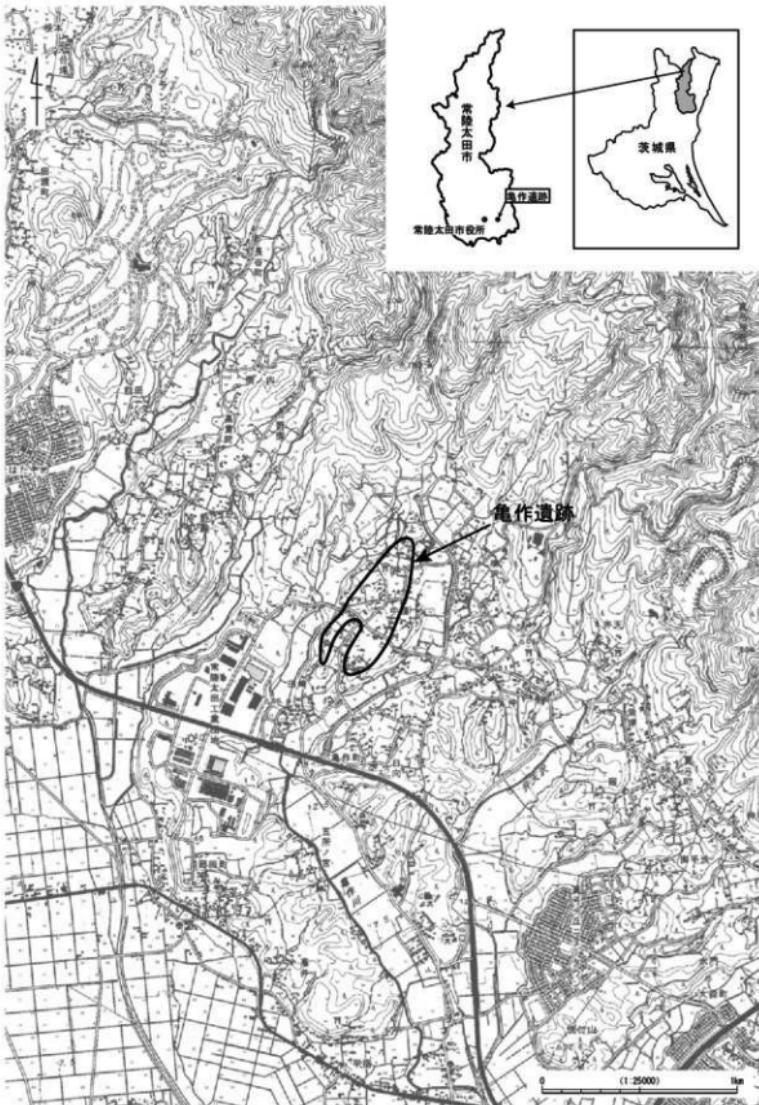
亀作遺跡が立地する地形は、標高約40mの上位砂礫台地の南西方向に舌状に延びる台地の平坦面で現況は畑地であり、台地の西側を亀作川、東側を亀作川の支流の大沢川に挟まれ各河川により浸食され樹枝状に開析されている。各河川の上流には、湧水やため池があり、その下流に谷津田が形成されている。遺跡を取り囲む景観は、北西から北、さらに東方向に日立変成岩で構成される多賀山地が標高を南方向に減じながら連なっている。亀作遺跡の北西から西、南方向の台地は宅地や畠地、林地として利用され、台地の北東から東、南方向は宅地と畠地があり、大沢川沿いの崖線が続き、南方向は宅地と畠地があり台地が標高を減じながら、谷底平野に接続している。谷底平野には、沖積層が厚く堆積しており、現在でも田地として利用されている。

多賀山地は、阿武隈高地南部に属し、2回の地下のマグマの乾入で形成された花崗岩との接触と高圧で形成された変成岩からなり、「阿武隈隆起準平原」と称される数段の浸食小起伏面の地形で構成される（早川2006）。この山地は、北側は太平洋に面し、山地の起伏は小さく、東に緩く傾斜する高原状の地形をなし、山稜の標高は約300m～約600mを測る。変成岩は日立変成岩と称されており、阿武隈高地南端の主部を占めて分布する、緑色の角閃岩、緑色片岩、石英が多く灰白色の珪長質岩、黒色の粘板岩とこれらに挟まれた石灰岩などで構成されている（常陸太田市史編さん委員会1984）。石灰岩は一部結晶質石灰岩となり、真弓の大理石と称されている岩石であるが（常陸太田市史編さん委員会1984）、遺跡の北東には採掘場が位置している。

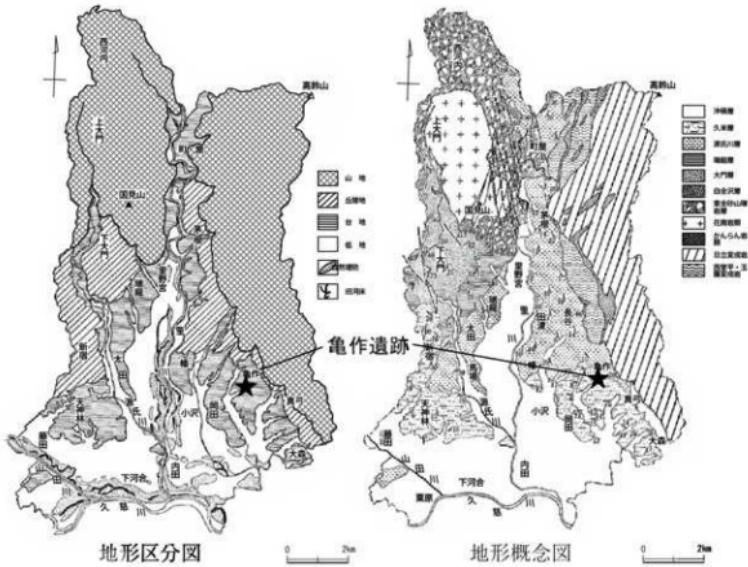
台地の基盤を構成する地層は、第三紀中新世の海成層、塊状泥岩で構成される源氏川層である。

源氏川層は、塊状泥岩を主体とし、化石の産出は少ない。源氏川層は、上層と下層の珪藻や放散虫化石の年代に大きな隔たりがあることから、層中に未確認の不整合面が存在する可能性があるという（常陸太田市史編さん委員会1984）。

遺構が検出された地層は、表層下のローム層までであり、検出面の深度は約1.5m以内の深さである。ローム層は、後期更新世に堆積した風成層および土壤化した火山灰層で構成されているが、指標となる広域、地域火山灰については未分析であり、不明な点が多い。



第1図 亀作遺跡位置図



第2図 亀作遺跡とその周辺の地形区分図・地質概念図（常陸太田市史編さん委員会 1984に加筆）

第2節 歴史的環境

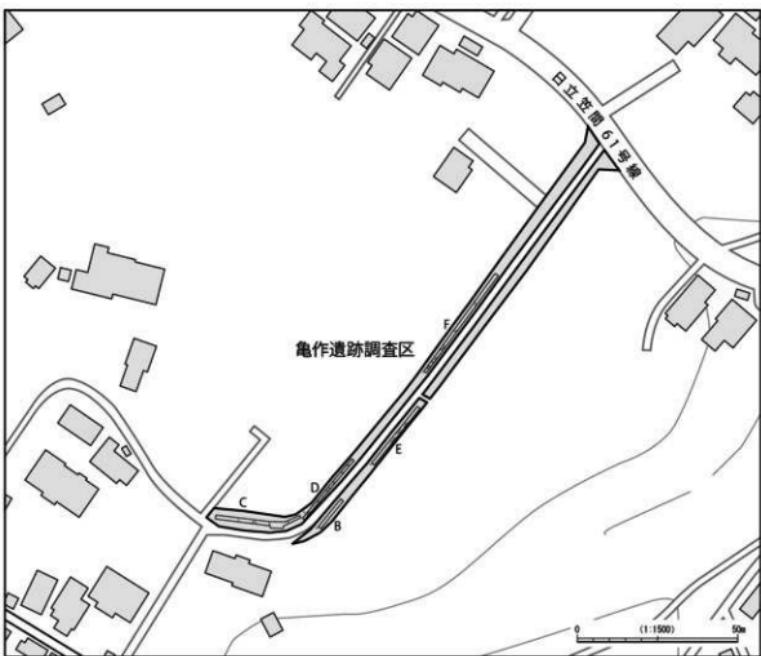
(1) 亀作遺跡について（第3図）

亀作遺跡（茨城県遺跡地図番号 08212054）は、茨城県の埋蔵文化財包蔵地の台帳において、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良・平安時代までの広い面積の集落跡の遺跡として登録されている。周辺の遺跡を含めた多くの遺跡は現在まで調査されず保存されている。

(2) 遺跡分布について（第4図・第1表）

亀作遺跡周辺の遺跡分布を概観すると、縄文時代から近世までの遺跡が、河川単位ごとの台地上に所在している。時代ごとの遺跡分布の傾向をみると、縄文時代から弥生時代の遺跡数が増し、弥生時代から古墳時代の遺跡数は爆発的に増加しており、亀作遺跡の周辺地域に移住と土地開発が実行されたものと推定される。奈良・平安時代になると遺跡数は減少し、中世にはさらに減少し、近世は僅かに1遺跡のみとなる。しかし、亀作遺跡の周辺の発掘調査の事例は過少なため、今後の調査により遺跡数が増加する可能性が高い。

遺跡分布の大きなまとめりは、各河川沿いの台地上で確認され、里川左岸（No.20～33）、茂宮川流域（上流：No.35～39、下流No.10～19・45・56）、亀作川両岸（上流からNo.40～44・1・4）、



第3図 亀作遺跡調査区付近図

大沢川左岸（No.2・3）、弁天沢左岸（No.39～42）、亀作川支流の幡江用水路とその支流（No.43～55）に分布している。

（3）後期旧石器時代の遺跡

後期旧石器時代の遺跡は、前官遺跡でメノウ製の石刃が発見されたと報じられているが詳細は不明であり（常陸太田市教育委員会 2011）、市内において明確な遺跡は確認されていないが、風成層と火山灰が堆積する段丘面が数多く存在することから、当該期の遺跡が存在する可能性が高いものと思われる。

（4）縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡は、台地上や低位面、湧水点の周辺に分布している。里川左岸では幡山遺跡（No.18）、幡台遺跡（No.21）など台地上の大集落と森東貝塚（No.25）や篠崎貝塚（No.26）などの低位面の貝塚などが分布する。茂宮川流域は、前田遺跡（No.11）、大集落と推定される高貴遺跡（No.10）、下流の台地では岡田台遺跡（No.29）、岡田台貝塚（No.31）、高井貝塚（No.35）、小目貝塚（No.36）など低位面や谷頭の貝塚が分布する。高貴川流域では馬舟遺跡（No.6）が分布する。亀作川流域には亀作遺跡（No.1）、亀作遺跡より東側の弁天沢流域には、真弓宿遺跡（No.41）、塚原遺跡（No.40）が分布する。

（5）弥生時代の遺跡

弥生時代の遺跡は、台地上に点在して分布している。里川左岸では、幡山遺跡、幡台遺跡（No.11）が分布している。茂宮川流域には高貴遺跡、岡田台遺跡、岡田台貝塚などが分布している。亀作川流域には、亀作遺跡、田崎南遺跡（No.4）、日向遺跡（No.3）などが分布している。弁天沢流域には、真弓宿遺跡、塚原遺跡が分布する。

（6）古墳時代の遺跡

古墳時代の遺跡は、ほぼ全ての台地上に台地上に点在して分布しており、亀作遺跡周辺に多くの移住者が河川、水運、低地などの土地利用した経済活動を開始したものと推定される。里川流域には、幡山北横穴墓群（No.14）、幡山西横穴墓群（No.8）、生産址の幡山須恵器窯跡（No.15）、幡山遺跡、幡山古墳群（No.17）、幡山東横穴墓群（No.19）、幡台下遺跡（No.20）、幡台古墳群（No.17）、幡台遺跡、幡パッケ横穴墓群（No.23）などが密集して分布している。

茂宮川流域には、高貴遺跡、高貴古墳群（No.9）、高貴西横穴墓群（No.8）、よい塚古墳（No.27）、入淨塚古墳（No.28）、岡田台遺跡、岡田台貝塚、高井塚古墳（No.32）、高貴川流域に高貴東横穴墓群（No.7）などが分布している。亀作川流域には、馬舟古墳（No.5）、亀作遺跡、田崎南遺跡、西真弓遺跡（No.26）、日向遺跡・日向古墳群、箕ノ輪古墳（No.38）などが分布している。弁天沢流域には、塚原遺跡、真弓宿遺跡、仲城遺跡（No.43）、風張遺跡（No.44）、釜田横穴墓群（No.45）、水門横穴墓群（No.46）などが分布している。幡江用水路支流では、西山根遺跡（No.48）、山根遺跡（No.49）、山根横穴墓群（No.51）、丹奈横穴墓群（No.52）、丹奈遺跡（No.53）などが分布している。

（7）奈良・平安時代の遺跡

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代より遺跡数が減少し、台地単位で密集するように分布している。里川流域では轄台下遺跡、轄台遺跡、茂宮川流域で高貫遺跡、岡田台遺跡、岡田台貝塚、高井遺跡などが分布している。亀作川流域には、亀作遺跡、田崎南遺跡、西真弓遺跡、日向遺跡などが分布している。弁天沢流域には、塚原遺跡、真弓西遺跡、仲城遺跡、風張遺跡などが分布している。轄江用水路支流には、西山根遺跡、山根遺跡、丹奈遺跡などが分布している。

（8）中世の遺跡

中世の遺跡は、奈良・平安時代より遺跡数がさらに遺跡数が減少し、館跡、城跡、寺院など地域的な有力者の居住地、居城などが分布し、政治経済的領域が確立されつつあったものと推定される。10世紀ごろには古代の郡体制が崩壊して新たな政治経済的領域が形成されており、里川を挟んだ東側は佐都東郡と呼ばれ、亀作遺跡の所在する世矢郷を含んでいた（常陸太田市史編さん委員会 1984）。里川流域には、田渡城跡（No.13）、轄館跡（No.24）などが分布している。茂宮川流域には、長谷寺院跡（No.12）、岡田館跡（No.30）、高井館跡（No.33）、小目館跡（No.37）などが分布している。轄江用水路支流には、瀬谷館跡（No.42）、薄井館跡（No.47）、岡部館跡（No.50）など館跡が台地の高所に密集している。下流では丹奈館跡（No.54）、大橋城跡（No.55）などが分布している。

（9）近世の遺跡

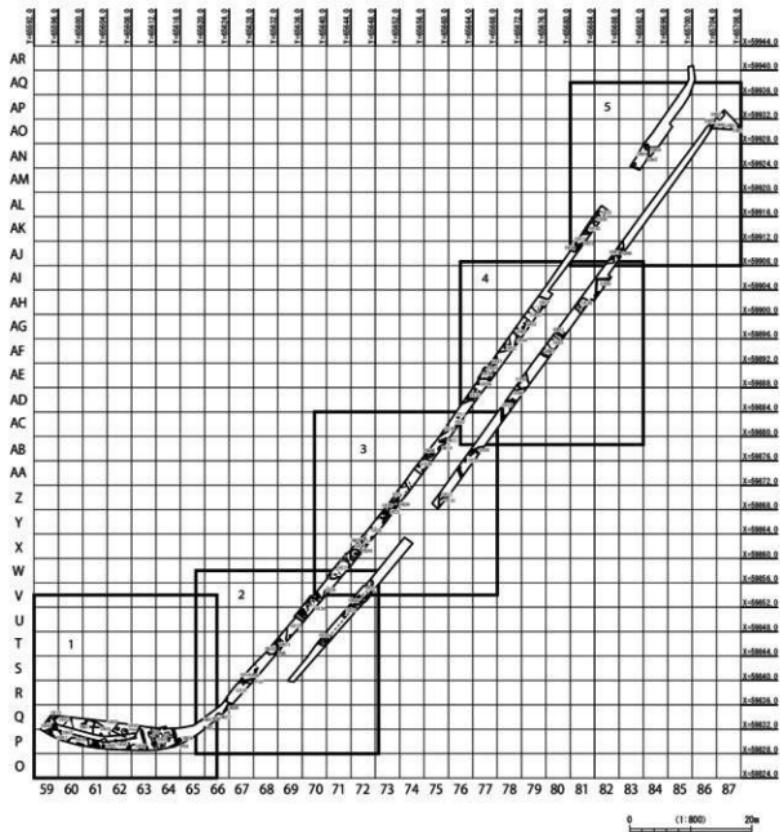
近世の遺跡は、過少であり茂宮川下流域の田中内一里塚遺跡（No.56）のみである。



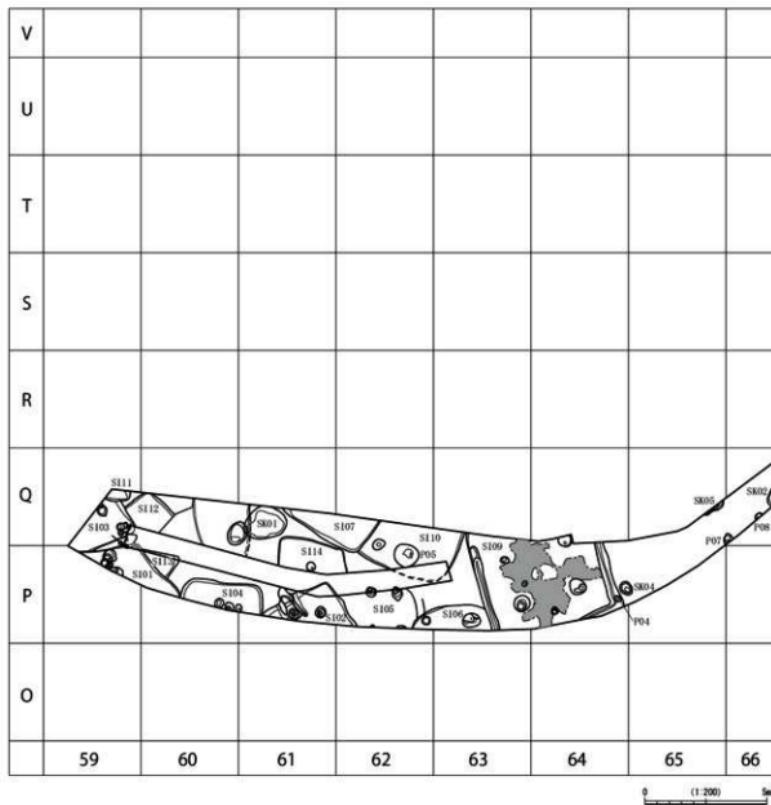
第4図 遺跡分布図

第1表 遺跡一覧表

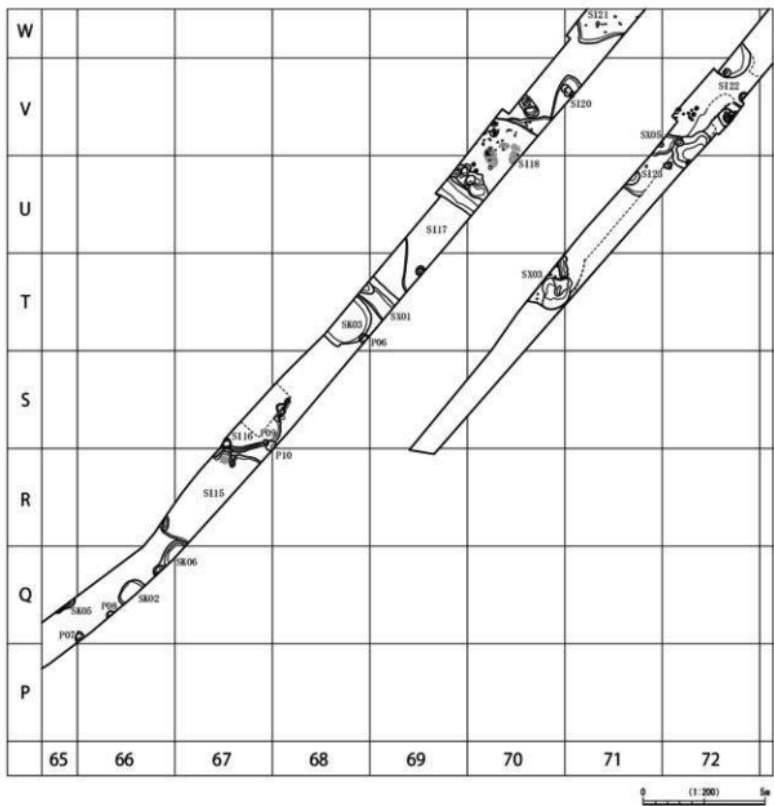
No	遺跡名	立地	時代・時期				
			绳文	弥生	古墳	奈良 平安	中世
1	亀作遺跡	亀作川右岸・上位砂礫台地	○	○	○	○	
2	西真弓遺跡	亀作川左岸・上位砂礫台地			○	○	
3	日向遺跡・ 日向古墳群	亀作川左岸・上位砂礫台地		○	○	○	
4	田崎南遺跡	亀作川右岸・下位砂礫浸食段丘群		○	○	○	
5	馬舟古墳	高貫川左岸・崖および斜面			○		
6	馬舟遺跡	高貫川左岸・上位砂礫台地	○				
7	高貫東横穴墓群	高貫川右岸・崖および斜面			○		
8	高貫西横穴墓群	茂宮川左岸・崖および斜面			○		
9	高貫古墳群	茂宮川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○		
10	高貫遺跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○	
11	前田遺跡	茂宮川右岸・崖および斜面	○				
12	長谷寺院跡	茂宮川右岸・丘陵				○	
13	田渡城跡	里川左岸・丘陵				○	
14	鶴山北横穴墓群	里川左岸・中位砂礫台地・崖および斜面			○		
15	舩山須恵器窯跡	里川左岸・丘陵			○		
16	鶴山西横穴墓群	里川左岸・下位砂礫浸食段丘群・自然堤防・崖および斜面			○		
17	鶴山古墳群	里川左岸・上位砂礫台地			○		
18	舩山遺跡	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面・丘陵	○	○	○		
19	舩山東横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面	○		○		
20	塙台下遺跡	里川左岸・下位砂礫浸食段丘群・自然堤防			○	○	
21	塙台遺跡	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面	○	○	○	○	
22	塙台古墳群	里川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○		
23	鶴バケケ横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○		
24	舩館跡	里川左岸・上位砂礫台地				○	
25	森東貝塚	里川左岸・谷底平野	○				
26	蘿崎貝塚	里川左岸・中位砂礫段丘群			○		
27	よい塙古墳群	茂宮川左岸・崖および斜面			○		
28	入淨塙古墳	亀作川右岸・崖および斜面			○		
29	岡田台遺跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○	
30	岡田船跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地				○	
31	岡田台貝塚	茂宮川左岸・崖および斜面	○	○	○	○	
32	高井塙古墳	茂宮川左岸・崖および斜面			○		
33	高井船跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地			○		
34	高井遺跡	亀作川右岸・上位砂礫台地			○	○	
35	高井貝塚	亀作川右岸・崖および斜面	○				
36	小目貝塚	茂宮川左岸・崖および斜面	○				
37	小目船跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地・崖および斜面				○	
38	真ノ輪古墳	亀作川左岸・崖および斜面			○		
39	塙原古墳群	弁天沢左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○		
40	塙原遺跡	弁天沢左岸・上位砂礫台地・崖および斜面	○	○	○	○	
41	真弓遺跡	弁天沢左岸・上位砂礫台地			○	○	
42	瀧原船跡	弁天沢支流谷頭・丘陵				○	
43	仲城遺跡	弁天沢支流左岸・上位砂礫台地～丘陵			○	○	
44	鳳張遺跡	弁天沢支流左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○	○	
45	釜田横穴墓群	弁天沢支流左岸・崖および斜面			○		
46	水門横穴墓群	轟江用水路左岸・崖および斜面			○		
47	薄井船跡	轟江用水路支流谷頭右岸・上位砂礫台地				○	
48	西山根遺跡	轟江用水路支流谷頭・上位砂礫台地			○	○	
49	山根遺跡	轟江用水路支流左岸・上位砂礫台地			○	○	
50	岡部船跡	轟江用水路支流左岸・崖および斜面			○		
51	山根横穴墓群	轟江用水路支流右岸・崖および斜面			○		
52	丹奈横穴墓群	轟江用水路支流左岸・崖および斜面			○		
53	丹奈遺跡	轟江用水路支流左岸・上位砂礫台地・崖および斜面			○	○	
54	丹奈船跡	轟江用水路支流左岸・上位砂礫台地・崖および斜面				○	
55	大橋城跡	轟江用水路左岸・崖および斜面				○	
56	田中内一里塚	茂宮川右岸・後背湿地					○



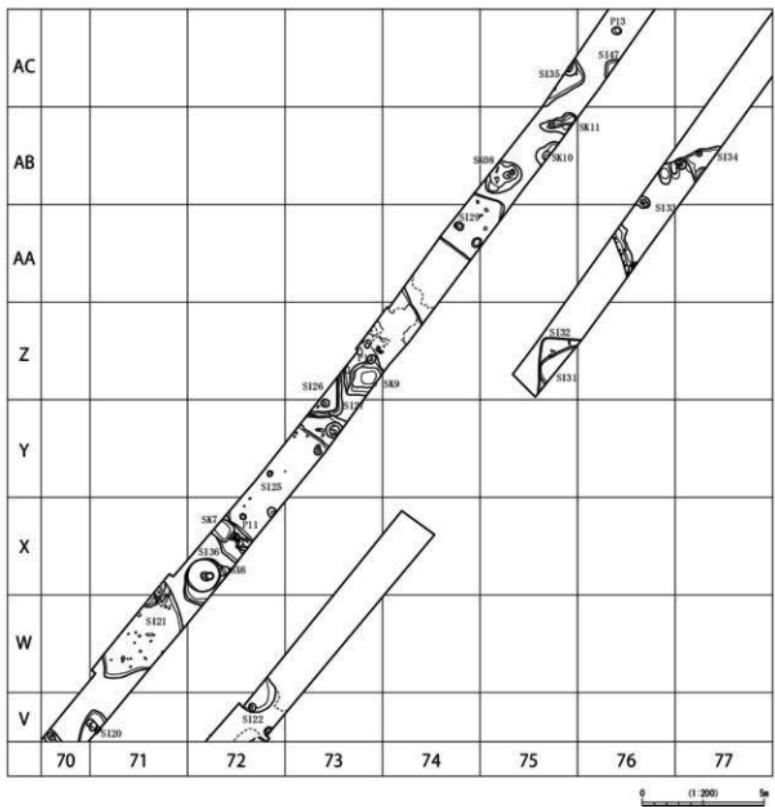
第5図 全体図



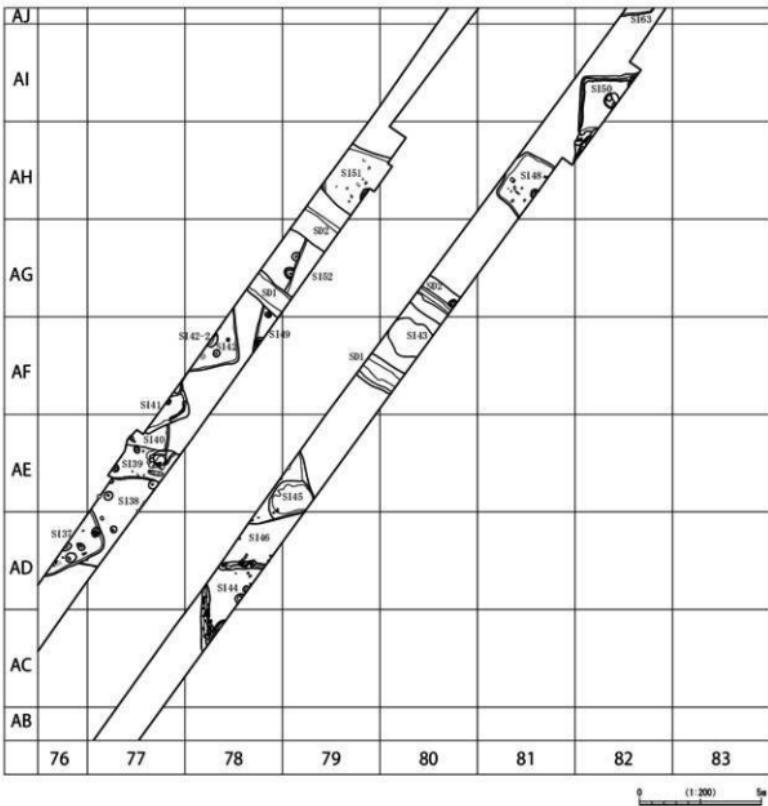
第6図 区割図1



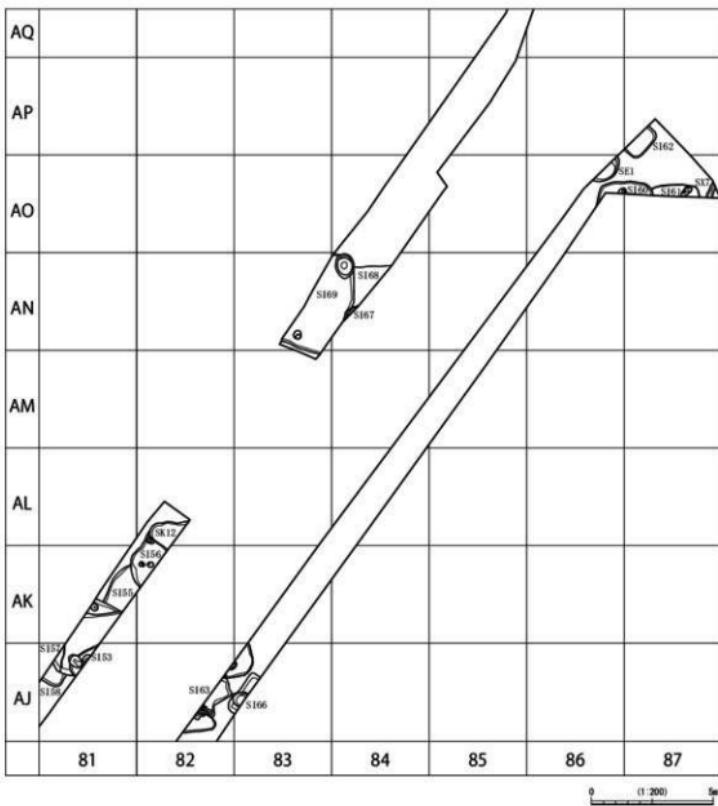
第7圖 区割図2



第8図 区割図3



第9図 区割図4



第10図 区割図5

第3章 調査方法と基本層序

第1節 調査方法

第1次発掘調査は、調査範囲内の表土を試掘調査で遺構が確認された深度まで掘削し除去した。重機による表土の掘削後、人力による検出面と壁面の精査を実施し、土層、遺構確認作業を実施した。

グリッドは4m間隔で設定し、調査区の南西角を基準としたX軸をアルファベットのAから、Y軸を自然数の1から順番に振り分けて区画し、X軸とY軸のアルファベットと自然数の組み合わせをグリッド名とした。グリッドの基準線は、公共座標（世界測地系）を利用して設定した。

土層確認作業を実施したのち、自然層の基本層序を観察し、記録、図化した。遺構は、遺構確認面での遺構確認作業の終了後に、遺構内の土蔵の堆積状況の形状、特徴を確認するために、ほぼ直角に交わるように十字、あるいは一字の土層観察用のベルトを設定して覆土の掘削を実施した。また、遺構の規模が大きい場合、あるいは遺構の重複が著しい場合、土層観察と遺構の先後関係確認のためのベルトを複数設定して掘削し、土層の堆積状況と遺構の形状の特徴を観察した。カクランが著しく遺構の輪郭が不定形の場合は、遺構の堆積状況や特徴が良好に把握でき位置に任意にベルトを設定し精査を行った。遺構の精査に関しては、土層の断面図と土層注記を作成、写真を撮影し、遺物は覆土の上層から検出されたもの、カクラン層出土のもの、小形のものは一括遺物として収納したが、大形のもの、遺構の床面と床面付近、窓内から出土した遺物は、検出状況を撮影し遺物を測量してから収納した。

測量図のスケールは、断面は遺構では1/20、窓では1/10、平面図、微細図は、遺物平面分布図では1/20、炉跡や窓の微細図や遺物平面分布図では1/10とした。

遺構の測量は、アナログ図化の図面以外に、写真測量を併用して、断面図、遺物微細図、遺構平面図を上記のスケールで作成した。作成した図面は、番号順に登録し図面台帳に記入した。

デジタル測量が間に合わない場合は、簡易的な遺り方測量を実施するために、任意の測量基準点を二点以上検出面上に設定し、遺構、遺物の測量図の作成に使用した。これらの測量で用いた測量基準点は、後に設定位置を測量して、デジタル図面に合成した。

写真記録は、一眼レフ・デジタル・カメラ(Canon EOS6D:2,020万画素)を使用した。写真撮影は、平成29年度の文化庁の指針に則り、データはRAWとJPEGのデータ保存の設定で、写真台帳に必要事項を記録し、写真タイトル撮影後、デジタル・グレー・カードを撮影してから、2カット被写体を撮影した。また、必要に応じて、1,600万画素のコンパクト・デジタル・カメラを用いて記録データを撮影、保存した。遺跡の全景、景観写真は弊社所蔵のドローンを使用して撮影した。

出土遺物は、遺跡略称(KS)、グリッド名、出土位置、遺構名、測量取り上げ番号、日付などをラベルに記入し、日付の古い順に収納番号を付した後、遺物収納台帳に記入し保管した。出土遺物は、現地調査と並行して洗浄、注記、保存処理などを行い、発掘調査終了後に、遺物収納台帳と共に、遺物収納用のテン箱に収めて納品した。

第2節 基本層序（第11図）

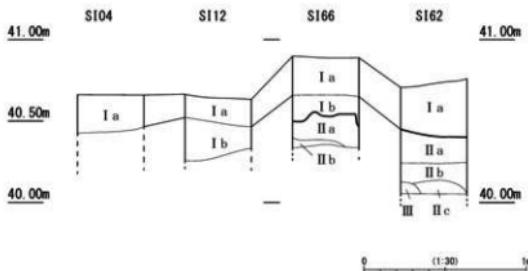
発掘調査区は、南西から北東方向に細長く続き、畠地の耕作で遺跡が攪乱されているため、連續的な土層の堆積状況を示していない。また、北東隅では埋没谷が検出され、淡色黒ボク土、黒ボク土の厚い堆積層が検出された。こうした制約があったが、遺構の土層断面の観察において記録した土層から基本層序を作成した。

I a層（表土・耕作土）は黒褐色土とI b層は黒褐色土、あるいは暗褐色である。ローム塊、ローム粒子を含む。12号竪穴建物跡の土層ではI c層（黒褐色土）が確認され火山灰と思われる白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。

II a～c層は黒ボク土で調査区の北東側の埋没谷に近い場所で検出されている土層である。II a層は黒褐色土でローム塊を部分的に、ローム粒子を全体に含む。II b層は暗褐色土でローム塊とローム粒子を全体に多く含む。II c層は黒褐色土でローム塊を部分的に、ローム粒子を全体に多く含む。

III層は黒ボク土とローム層との漸移層で、ローム塊とローム粒子を全体に多量に含む。多くの遺構はII c～III層の検出面において確認している。

これらの基本層序において、白色粒子を含む土層が観察されるが、この物質は地域火山灰の粒子の一部である可能性がある。今後、地域的な地誌、火山灰編年学、遺跡の相対的な年代決定のために、遺跡単位の火山灰分析が実施される必要がある。



基本層序	
I a	黒褐色土 103R2/2 粘性なし、しまり強い。ローム塊、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に含む。
I b	黒褐色土 103R2/2 粘性なし、しまり強い。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、ローム塊（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）、健土（ $\phi 10 \sim 100\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。
I c	黒褐色土 103R2/3 粘性なし、しまり強い。ローム塊、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量に含む。
II a	黒褐色土 103R2/2 粘性なし、しまり強い。ローム塊（ $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に含む。
II b	暗褐色土 103R3/3 粘性なし、しまり強い。ローム塊、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
II c	黒褐色土 103R2/2 粘性なし、しまり強い。ローム塊を部分的に多量に、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
III	褐色土 7.51R6/8 粘性なし、しまり強い。ローム塊、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

第11図 基本層序

第4章 遺構と遺物

第1節 遺構と遺物の概要

第1次調査では、縄文時代から平安時代にわたる堅穴建物跡68軒、溝跡2条、土坑12基、性格不明遺構7基、ピット10基などを検出した。

出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器（斧形石器、砥石、敲石、礫器、台石）、土製品（紡錘車、支脚）、石製品（紡錘車、管玉、竪構築材）、鉄製品（鉄鎌、刀子、鉄滓）などが出土した。

第2節 縄文時代

(1) 遺構の概要

縄文時代の遺構は、土坑が1基検出されている。

(2) 土坑

8号土坑（第12・13図、第2表、図版6）

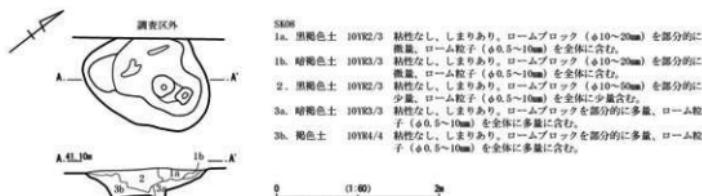
平面位置 AB - 75 グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構の平面形は不定形で、床は部分的に凹凸があり、壁は南西では急角度で、南から北側は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土（黒ボク土）を主体とし、暗褐色土と褐色土を含む自然堆積である。

遺物 遺物は、口縁部に竹管の刻み、器面に沈線が施された縄文時代後期の土器（第13図1）が検出されている。

時期 出土遺物と覆土（黒ボク土）の特徴から縄文時代後期以前と推定される。



第12図 8号土坑



第13図 8号土坑出土遺物

第2表 8号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	調文土器 深鉢	口径:- 高さ:(4.5) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石・微砂 粒	良好	5以下	灰褐色 (7.5YR5/2)	ヘラ状工具で沈線を描く。口唇部同一 の工具によるキザミ。

第3節 古墳時代

(1) 遺構の概要

古墳時代は、竪穴建物跡42軒、溝跡1条、土坑1基、性格不明遺構3基、ピット7基などが検出されている。遺構は、調査区の南西から北東の範囲まで、連続して分布しており、長期的に活発に土地利用が行われていたものと推定される。

(2) 竪穴建物跡

1号竪穴建物跡（第14・15図、第3表、図版2・6）

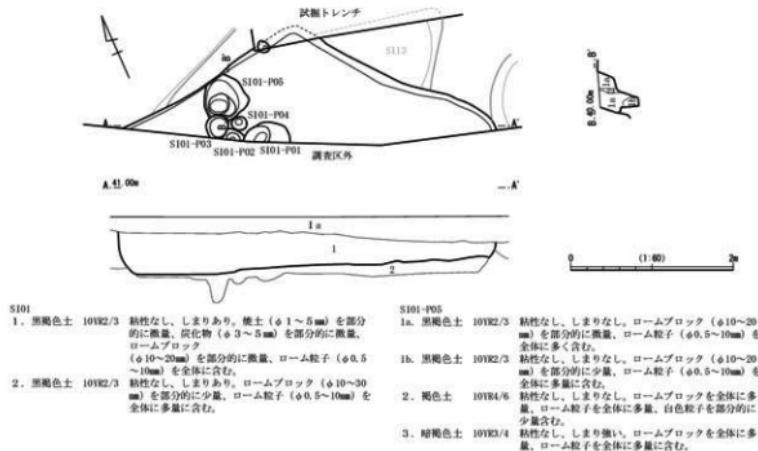
平面位置 P・Q - 59・60 グリッド

重複関係 3・4・12号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、北東角から北西と南東の壁の一部と床が検出されて、平面サイズは長軸2.42m、短軸1.74m、遺構検出面からの深さは最大で0.5mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が5基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 覆土から須恵器瓶（第15図1）が検出されている。

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第14図 1号竪穴建物跡



第15図 1号竪穴建物跡出土遺物

第3表 1号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	須恵器 瓶	口径:- 高さ:(11.6) 底径:-	白色粒子・石英	良好	5	灰色(7.5Y5/1)	外面カキ目。内面成形時の指觸痕を残す。

3号竪穴建物跡（第16・17図、第4表、図版6）

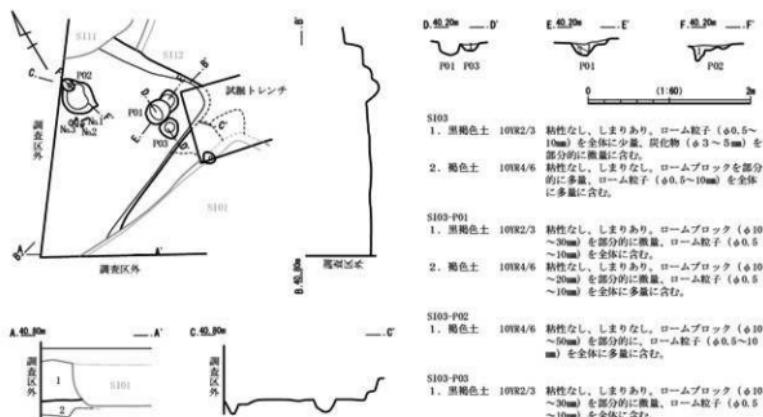
平面位置 P・Q - 59グリッド

重複関係 12・13号竪穴建物跡より新しく、1・11号竪穴建物跡より古い。

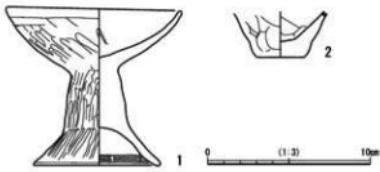
遺構形態 遺構は、南東角から東壁と南壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸281m、短軸1.79m、遺構検出面からの深さは最大で0.5mである。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱く、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が3基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器の高坏（第17図1）手づくね土器（第17図2）、壺、砂岩製の砥石、磨石などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第16図 3号竪穴建物跡



第17図 3号堅穴建物跡出土遺物

第4表 3号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:10.7 高さ:9.6 底径:7.7	赤色粒子・微砂粒	良好	95	明赤褐色 (SYR5/6)	外面ハケ調整後、环部斜位。脚部底三 刃半。内面环部ナデ。脚部ハケ調整。 内外面赤彩。
2	土師器 ミニチュア	口径: 高さ:(2.8) 底径:1.5	石英	良好	70	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	内外面ナデ。

4号堅穴建物跡（第18図）

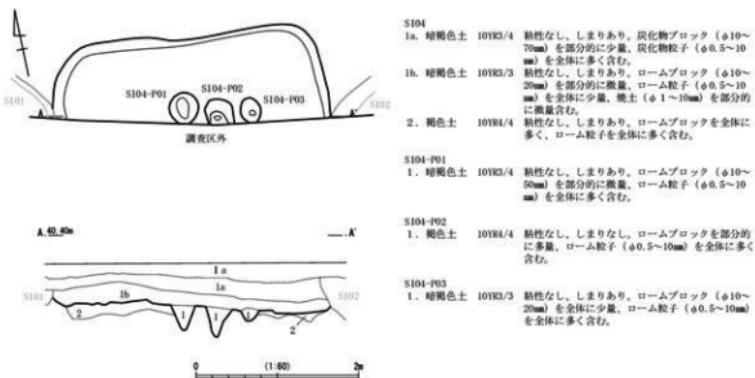
平面位置 P - 60・61 グリッド

重複関係 1・2号堅穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁、東壁と西壁の一部が検出され、平面サイズは長軸3.37m、短軸1.2m、遺構表面からの深さは最大で0.42mである。床は踏み縮まりがあり部分的に凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が3基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第18図 4号堅穴建物跡

6号竪穴建物跡（第19図）

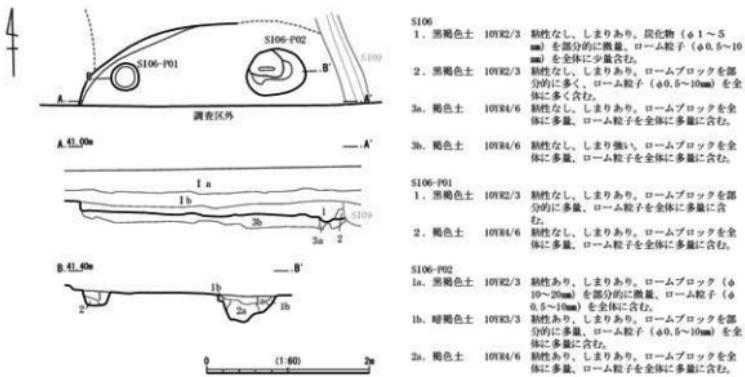
平面位置 P - 62・63 グリッド

重複関係 5号竪穴建物跡より新しく、9号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁、西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.285m、短軸1.015m、遺構検出面からの深さは最大で0.255mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が2基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が出土している。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第19図 6号竪穴建物跡

7号竪穴建物跡（第20・21図、第5表、図版2・6）

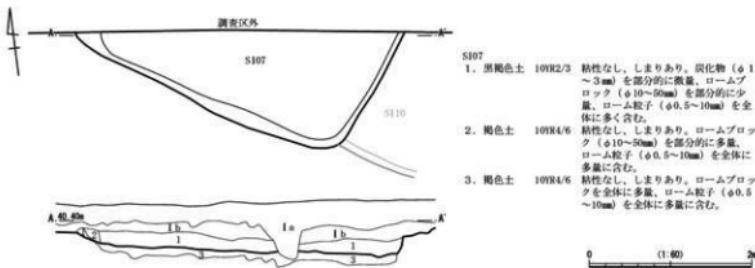
平面位置 P - 61・Q - 61・62 グリッド

重複関係 10号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、南壁と東壁の一部が検出され、平面サイズは長軸3.49m、短軸1.56m、遺構検出面からの深さは最大で0.19mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は西側では緩やかに、東側では急角度で立ち上がる。柱穴は検出されていない。覆土は黒褐色土を主体とした褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、壺（第21図1）、弥生時代後期の十王台式土器片（第21図2・3）、礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第20図 7号竪穴建物跡



第21図 7号竪穴建物跡出土遺物

第5表 7号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 壺	口径:- 高さ:(2.7) 底径:-	石英・微砂粒	良好	25	にぶい黄褐色 (10YR7/3)	外面口縁部暗ハケ、頸部横ナデ。内面ナデ。
2	弥生土器 壺	口径:- 高さ:(6.1) 底径:-	石英	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	輪脚不明にRを付加。
3	弥生土器 壺	口径:- 高さ:(3.2) 底径:-	石英・雲母	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	附加条2種 RL+R。

9号竪穴建物跡 (第22~25図、第6表、図版2・6)

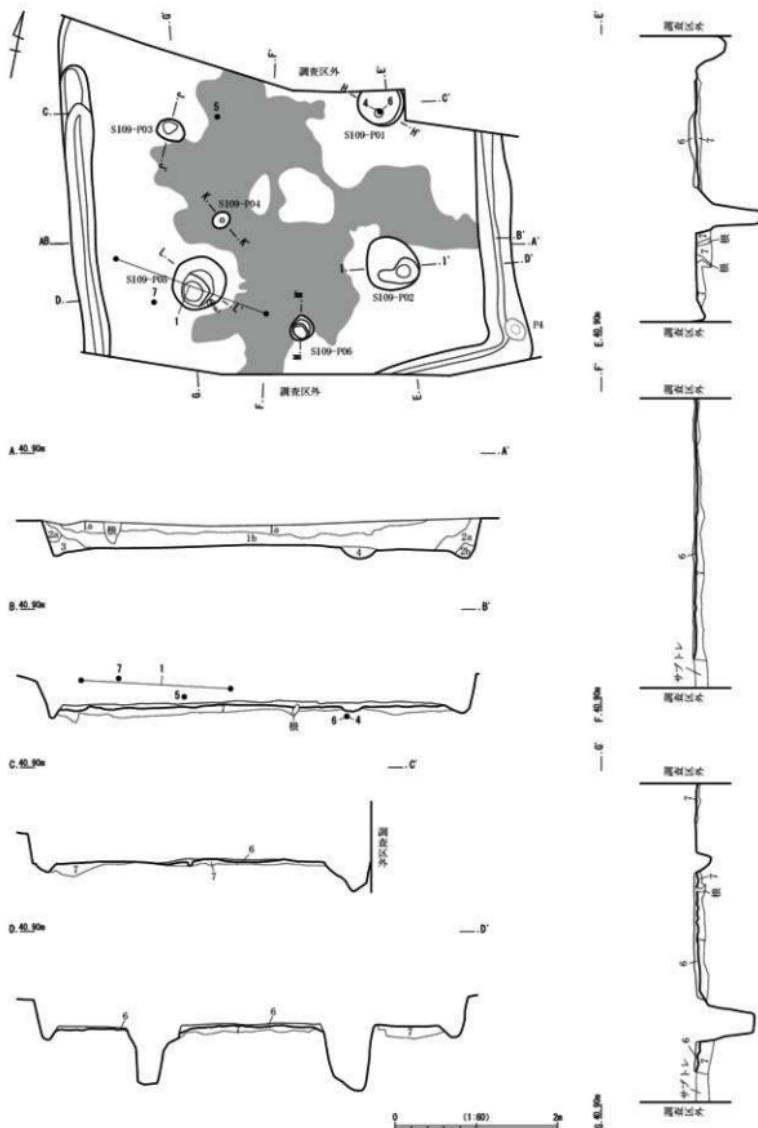
平面位置 P・Q - 63・64 グリッド

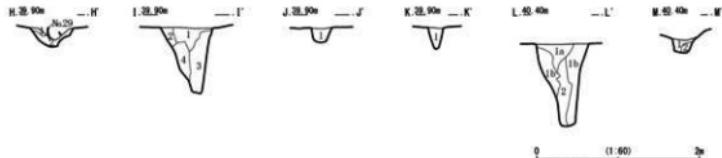
重複関係 6・7号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、西壁、東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 5.44 m、短軸 3.93 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.38 m である。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が 5 基検出され、その内主柱穴が 4 基検出され、周溝は西壁と北壁、東壁の一部で検出されている。床面直上には硬化した褐色土が検出されたが、これは竪穴建物の壁もしくは屋根材の一部が崩落したものと推定される。覆土は暗褐色土を主体として黒褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺 (第24図4)、壺 (第24図1~3)、瓶 (第25図6)、高壺 (第25図7)、碟、碟片などが検出されている。

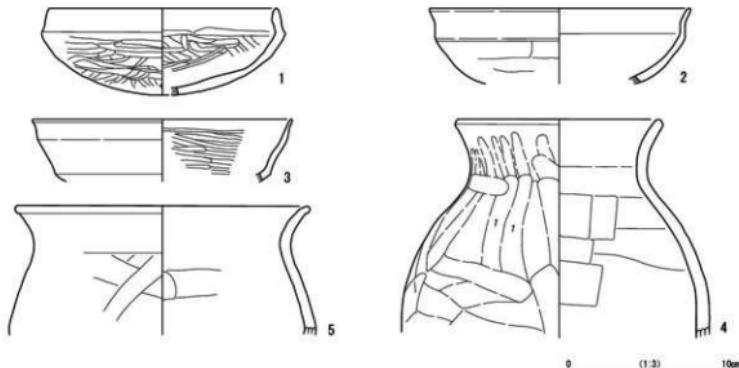
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



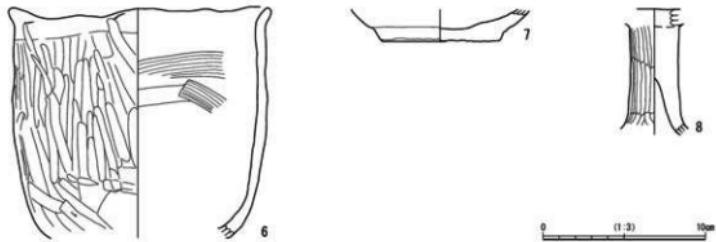


- S109
1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック、ローム粒子を含む。
1b. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。炭化物（φ 3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～100mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
1c. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。炭化物（φ 3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
2a. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。炭化物（φ 3～5mm）、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。他土（φ 1～5mm）を部分的に微量に含む。
2b. 喀褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。炭化物（φ 3～5mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
3. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりなし。ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
4. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
5. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。炭化物（φ 1～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～100mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に微量に含む。
6. 褐色土 10YR4/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。
7. 褐色土 10YR4/6 粘性あり。しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。
- S109-P02
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし。しまりあり。ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
2. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
3. 褐色土 10YR4/6 粘性なし。しまりなし。ローム粒子を全量に含む。
4. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全量に多量に含む。
- S109-P03
1. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりなし。ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。
- S109-P04
1. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に微量に含む。
- S109-P05
1a. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に含む。
1b. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。炭化物（φ 3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。
2. 喀褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。
- S109-P06
1. 褐色土 10YR4/6 粘性あり。しまりあり。ロームブロック、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を含む。
2. 喀褐色土 10YR3/3 粘性あり。しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第23図 9号堅穴建物跡 (2)



第24図 9号堅穴建物跡出土遺物 (1)



第25図 9号堅穴建物跡出土遺物（2）

第6表 9号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 环	口径:(14.1) 高さ:(5.3) 底径:-	雲母	良好	60	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	底部外面へラケズリ後ランダムなミガキ。内部中央部ミガキ後、周辺部ミガキ。口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 环	口径:(16.0) 高さ:(4.6) 底径:-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	15	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	底部外面周辺部同一方向のケズリ、内面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
3	土師器 环	口径:(16.0) 高さ:(3.8) 底径:-	石英	良好	15	橙色(7.5YR7/6)	底部外面ケズリ。内面ミガキ。内面黒色処理。
4	土師器 裏	口径:12.4 高さ:(13.4) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・微砂粒	良好	40	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	胴部外面上半部纏ケズリ後、胴部最大径付近横ケズリ。内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。その後部分的外面纏ケズリ。外面に黒斑が認められる。
5	土師器 裏	口径:(18.0) 高さ:(7.9) 底径:-	白色粒子・石英・微 砂粒	良好	5以下	橙色(7.5YR6/6)	胴部外面上半部纏ケズリ後、内面ミガキ。内面横ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
6	土師器 裏	口径:15.5 高さ:(14.1) 底径:-	石英・角閃石・ 微砂粒	良好	60	橙色(7.5YR6/6)	胴部外面上半部纏ケズリ後、内面ミガキ。内面横ナデ。口縁部外み部分的に波状になる。
7	土師器 裏	口径:- 高さ:(2.5) 底径:7.2	石英・雲母・ 微砂粒	良好	5以下	橙色(5YR6/6)	内外面ナデ。二次的な被熱が認められる。
8	土師器 高杯	口径:- 高さ:(8.0) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	30	橙色(7.5YR6/6)	脚部外面纏ミガキ。环及び脚部外面赤彩。

10号堅穴建物跡（第26・27図、第7表、図版6）

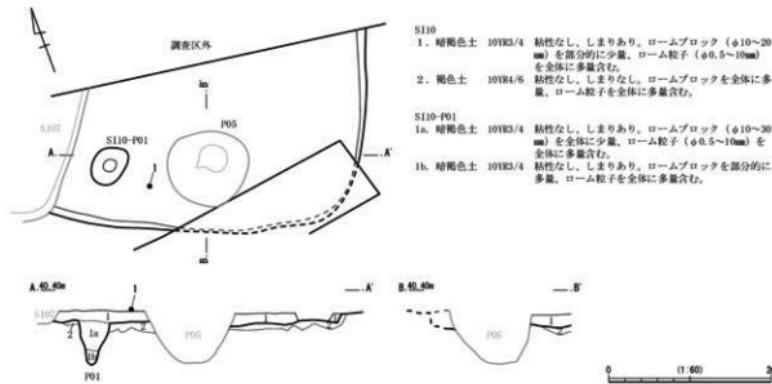
平面位置 P・Q - 62・63グリッド

重複関係 7・9号堅穴建物跡、5号ピットより古い。

遺構形態 遺構は、南壁と東壁の一部が検出され、平面サイズは長軸4m、短軸1.995m、遺構検出面からの深さは最大で0.15mである。床は、締まりがない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が1基検出されており、主柱穴の可能性が高い。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物はハケ調整の甕や高杯（第27図1）、碟、碟片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第26図 10号竪穴建物跡



第27図 10号竪穴建物跡出土遺物

第7表 10号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土器 高杯	口径:(16.0) 高さ:(4.0) 底径:-	白色粒子・石英・白色針状物質・微細粒	良好	30	橙色(5YR6/6)	口縁部内外面細かな縦ミガキ。

11号竪穴建物跡 (第28図)

平面位置 Q-59 グリッド

重複関係 3・12号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、南東角の一部が検出され、平面サイズは長軸0.9m、短軸0.48m、遺構検出面からの深さは最大で0.31mを測る。床は縮まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期頃と推定される。

12号竪穴建物跡 (第28図)

平面位置 Q-59・60 グリッド

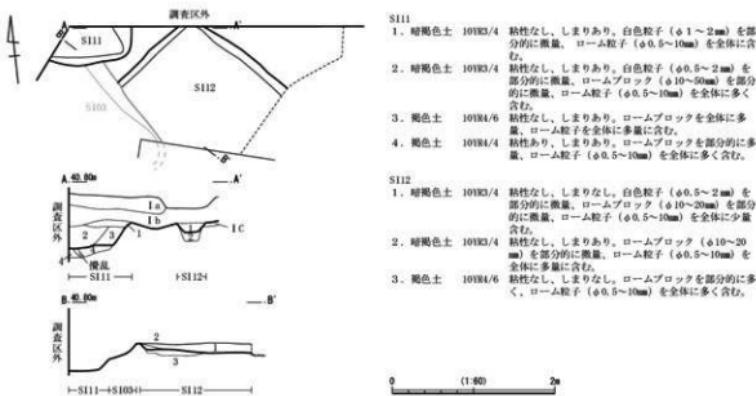
重複関係 3・8・11号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.655m、短軸1.46m、遺構検出面からの深さは最大で0.11mを測る。床は、縮まりのない部分的な貼り床で、壁は緩やかに

立ち上がる。柱穴は検出されていない。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器のハケ調整の甕、壺、砂岩、チャート製の礫、石英礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第28図 11・12号竪穴建物跡

13号竪穴建物跡（第29図）

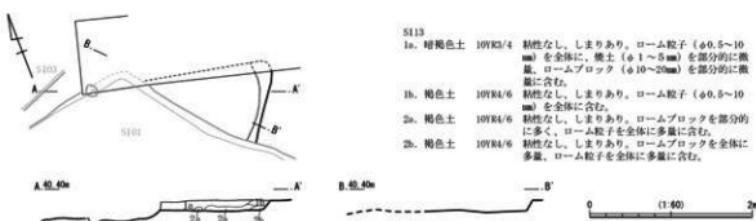
平面位置 P-60 グリッド

重複関係 1・4・6号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.57m、短軸0.855m、遺構検出面からの深さは最大で0.25mである。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴は検出されていない。覆土は暗褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、壺、片岩の破片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第29図 13号竪穴建物跡

14号竪穴建物跡（第30図）

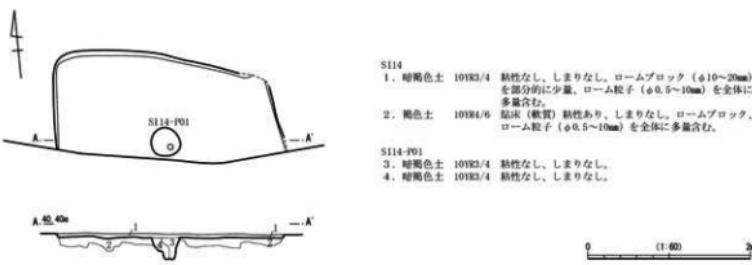
平面位置 P - 61・62、Q -61 グリッド

重複関係 7号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁、西壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.69 m、短軸 1.3 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.11 m である。床はほぼ平坦で軟質であり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が床面中央から 1 基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第30図 14号竪穴建物跡

15号竪穴建物跡（第31～33図、第8表、図版2・6）

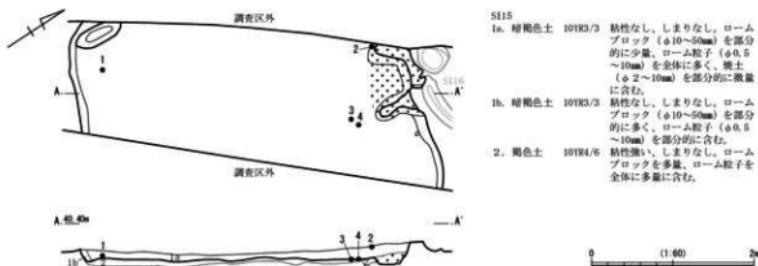
平面位置 R - 66・67 グリッド

重複関係 16号竪穴建物跡より新しい。

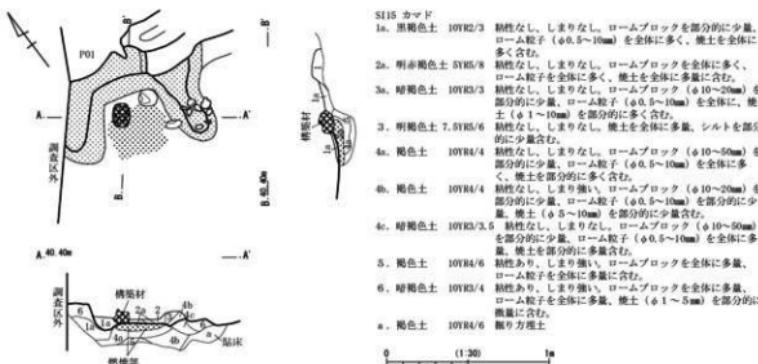
遺構形態 遺構は、北壁と竈、南壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 4.235 m、短軸 1.75 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.145 m を測る。床は、ほぼ平坦で踏み締まりのない貼り床、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。竈は北竈で、構築材はロームを含むシルト質土を使用しており、焚口から燃焼部上の天井部が破壊され、両袖が残存している。覆土は暗褐色土を主体とする。

遺物 遺物は土師器器台（第33図1）、甕（第33図2、ハケ調整の甕を含む）、盤（第33図4）、鉢（第33図3）、壺、須恵器壺（ロクロ調整）、砥石、磨石、礫器、礫片などが検出されている。

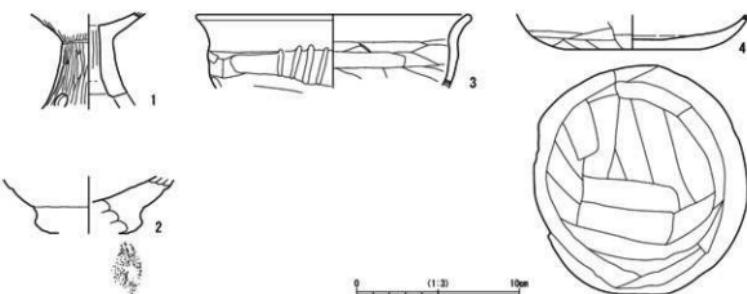
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第31図 15号竖穴建物跡



第32図 15号竖穴建物跡出土遺物



第33図 15号竖穴建物跡カマカド

第8表 15号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 器台	口径:(7.0) 高さ:(6.2) 底径:(5.9)	角閃石・白色針状物 質・微砂粒	良好	75	褐色(SYR7/6)	環部内外面及び脚部細かな縦ミガキ。 脚部に等間隔に3孔ある。
2	土師器 甕?	口径:- 高さ:(3.3) 底径:-	白色粒子・石英・微 砂粒	良好	5以下	褐色(7.YR6/6)	外表面成形時の凹凸を残す。底部外側木 葉痕が認められる。
3	土師器 鉢	口径:(16.7) 高さ:(4.9) 底径:-	雲母	良好	40	にふい黄褐色 (10YR6/4)	周囲外側横模ヶり、内面横ナデ。口縁 部内外面強い横ナデ。口縁部内面に煤 付着。
4	土師器 盤	口径:(14.2) 高さ:(2.1) 底径:9.0	雲母・微砂粒	良好	60	にふい黄褐色 (10YR7/4)	底部外側中央部へラケヅリ後、周辺部 へラケヅリ。内面ナデ。

17号竪穴建物跡（第34図）

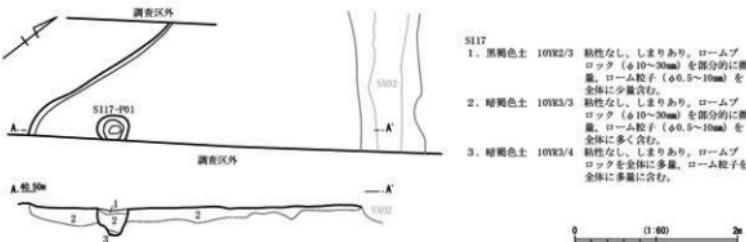
平面位置 T-69、U-69・70グリッド

重複関係 2・3号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.635 m、短軸 1.825 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.06 m と非常に浅い。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。南西角の床面で柱穴が 1 基検出されているが、主柱穴と推定される。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕（ハケ調整の甕を含む）、鉄製品（刀子）、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第34図 17号竪穴建物跡

18号竪穴建物跡（第35～37図、第9表、図版2・6・7）

平面位置 U-69・70、V-69・70グリッド

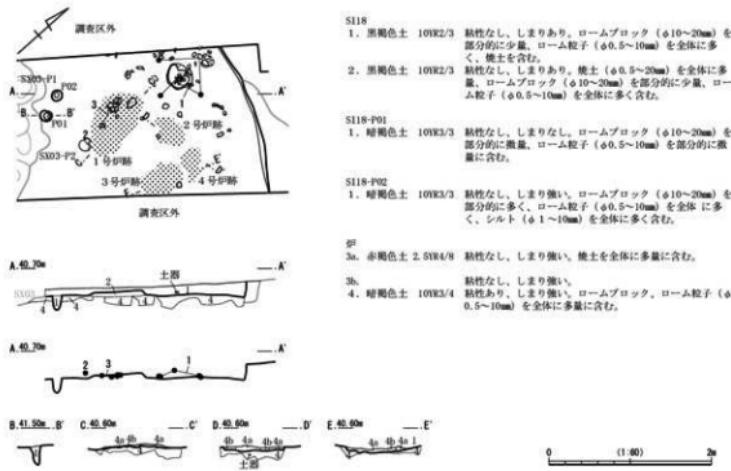
重複関係 19・20号竪穴建物跡より新しく、2・3号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は、北北東の壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 3.735 m、短軸 1.89 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.19 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりの強い貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。床面の北北東壁寄りに炉跡が 4 基形成されている。1 号炉跡は長軸 0.89 m、短軸 0.51 m、2 号炉跡は長軸 0.435 m、短軸 0.32 m、3 号炉跡は長軸 0.55 m、短軸 0.36 m、4 号

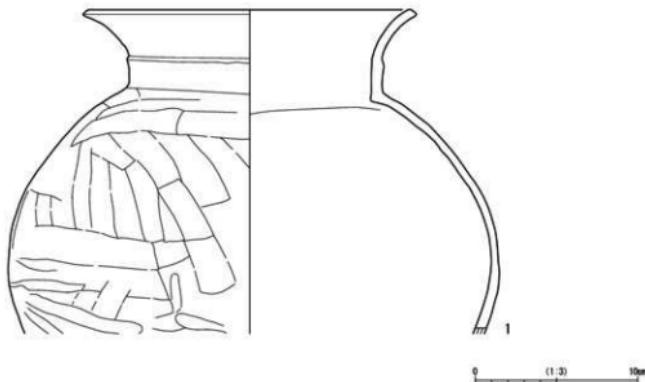
炉跡は長軸 41.5 m、短軸 0.25 m で、いずれも焼土の焼成は良好で硬化している。南西寄りの床面から柱穴が 2 基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土器類の有段口縁の甕（第 36 図 1）、單口縁の甕（第 37 図 2・3、その他ハケ調整の甕を含む）、鉄製の刀子（第 37 図 4）、磨石、凹石、台石、礫片などが出土している。

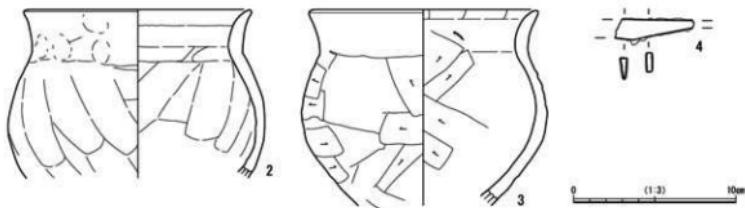
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第 35 図 18 号竪穴建物跡



第 36 図 18 号竪穴建物跡出土遺物 (1)



第37図 18号竪穴建物跡出土遺物（2）

第9表 18号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	前観
1	土師器 壺	口径:(19.8) 高さ:(19.8) 底径:-	石英・微砂粒	良好	60	にふい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面斜位のケズリ後、胴部最大径付近及び最上部横ケズリ後、部分的にナデ。内面横ナデ、輪積痕を残す。口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 壺	口径:(14.0) 高さ:(10.3) 底径:-	石英・白色針状物質・ 微砂粒	良好	20	褐色(2.5YR6/8)	胴部外面斜位のケズリ。内面斜位のナデ。口縁部内外面横ナデ、外面に指頭痕を残す。
3	土師器 壺	口径:(14.0) 高さ:(12.0) 底径:-	石英・雲母・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	30	褐色(5YR6/6)	胴部外面斜位及び楕ケズリ。内面斜位のナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
4	鉄製品 刀子	長さ:(4.8) 幅:1.6 厚さ:4.0 重さ:59g			30	にふい黄褐色 (10YR4/3)	遺存状態悪い。先端部丸みを帯びる。

19号竪穴建物跡（第38図、図版2）

平面位置 V-70 グリッド

重複関係 20号竪穴建物跡より新しく、18号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.85m、短軸0.755m、遺構検出面からの深さは最大で0.265mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。

20号竪穴建物跡（第38図）

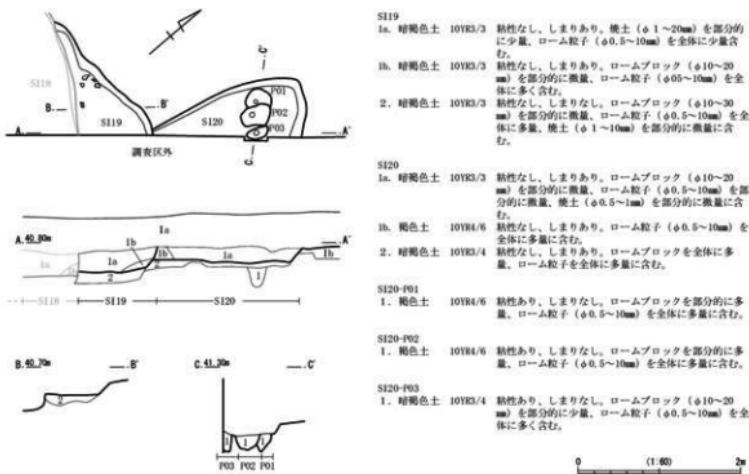
平面位置 V-70・71 グリッド

重複関係 18・19号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.92m、短軸0.765m、遺構検出面からの深さは最大で0.21mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が北東角の床面で3基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器壺（ハケ調整の壺を含む）、壺などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第38図 19・20号竪穴建物跡

22号竪穴建物跡（第39～41図、第10表、図版7）

平面位置 V・W-72グリッド

重複関係 22・23号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は、床面のみの検出で平面形は不明で、平面サイズは長軸4.94m、短軸1.655m、遺構検出面からの深さは最大で0.321mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴は検出されず北西壁下に土坑が1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は南西側の床面に土器がまとまって検出され、土師器は、ハケ調整の甕（第41図1）、單口縁の甕（第41図5）、高坏（第41図2）、壺（第41図3）、坏（第41図4・須恵器坏蓋模倣）、甕（第41図6）、須恵器甕（第41図7）、石皿+礫器+砾石（第41図8）などが検出されている。土師器の中には赤彩のものを含む。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から、古墳時代後期と推定される。

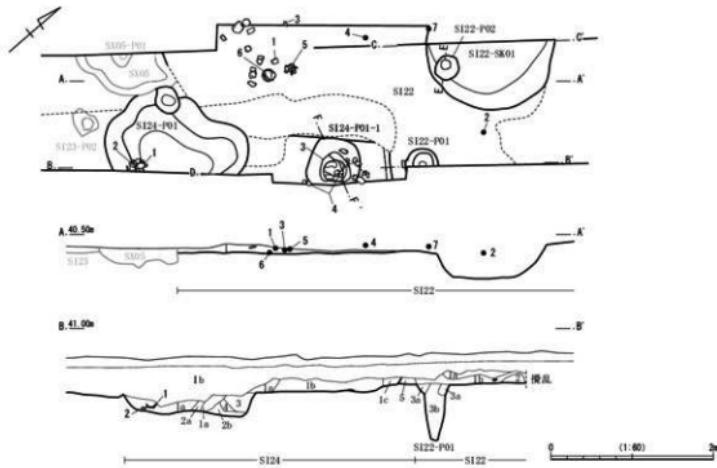
24号竪穴建物跡（第39・40・42図、第11表、図版2・3・7）

平面位置 U・V-72グリッド

重複関係 なし

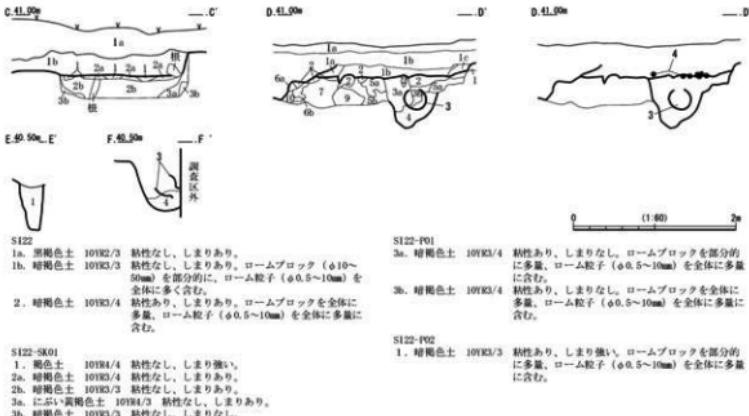
遺構形態 遺構は北東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.585m、短軸1.06m、遺構検出面からの深さは最大では0.17mを測る。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が北東壁際の床面から1基検出され、覆土から複合口縁の甕が底部を穿孔され逆位で埋葬され検出されている（第42図3）。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、散漫に分布し、土器器坏（第42図1）、塊（第42図2）、2号ピット覆土から逆位で埋葬されていた有段口縁の甕（第42図3）、單口縁の甕（第42図4）、などが検出されている。
時期 出土遺物から古墳時代中期と推定される。

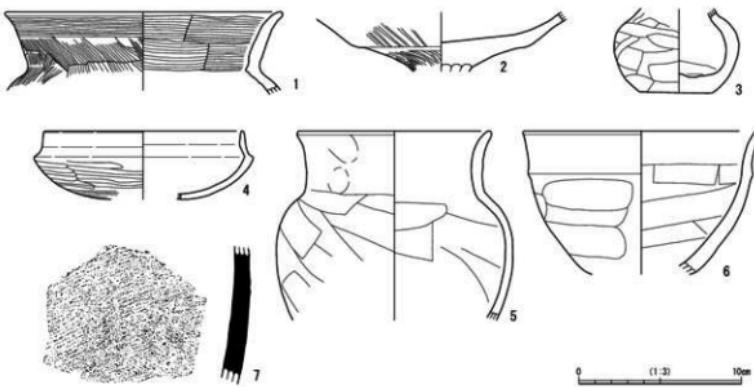


- S124 B-E'
- 1a. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量、使土（φ1~10mm）を部分的に多く含む。
 - 1b. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ10~30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量、使土（φ5~10mm）を部分的に多く含む。
 - 1c. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量、使土（φ5~10mm）を部分的に多く含む。
 - 2a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全體に多量に含む。
 - 2b. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
 4. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
 5. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全體に多量に含む。
- S124-P01-1
- 1a. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ0~10mm）を全體に少量、シルトを全體に多量に含む。
 - 1b. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量、シルトを全體に多く含む。
 - 1c. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ0~10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
2. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全體に多量、ローム粒子を全體に多量、シルトを全體に多量に含む。
- 3a. 塗褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ0~10mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
- 3b. 塗褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック（φ0~10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
4. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全體に多量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
- 5a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全體に多量、ローム粒子を全體に多量に含む。
- 6a. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし。ロームブロック（φ5~10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0~10mm）を部分的に微量に含む。
- 6b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子を部分的に多量、シルト（φ0.5~10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
7. 褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全體に多量、ローム粒子を全體に多量、シルトを全體に多量に含む。
8. 白灰色土 3YR8/2 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を部分的に多量、シルトを全體に多量に含む。
9. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ0~10mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全體に多量に含む。
10. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全體に多量、ローム粒子を全體に多量に含む。

第39図 22・24号竪穴建物跡（1）



第40図 22・24号堅穴建物跡(2)

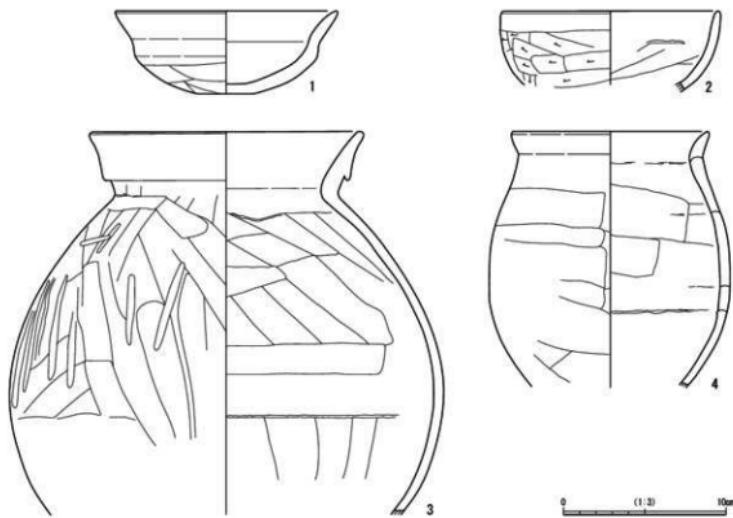


第41圖 22號竪穴建物跡出土遺物

第19表 22号竖穴建筑物出土遗物觀察表

園版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(16.8) 高さ：(4.8) 底径：(—)	石英・雲母・白色粘土物質・微砂粒	良好	5	橙色(7.5YR7/6)	外面ハケ調整後、口縁部内外面横干す。
2	土師器 高杯	口径：(15.3) 高さ：(3.6) 底径：(3.5)	石英・雲母・微砂粒	良好	30	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	環部外面縦ミガキ、内面ナデ。
3	土師器 甕	口径： 高さ：(5.1) 底径：(4.5)	白色粘土・赤色粘土・ 石英・角閃石	良好	70	橙色(5YR7/6)	脚部外面ナデ、内面未調整で粘土のナデ付痕が残る。

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
4	土師器 壺	口径:(12.0) 高さ:(4.2) 底径:-	雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	20	灰黄褐色 (10YR4/2)	底部外面へラケズリ後。ミガキ。口縁部内外面強い横ナデ。
5	土師器 壺	口径:(11.7) 高さ:(11.6) 底径:-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	10	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	胴部外面斜位のナデ。口縁部内外面横ナデ。外面成形時の指痕を残す。
6	土師器 壺	口径:(8.8) 高さ:(8.8) 底径:-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	30	明黄褐色 (10YR7/6)	胴部外面ナデ調整後、斜位のミガキ、 内面斜位のナデ。口縁部内外面強い横 ナデ。
7	須恵器 壺	口径: 高さ:(8.4) 底径:-	白色粒子	良好	5以下	灰オリーブ色 (5Y6/2)	外面細かな平行線状のタキ、自然軸 がかかる。内面横ナデ。成形時のあて 具痕の凹凸を残す。



第42図 24号堅穴建物跡出土遺物

第11表 24号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 壺	口径:13.4 高さ:5.1 底径:11.2	石英・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	75	橙色(5YR6/6)	底部外面中心部へラケズリ後周辺部向 一方向にへラケズリ、内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。
2	土師器 壺	口径:13.1 高さ:(4.5) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	70	明黄褐色 (10YR7/6)	胴部外面横ケズリ、内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。
3	土師器 壺	口径:16.4 高さ:(23.5) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 小選・微砂粒	良好	70	明黄褐色 (10YR6/6)	胴部外面ナデ後。斜位のミガキ、内面 横ナデ、輪横痕を残す。口縁部内外面 横ナデ。
4	土師器 壺	口径:(12.0) 高さ:(15.6) 底径:-	白色粒子・石英・微 砂粒	良好	25	橙色(5YR6/6)	胴部外面横へラケズリ、内面横ナデ、 輪横痕を残す。口縁部内外面横ナデ。

25号竪穴建物跡（第43～45図、第12表、図版8）

平面位置 X・Y - 72・73グリッド

重複関係 7号土坑、6号性格不明遺構より古い。

遺構形態 遺構は北東壁と南東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸5.02m、短軸1.52m、遺構検出面からの深さは最大で0.49mを測り規模が大きい。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が4基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土と褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 土師器高环(第45図1・2)、塊(第45図3)、甕(第45図4)、瓶(第45図5)、焼成粘土塊(第45図6)、須恵器壺破片、被熱した砂岩礫、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

26号竪穴建物跡（第43・44・46図、第13表、図版8）

平面位置 Y・Z - 73グリッド

重複関係 27号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.63m、短軸1.295m、遺構検出面からの深さは最大で0.65mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがない貼り床で、壁際に周溝が巡っており、壁は急角度で立ち上がる。南東角の床面には柱穴が1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 土師器甕、須恵器环身模倣の环(第46図1)、砂岩礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

27号竪穴建物跡（第43・44・47図、第14表、図版8）

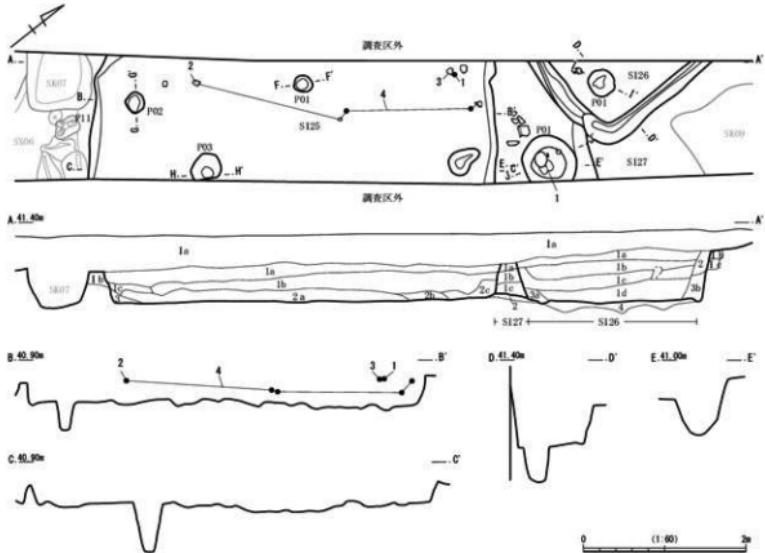
平面位置 Y・Z - 73グリッド

重複関係 25・26号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.495m、短軸1.275m、遺構検出面からの深さは最大で0.39mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。北壁際で柱穴が1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

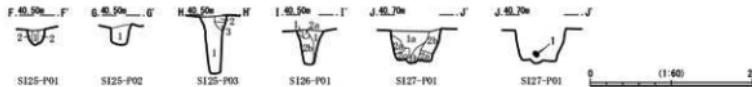
遺物 遺物は土師器甕(第47図1)、その他赤彩、ハケ調整の甕を含む)、高环部(第47図2)、砥石(片岩)などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



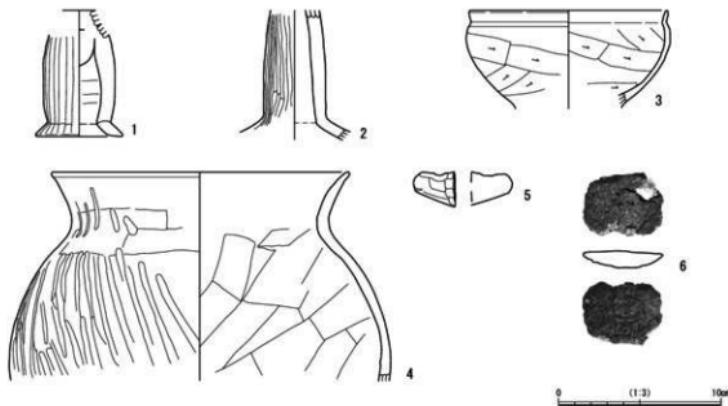
- S125
1a. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim30$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。
- 1b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\sim\phi 10$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。
- 1c. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim50$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。
- 2a. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
- 2b. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。
- 2c. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim50$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。
3. 関色土 10YR4/4 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に微量。ローム粒子を全体に微量含む。
- S126-P01
1. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。
2. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
- S126-P02
1. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に含む。
2. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く含む。
3. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
- S126-P03
1. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に含む。
2. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く含む。
3. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
- S126-P04
1. 基褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2$ mm) を全体的に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を部分的に少く含む。
- 1b. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2$ mm) を全体に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に少く含む。
- 1c. 基褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2$ mm) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に少く含む。
- 1d. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に少く含む。
2. 基褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2$ mm) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を部分的に少く含む。
- 3a. 基褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に少く含む。
- 3b. 基褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 1\sim3$ mm) を部分的に微量。ロームブロック ($\phi 10\sim100$ mm) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
4. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを全体に微量。ローム粒子を全体に微量含む。
- S126-P05
1. 基褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 1\sim5$ mm) を部分的に微量。ロームブロック ($\phi 10\sim20$ mm) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
- 2a. 関色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim40$ mm) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に多く含む。
- 2b. 関色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10$ mm) を全体に微量含む。

第43図 25・26・27号堅穴建物跡 (1)



- SI-27
1a. 埋蔵褐色土 10VR3/3 粘性なし、しまり無い。白色粒子（φ0.5~2mm）を部分的に混在。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に混在。他土（φ1~5mm）を部分的に混在する。
1b. 埋蔵褐色土 10VR3/3 粘性なし、しまり無い。炭化物（φ1~20mm）を部分的に混在。ローム粒子（φ0.5~10mm）を部分的に混在。他土（φ1~20mm）を部分的に混在。
1c. 埋蔵褐色土 10VR3/7 粘性なし、しまり無い。炭化物（φ1~5mm）を部分的に混在。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に混在。他土（φ1~2mm）を部分的に混在する。
2. 褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり無い。炭化物（φ1~5mm）を部分的に混在。ローム粒子（φ0.5~10mm）を部分的に混在。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多量に含む。
- S1-27 P01
1a. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりなし。ロームブロック（φ10~20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に。他土（φ1~5mm）を部分的に多量含む。
1b. 埋蔵褐色土 10VR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多量に含む。
2a. 黒褐色土 10YR3/2 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ10~30mm）を部分的に多く。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多量に含む。
2b. 黒褐色土 10YR3/2 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く含む。
2c. 埋蔵褐色土 10VR3/4 粘性なし、しまりなし。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多量に含む。

第44図 25・26・27号竪穴建物跡(2)

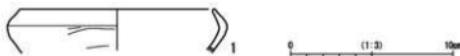


第45図 25号竪穴建物跡出土遺物

第12表 25号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径：（7.8） 高さ：（7.8） 底径：-	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	25	橙色(5YR6/6)	脚部外面器面荒れて調整不明。内面ナ デ。接合部ホゾ穴接合
2	土師器 高杯	口径：- 高さ：（7.9） 底径：-	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	40	に赤い橙色 (7.5YR7/4)	脚部外面発ミガキ、内面ナデ。
3	土師器 环	口径：(12.0) 高さ：(6.0) 底径：-	白色粒子・雲母・角 閃石・ 白色針状物質	良好	25	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	底部外面ヘラケズリ後ミガキ、内面ナ デ。口縁部外面強い頃ナデ。
4	土師器 甕	口径：18.1 高さ：(12.9) 底径：-	白色粒子・石英・雲母・ 微砂粒	良好	30	に赤い橙色 (5YR6/4)	脚部外面ケズリ後、縮ミガキ。内面斜 位のナデ。口縁部外面強い頃ナデ。

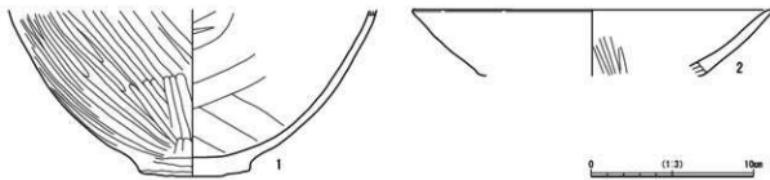
図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	所見
5	土師器 瓶	長さ:(2.1) 幅:(2.5) 重さ:11.1g	石英・雲母・ 微砂粒	良好	5以下	にふい黄褐色 (10YR6/4)	把手部分。成形時の凹凸を残す。
6	土製品 焼成粘土塊	口径:- 長さ:4.7 底径:- 重さ:20.1	雲母・角閃石・小礫・ 微砂粒	良好	100	褐灰色 (10YR5/1)	表面に纖維痕が認められる。



第46図 26号堅穴建物跡出土遺物

第13表 26号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 杯	口径:(12.0) 高さ:(2.5) 底径:-	雲母・角閃石・ 白色針状物質	良好	5	黒褐色 (2.5Y3/1)	底部外面へラケズリ。口縁部内外面強 い横ナデ。



第47図 27号堅穴建物跡出土遺物

第14表 27号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:- 高さ:(10.2) 底径:6.6	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・微砂粒	良好	25	にふい褐色 (7.5YR6/3)	外面部位のミガキ。内面横ナデ。底部 外面ナデ。
2	土師器 高杯	口径:(2.0) 高さ:(4.0) 底径:-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	10	にふい赤褐色 (5YR5/4)	环部外面縦ミガキ、内面横ナデ。

28号竪穴建物跡（第48・49図、第15表、図版8）

平面位置 Z・AA-73・74グリッド

重複関係 30号竪穴建物跡より新しく、9号竪穴建物跡、12号ピットより古い。

遺構形態 遺構は南西壁と北西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.77m、短軸1.605m、遺構検出面からの深さは最大で0.215mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は南西壁では急角度で、北東壁では緩やかに立ち上がる。床面には、硬化した暗褐色土が部分的に面上に堆積しているが、建物の壁、屋根の一部が崩落し堆積したものと推定される。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 土師器の有段口縁壺（第49図1）、甕（第49図2・3、赤彩、ハケ調整の甕を含む）、高坏脚部（第49図4）、磨石（砂岩）、礫片（砂岩）などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

29号竪穴建物跡（第48・50図、第16表、図版3・8）

平面位置 AA・AB-74・75グリッド

重複関係 28・30号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.585m、短軸1.66m、遺構検出面からの深さは最大で0.135mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は場所により緩やかから急角度で立ち上がる。床面の南側で柱穴が2基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とした褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器坏（第50図1～3・須恵器坏蓋模倣）、甕（ハケ調整の甕を含む）、赤採の土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期を推定されている。

30号竪穴建物跡（第48図）

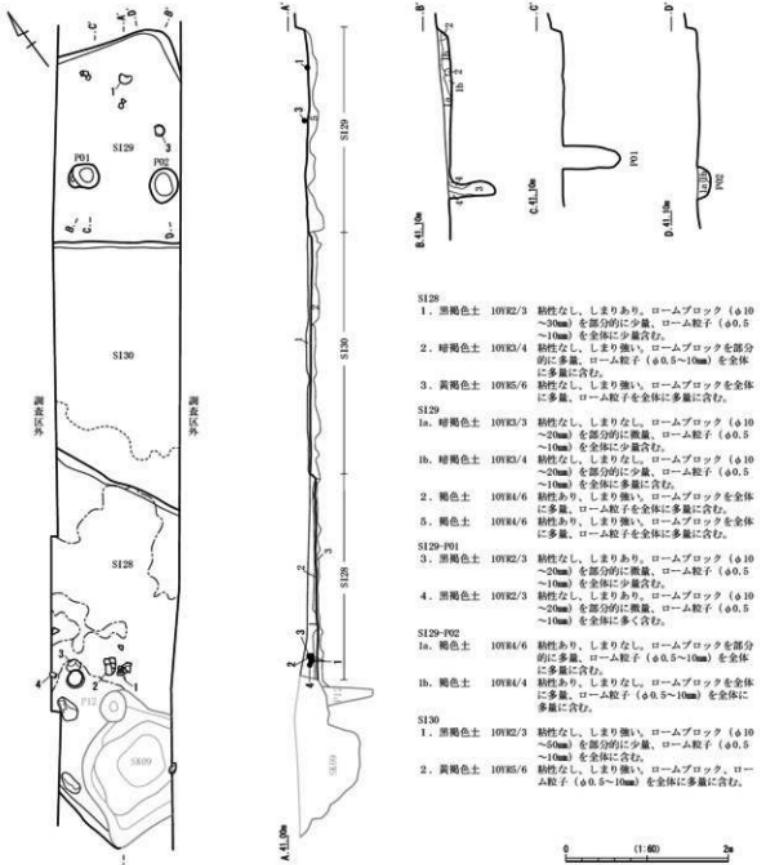
平面位置 Z・AA-74グリッド

重複関係 29号竪穴建物跡より新しく、28号竪穴建物跡・9号土坑・12号ピットより古い。

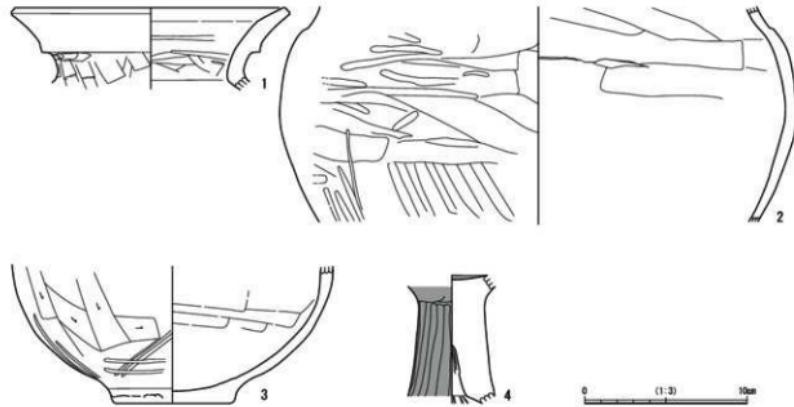
遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.295m、短軸1.57m、遺構検出面からの深さは最大で0.055mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い貼り床で、壁は、浅く緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕（ハケ調整の甕を含む）である。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以前と推定される。



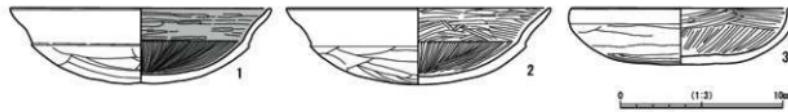
第48図 28・29・30号堅穴建物跡



第49図 28号竪穴建物跡出土遺物

第15表 28号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 壺	口径:16.6 高さ:(5.0) 底径:-	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	10	橙色(5YR7/6)	頭部外面縦ハケ後ミガキ。口縁部内外 面強い横ナデ。
2	土師器 甕	口径:- 高さ:(13.2) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 小磯・微砂粒	良好	10	橙色(5YR6/6)	脚部外面ナデ及び部分的にミガキ。内 面横ナデ、輪横痕を残す。
3	土師器 甕	口径:- 高さ:(8.4) 底径:(7.0)	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	15	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	脚部外面縦ケズリ後ナデ、内面横ナデ、 輪横痕を残す。
4	土師器 高杯	口径:- 高さ:(7.9) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	35	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	脚部外面縦ミガキ、内面ナデ。赤彩さ れ。



第50図 29号竪穴建物跡出土遺物

第16表 29号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見	取上No. 実測No.
1	土師器 环	口径:15.75 高さ:4.7 底径:13.3	白色粒子・雲母・微 砂粒	良好	90	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	底部外面中心部へラケズリ後周辺部へ ラケズリ、内面放射状のミガキ。口縁 部外面強い横ナデ、内面横ミガキ。	
2	土師器 环	口径:16.0 高さ:4.7 底径:13.2	白色粒子・雲母	良好	90	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	底部外面ラケズリ後ミガキ、内面放 射状のミガキ。口縁部内外面強い横ナ デ。	
3	土師器 环	口径:13.2 高さ:3.5 底径:13.65	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質	良好	80	にぶい橙色 (5YR6/4)	底部外面ケズリ後ミガキ。内面同一方 向の細かなミガキ。	

31号竪穴建物跡（第51・52図、第17表、図版8）

平面位置 Z-75グリッド

重複関係 32号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.55m、短軸0.75m、遺構検出面からの深さは最大で0.185mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱い貼り床で、西壁は緩やかに、北壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 土師器壺(ハケ調整の壺を含む)、赤彩の土器、須恵器壺蓋模倣の壺(第52図1)、須恵器壺(第52図2)、縄文時代前期の土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

32号竪穴建物跡（第51・53図、第18表、図版3・9）

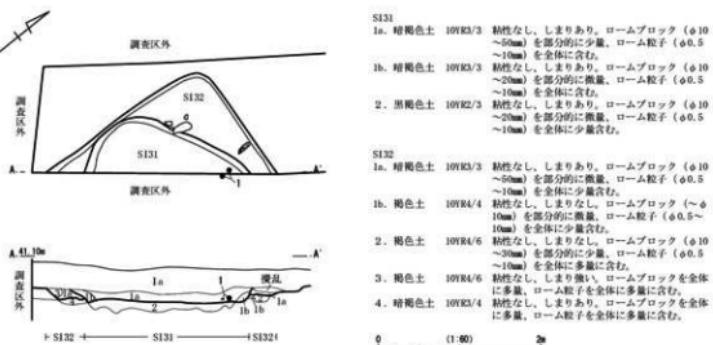
平面位置 Z-75・76グリッド

重複関係 31号竪穴建物跡より古い。

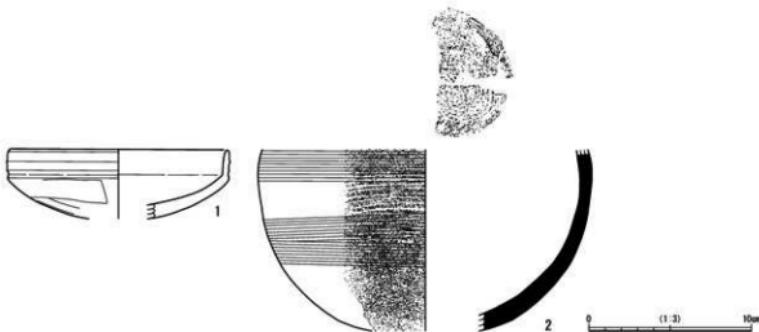
遺構形態 遺構は北壁と西壁と床の一部が検出され、平面サイズは長軸2.14m、短軸1.52m、遺構検出面からの深さは最大で0.14mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱い貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 出土遺物は散漫に出土しているが、須恵器壺蓋模倣の土師器壺(第53図1)、斑レイ岩製の石皿(第53図2)、砂岩製の礫器、磨石などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



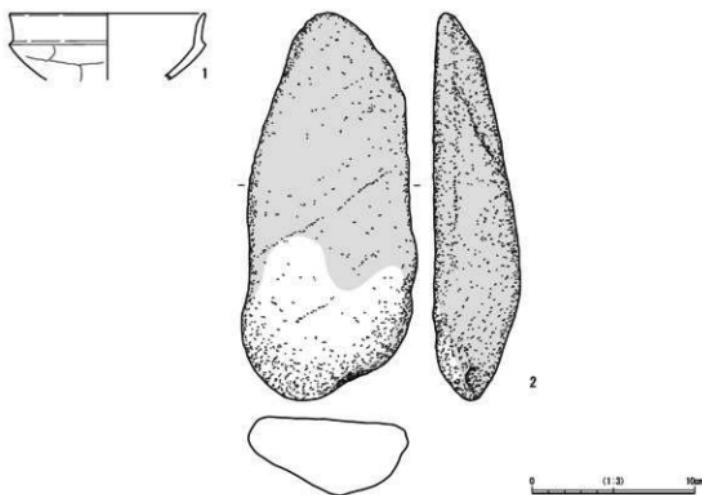
第51図 31・32号竪穴建物跡



第52図 31号竪穴建物跡出土遺物

第17表 31号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 环	口径:(13.2) 高さ:(4.3) 底径:(13.5)	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	30	浅黄褐色 (10YR8/4)	底部外面へラケズリ後ナデ。内面ナデ。 口縁部外面強い横ナデ。
2	須恵器 甕	口径:- 高さ:(11.1) 底径:-	白色粒子・石英・微 砂粒	良好	20	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面ナデ、カキ目が認められる。底部 内面同心円状の当て具痕を残す。



第53図 32号竪穴建物跡出土遺物

第18表 32号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 壺	口径: (12.0) 高さ: (4.1) 底径: -	雲母・白色針状物質・ 微形粒	良好	5	黒褐色 (10YR3/1)	底部外面へラケズリ、内面同一方向の 細かなミガキ。口縁部内外面細かなミ ガキ。
2	石皿	斑れい岩	23.8	10.8	5.3	1713.8	完形。表面に平坦面を持つ。被熱を受け赤化している。 また、表面全体あばた状を呈する。

36号竪穴建物跡（第54・55図、第19表、図版9）

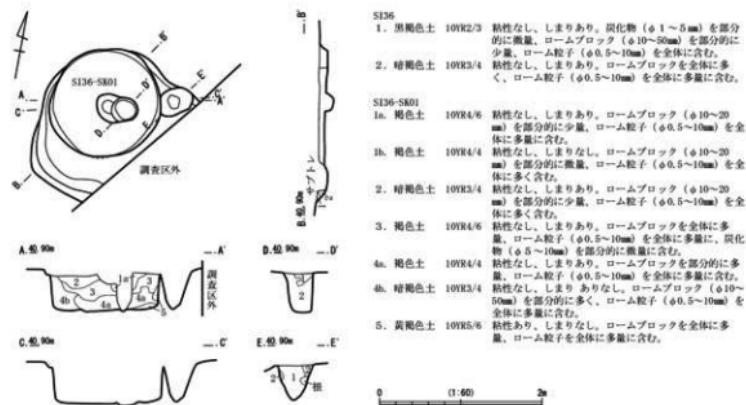
平面位置 W・X-71・72グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北壁と南壁の一部、西壁と床が検出され、平面サイズは長軸1.98m、短軸1.405m、遺構検出面からの深さは最大で0.105mを測る。床はほぼ平坦で踏み縮まりがある貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。柱穴が2基検出されているが、それより古い楕円形の床下土坑が床面から検出されている。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は単口縁の土師器壺（第9図1）、赤彩の土器、須恵器壺などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以前と推定される。



第54図 36号竪穴建物跡



第55図 36号竪穴建物跡出土遺物

第19表 36号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径: (17.8) 高さ: (5.1) 底径: -	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	口縁部内外面横ナデ後、外面縦位ミガ 中。

38号竪穴建物跡 (第56・57・59図、第20表、図版3・9)

平面位置 AD-76・77、AE-77グリッド

重複関係 39・40号竪穴建物跡より新しく、37号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と南壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.1m、短軸1.82m、遺構検出面からの深さは最大で0.34mを測る。柱穴が4基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、散漫に分布するが、土師器器台(第59図1)、単口縁の甕(第59図2)、須恵器坏蓋模倣の坏(第59図3)、砂岩製の磨石、台石、礫、礫片、炭化物などが検出されている。また南壁近くの覆土から鉄滓が出土したため土壤サンプル(950.2g)を採集し選別した結果、鉄滓が304g採集された。焼土は検出されていないが、屋内炉での鍛冶作業が行われた可能性がある。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期後葉以前と推定される。

39号竪穴建物跡 (第56~58・60図、第21表、図版3・9)

平面位置 AE-77グリッド

重複関係 40号竪穴建物跡より新しく、37・38号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.26m、短軸1.38m、遺構検出面からの深さは最大で0.3mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床である。北壁は40号竪穴建物跡の覆土であったため、明確に形状を確認できていない。甕は北壁の東よりの壁付近に設けられており、両袖から煙道部までU字形に構築材が残り、燃烧部から煙道までの天井が破壊されており、長軸0.76m、短軸最大10.9mを測る。焚口の前の床面には泥岩の切り石(最大長0.6×最大幅0.135×最大厚0.07m)が置かれており、構築材中にも泥岩が埋設されており、シルト質土と切り石組を構築材として使用している。甕の構築材はシルト質土で、焚口付近の両袖には泥岩の多面体の縦長の泥岩の一端の細い部分を地中に10cm前後埋設してから構築材で固定、埋設、整形し、焚口上の泥岩の天板を埋設した両袖上に設置したものと推定される。燃烧部よりやや北側には石製の支脚と埋設されていた土師器甕が残されていた。柱穴が床面から2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は散漫に分布しているが、土師器壇(第60図1)、坏(第60図2)、甕(第60図3~5)、土製の勾玉(第60図6)、赤彩の土器、片岩製の磨石、砂岩製のカマドの支脚、泥岩の甕構築材、砂岩製の礫、片、石英製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

40号竪穴建物跡（第56・57・61図、第22表、図版3・9）

平面位置 AE-77グリッド

重複関係 39・41号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は東壁の一部が検出され、平面サイズは長軸1.675m、短軸1.065m、遺構検出面からの深さは最大で0.3mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は散漫に分布しているが、西壁際の床面付近でハケ調整の甕（第61図1・2）が密集して検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

41号竪穴建物跡（第56・57・62図、第23表、図版9）

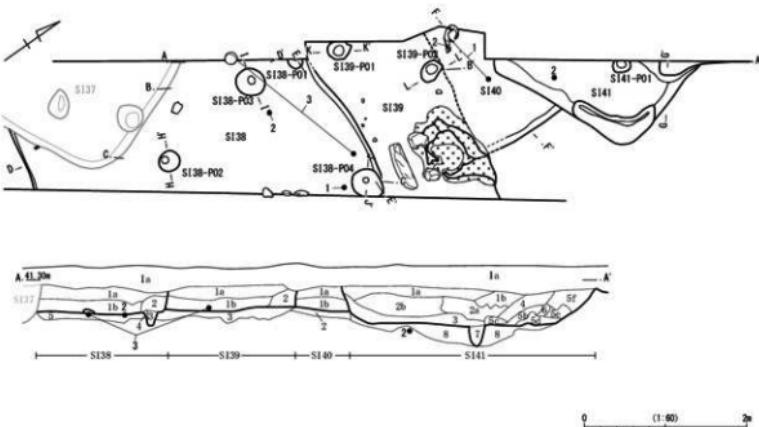
平面位置 AE・AF-77・78グリッド

重複関係 40号竪穴建物跡より新しい。

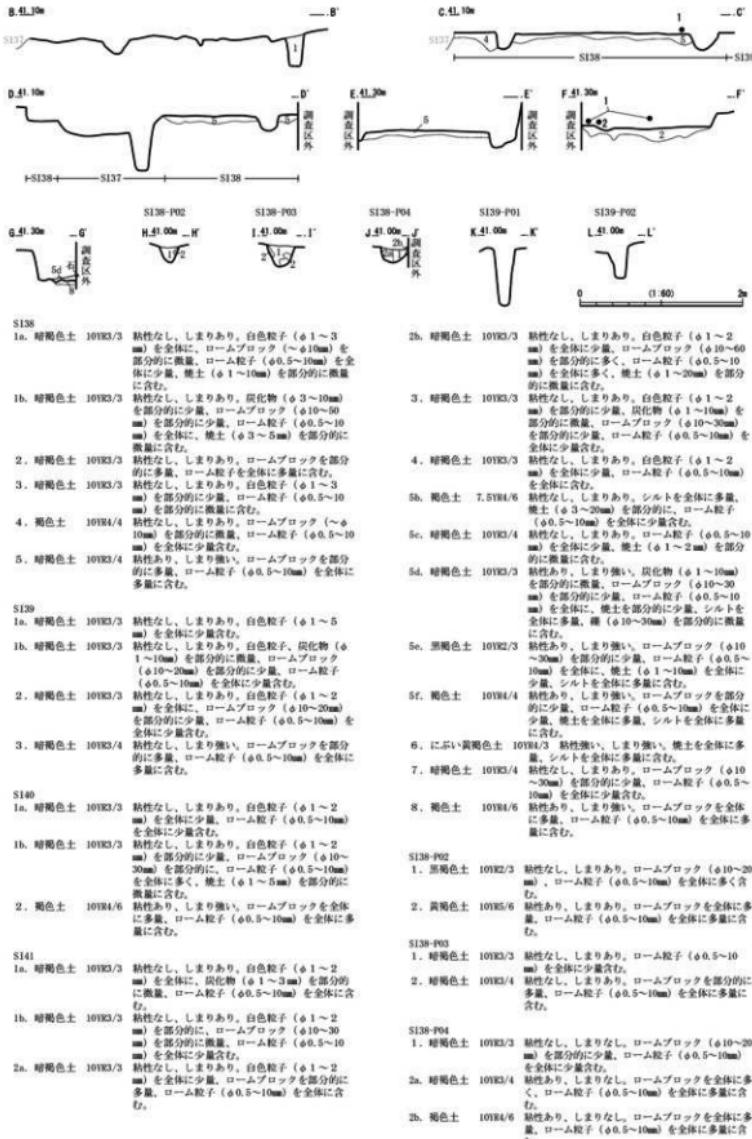
遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.7m、短軸1.24m、遺構検出面からの深さは最大で0.46mを測る。東壁の北東隅で竈の右袖から煙道部の一部が検出されている。構築材はシルト質土で構成されている。柱穴が竈より南西側の床面で1基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 遺物は散漫に分布しているが、土師器甕（第62図1、他にハケ調整の甕を含む）、坏（第62図2）、単節縄文施文の繩文土器、砂岩製、片岩製の礫片などが検出されている。

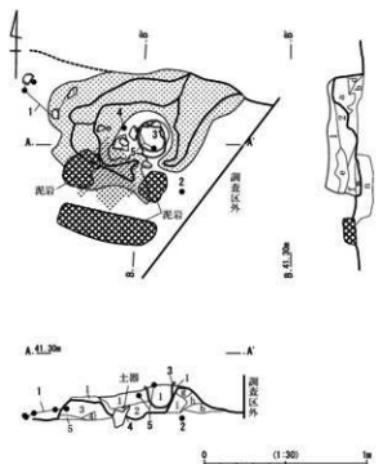
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第56図 38・39・40・41号竪穴建物跡（1）

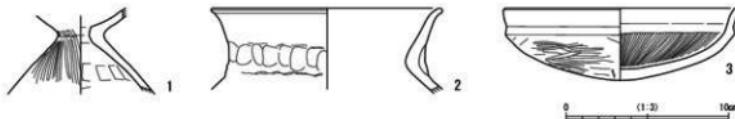


第57圖 38·39·40·41號堅穴建物跡(2)



- SI-39 カマド
 1. 委褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い。炭化物（ $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に撒散。ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量。燒土を全体に多量、シルトを全体に多く含む。
 2. 委褐色土 7. SYR5/3 粘性なし、しまり強い。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量。燒土を全体に多量に含む。
 3. 委褐色土 10YR4/4 粘性なし、しまり強い。シルトを全体に多量。燒土を全体に少量に含む。
 4. にぶい黄褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ ）を部分的に少量。燒土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
 5. 委褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子を全体に多量に含む。
 a. 委褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまり強い。炭化物（ $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に撒散。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、燒土（ $\phi 3 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に撒散。シルト（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に撒散。燒土を全体に多量に含む。
 b. 委褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
 d. にぶい黄褐色土 10YR4/3 粘性あり、しまり強い。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$ ）を部分的に少量。燒土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に撒散に含む。
 e. 赤褐色土 SYR4/6 粘性あり、しまり強い。シルトを部分的に多量。燒土を全体に少量に含む。
 f. 明褐色土 7. SYR5/6 粘性あり、しまりあり。シルトを部分的に多量。ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量。燒土を全体に多量に含む。
 g. 委褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い。シルトを全体に多量に、燒土（ $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
 h. 委褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い。シルト、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に撒散。燒土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に撒散に含む。
 i. 委褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまり強い。シルトを全体に多量。ロームブロック（ $\sim 10\text{mm}$ ）を部分的に撒散。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量、燒土を全体に多量に含む。
 m. 明赤褐色土 SYR5/6 粘性なし、しまりあり。燒土を全体に多量に含む。
 n. 黄褐色土 10YR5/6 粘性なし、しまりあり。燒土を全体に多く、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。

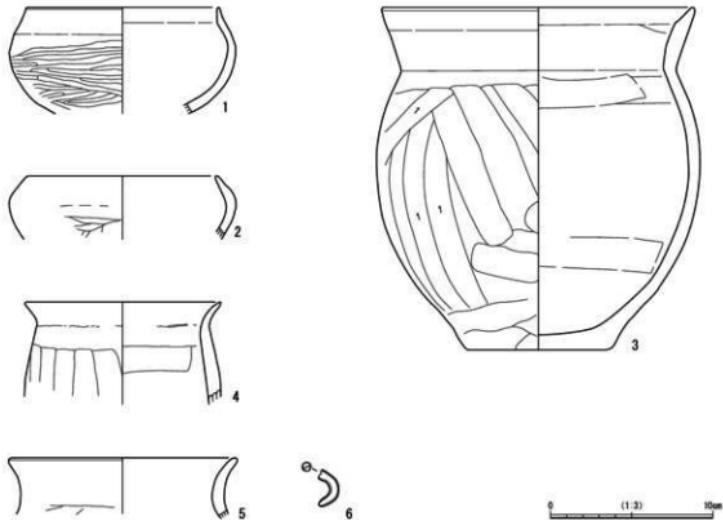
第58図 39号堅穴建物跡カマド



第59図 38号堅穴建物跡出土遺物

第20表 38号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 器台	口径： 高さ：(5.3) 底径：-	青母	良好	60	にぶい赤褐色 (2.YR5/4)	外面彫ミガキ。内部内面横ナデ。脚部 外側及び底部赤彩。
2	土師器 壺	口径：(13.9) 高さ：(5.5) 底径：-	白色粒子・石英	良好	5以下	灰褐色(SYR5/2)	内外面横ナデ。頸部に粘土貼り付け。 上端を指揮さえする。
3	土師器 环	口径：14.0 高さ：4.4 底径：13.9	角閃石・微砂粒	良好	100	橙色(SYR6/6)	底部外面ケズリ後ミガキ。内面放射状 のミガキ。内外面強烈ナデ。



第60図 39号竪穴建物跡出土遺物

第21表 39号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 棍	口径:6.0 高さ:〈6.5〉 底径:-	石英・角閃石・ 飛砂粒	良好	65	にぶい赤褐色 (2.5YR4/4)	底部外面ケズリ後、横ミガキ。内面ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 环	口径:(11.6) 高さ:(3.9) 底径:-	雲母・角閃石・ 白色針状物質・ 飛砂粒	良好	5以下	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	底部外面横ミガキ。口縁部内外面横ナデ。
3	土師器 豆	口径:19.2 高さ:21.0 底径:8.6	石英・雲母・角閃石・ 小礫・微砂粒	良好	70	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	胴部外面刷毛目以下窓ケズリ後上半部 斜位ケズリ、内面横ナデ。口縁部内外 面強い横ナデ。
4	土師器 豆	口径:(6.0) 高さ:(6.3) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 小礫・微砂粒	良好	5以下	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	胴部外面窓ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面横ナデ。
5	土師器 繖	口径:(13.7) 高さ:(3.7) 底径:-	赤色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 飛砂粒	良好	5以下	灰褐色(5YR4/2)	内面強い横ナデ。
6	土製品 土製勾玉	長さ:〈2.3〉 幅:〈1.3〉 厚さ:〈0.65〉 重量:1.4g	なし	良好	90	明褐色 (7.5YR5/6)	指ナデ。穿孔部分より上方が欠けている。



第61図 40号竪穴建物跡出土遺物

第22表 40号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:14.4 高さ:(7.8) 底径:-	石英・雲母・白色針 状物質・微砂粒	良好	30	にい黄褐色 (10YR7/4)	胴部上端部裏ハケ後。胴部最大径横ハケ。内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(16.0) 高さ:(5.1) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質	良好	10	浅黄色 (2.5Y7/3)	胴部上端部裏ハケ。内面横ナデ。口縁部 内外面横ナデ。



第62図 41号竪穴建物跡出土遺物

第23表 41号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:- 高さ:(5.6) 底径:-	雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	橙色(7.5YR7/6)	外面表面荒れ、内面横ナデ。
2	頭蓋器 环	口径:- 高さ:(1.2) 底径:(6.0)	微砂粒	良好	10	褐灰色 (10YR6/1)	内外面クロナデ。底部外面ナデ。

42号竪穴建物跡（第63図）

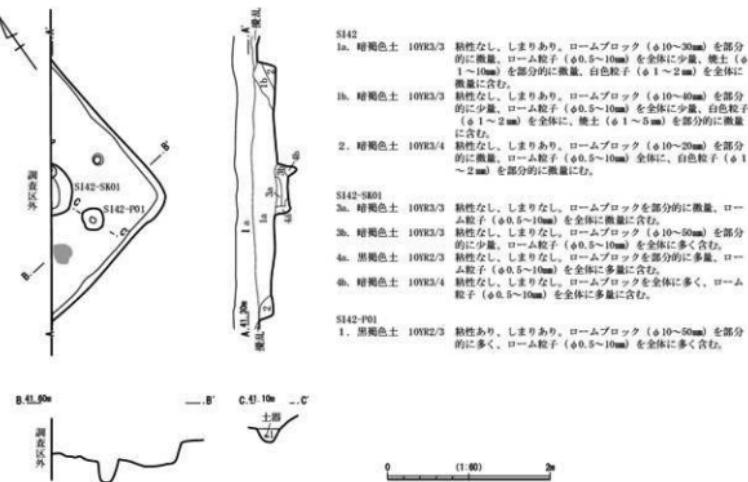
平面位置 AF・AG-78グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.12m、短軸1.625m、遺構検出面からの深さは最大で0.32mを測る。調査区の南西壁際の床面で硬化土が格円形で集中して検出されているが、用途は不明である。土坑が壁際中央で1基、柱穴が2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕（ハケ調整の甕を含む）、赤彩の土器、片岩製磨石、砂岩製、片岩製の礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第63図 42号竖穴建物跡

44号竖穴建物跡 (第64~66図、第24表、図版3・9)

平面位置 AC・AD-78グリッド

重複関係 46号竖穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.645m、短軸1.665m、遺構検出面からの深さは最大で0.1mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。周溝が壁に沿って設けられ、31基の小形の柱穴が連続して検出されているが、何らかの機能的役割を持ったものであろうか。床面では柱穴が3基検出されている。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土器師窯（ハケ調整の甕を含む）、坏（須恵器坏蓋模倣）、赤彩の土器、須恵器甕、土製の支脚（第66図1）、緑色岩製の石皿+砥石+敲石（第66図2）、砂岩製の台石、磨石、砂岩製の礫、礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

45号竖穴建物跡 (第4・65・67図、第25表、図版9)

平面位置 AD・AE-78・79グリッド

重複関係 46号竖穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.585m、短軸1.915m、遺構検出面からの深さは最大で0.165mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。貼り床下から土坑が1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆

積層である。

遺物 遺物は土師器壺（第67図2、その他ハケ調整の壺を含む）、赤彩の土器、坏（須恵器坏蓋模倣）、弥生時代後期の十王台式土器（第67図1）、泥岩の台石、砂岩製礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。

46号竪穴建物跡（第64・65図）

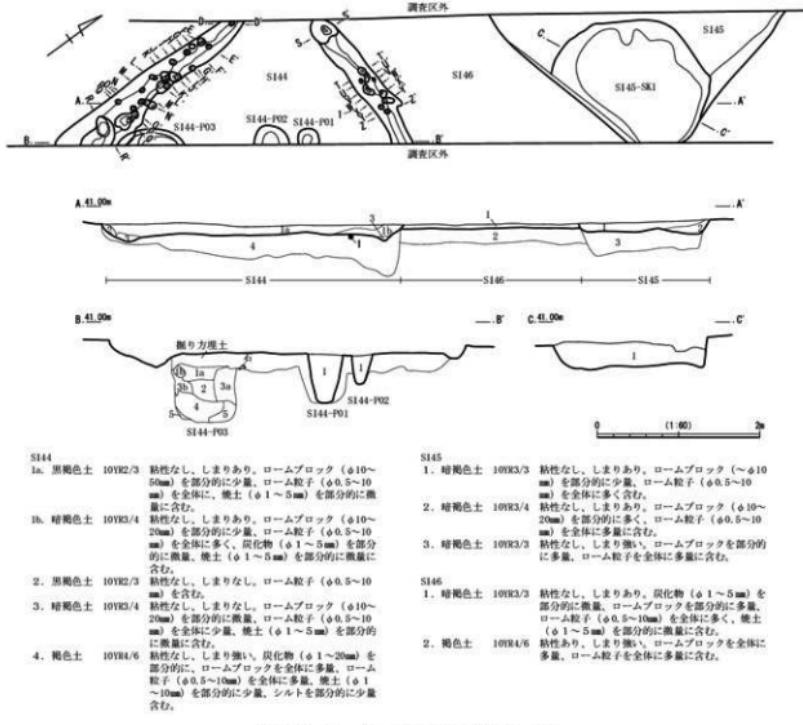
平面位置 AD-78・79、AE-79 グリッド

重複関係 44・45号竪穴建物跡より古い。

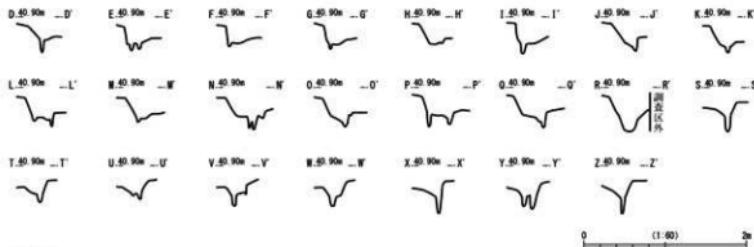
遺構形態 遺構は床面のみの検出で、平面サイズは長軸2.645m、短軸1.665m、遺構検出面からの深さは最大で0.1mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床である。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以前と推定される。



第64図 44・45・46号竪穴建物跡（1）



SI44-P01

1. 委開色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。炭化物（φ 0.1~10mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に多量に含む。

SI44-P02

1. 委開色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック（φ 10~20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に多量に含む。

SI44-P03

la. 委開色土 10YR3/3 粘性なし、しまり強い。白色粒子（φ 0.5~1mm）を全体に、ロームブロック（φ 10~50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に、地土（φ 3~5mm）を部分的に微量含む。

lb. 委開色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子（φ 0.5~1mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10~50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に、地土（φ 1~3mm）を部分的に微量含む。

2. 委開色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子（φ 0.5~1mm）を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に多量、地土（φ 3~10mm）を部分的に微量含む。

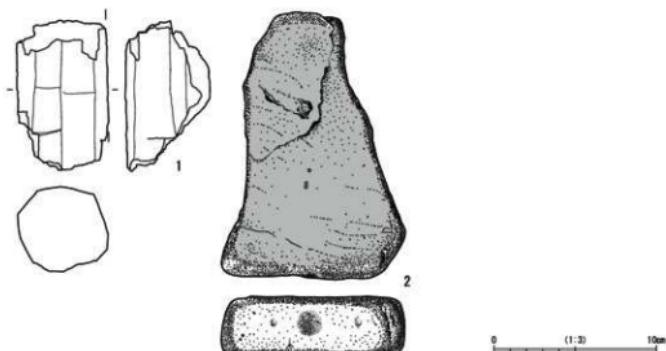
3a. 委開色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子（φ 0.5~2mm）を部分的に、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に多量、地土（φ 3~10mm）を部分的に微量含む。

3b. 黄色土 10YR4/4 粘性なし、しまりあり。白色粒子（φ 0.5~1mm）を部分的に少量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に多量に含む。

4. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子（φ 0.5~1mm）を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5~10mm）を全体に多量、地土（φ 3~10mm）を部分的に微量含む。

5. 委開色土 10YR3/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。

第65図 44・45・46号竪穴建物跡(2)

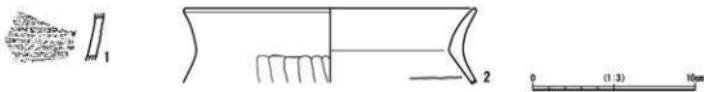


第66図 44号竪穴建物跡出土遺物

第24表 44号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土製品 支柱	長さ：(9.2) 幅：(5.6) 厚さ：(5.2) 重さ：165.8g	雲母・微砂粒	良好	20	明黄褐色 (10YR7/6)	外面縦ケズリ。

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
2	石皿・砥石・敲石	緑色岩	16.4	11.3	3.8	1130.0	表面平端部は滑面。また下端面中央部に浅い凹あり。その面は研磨痕がなく握ること可能なため敲石とした。



第67図 45号竪穴建物跡出土遺物

第25表 45号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	弥生土器壺	口径:- 高さ:(3.0) 底径:-	石英・雲母・ 微砂粒	良好	5以下	浅黄色 (2.5Y7/4)	輪廓不明にRを付加。
2	土師器壺	口径:(18.0) 高さ:(4.6) 底径:-	白色粒子・雲母・角 閃石・白色片状物質・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面纏ナデ。口縁部内外面強い模 ナデ。

48号竪穴建物跡 (第68・69図、第26表、図版3・4・9)

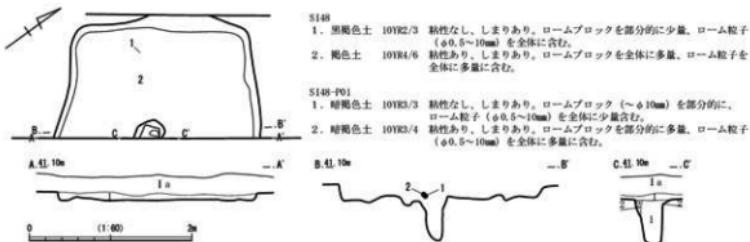
平面位置 AH - 81 グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北西壁、北東壁、南西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.545 m、短軸 1.52 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.27 m を測る。床はほぼ平坦で綺まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。南東側の調査区壁中央付近下の床面で柱穴が 1 基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺（ハケ調整の壺を含む）、赤彩の土器、石器は滑石製の紡錘車（第69図1）、砂岩製敲石（第69図2）、砂岩製環片などが検出されている。

時期 出土遺物から古墳時代後期頃と推定される。



第68図 48号竪穴建物跡



第69図 48号竪穴建物跡出土遺物

第26表 48号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	被成	残存率(%)	色調	所見
1	石製品 筋縫車	長さ:3.8 幅:3.9 厚さ:1.7 重さ:38.1g	石英・雲母 (筋縫車)	良好	100	灰色(N4/0)	孔径8mm、やや歪む。上面に擦痕が残る。滑石製
2	蔽石	砂岩	<2.8>	最大長(cm) <5.9>	最大幅(cm) <5.1>	重量(g) 101.5	上部を大きく欠損。下端部に蔽石痕。あばた状を呈する。

49号竪穴建物跡（第70図）

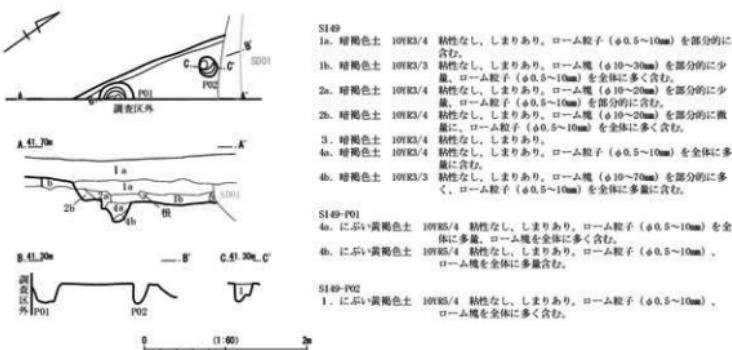
平面位置 AD・AG-78グリッド

重複関係 1号溝跡より古い。

遺構形態 遺構は西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.015m、短軸0.715m、検出面からの深さは最大で0.505mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。床面で柱穴が2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期以降と推定される。



第70図 49号竪穴建物跡

50号竪穴建物跡（第71～74図、第27表、図版4・10）

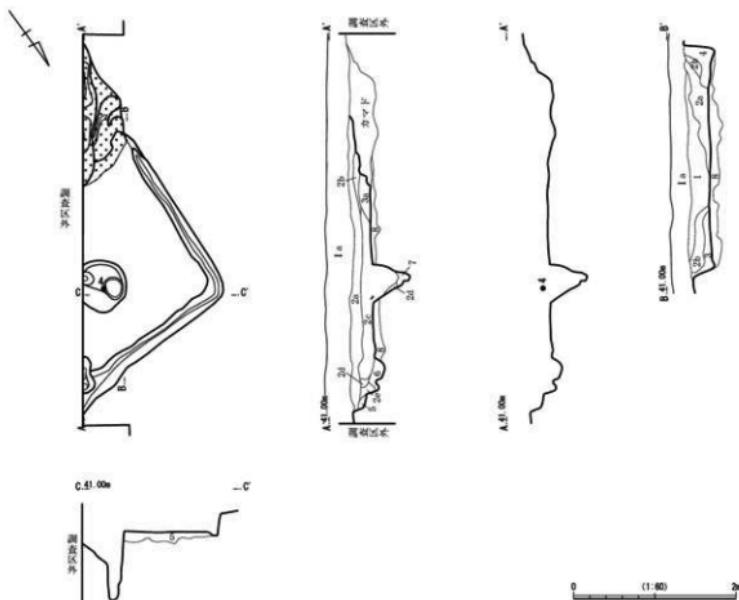
平面位置 AH - 81・82、AI - 82 グリッド

重複關係 なし

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 3.36 m、短軸 2.0 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.235 m を測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。竈は西壁の南西角側で検出された隅竈の可能性のある竈である。右袖の一部と煙道の一部が検出され、長軸 1.75 m を測る。構築材上に土師器鉢（第 74 図 3）が正位で、須恵器蓋（第 74 図 2）が逆位で並んで検出され、その下位に土師器坏（第 74 図 1）が焼成を受けたシルト質土を内側に込めて固定されたような状態で検出された。これら 3 点の土器は出土状況から意識的な遺棄の可能性がある。構築材は砂質シルト質土であるが、中には直径 10cm 以下の川原石が強度を保つために念入り混ぜられており、他の住居とは異なっている。燃焼部は確認されていない。柱穴が北壁寄りの床面で 1 基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし、黒褐色土、褐色土、明褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物散漫に分布しており、土師器の須恵器壺蓋模倣の坏（第74図1）、壺（第74図4）、鉢（第74図3）、須恵器蓋（第74図2）、壺、砂岩、片岩、石英、チャート製の礫片などが検出されている。

時期 出土遺物から古墳時代後期と推定される。



第71圖 50号豎穴建物跡（1）

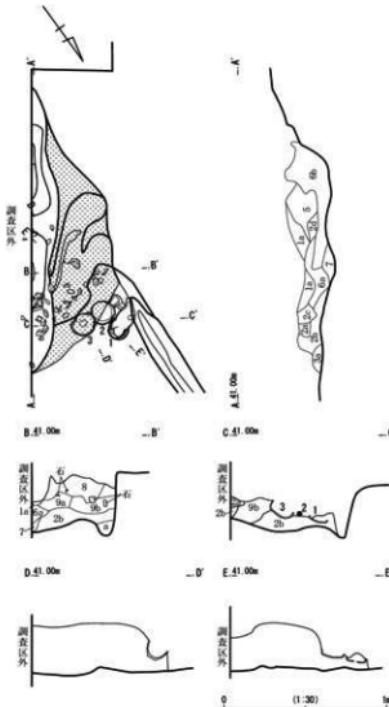
S150

1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少量含む。
- 2a. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に微量、地土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に微量含む。
- 2b. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に微量、地土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に微量含む。
- 2c. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）・ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少く、地土（ $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少く、地土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少く含む。
- 2d. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、炭化物（ $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に含む。
- 2e. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を全体に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量、炭化物（ $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に含む。
3. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
- 3a. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を全体に、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に、地土（ $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少く含む。
4. 明褐色土 7.5YR5/6 粘性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、シルトを全体に微量、地土を全体に多量に含む。
5. 棕褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりなし。ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量含む。
6. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ ）を部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く含む。
7. 黄褐色土 10YR5/6 粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量含む。
8. 棕褐色土 7.5YR4/6 粘性あり、しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

S150-P01

- 2d. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。白色粒子（ $\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

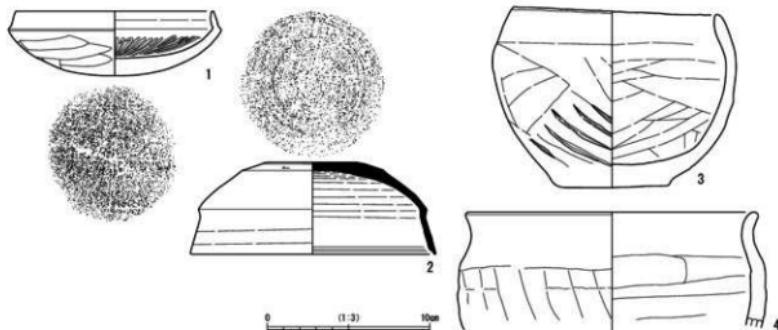
第72図 50号堅穴建物跡(2)



S150 カマド

- 1a. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまり強い。シルトを全体に多量、輕石（ $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ ）を全体に、地土（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少く含む。
- 2a. 棕褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまり多い。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
- 2b. 棕褐色土 10YR4/6 粘性強い、しまり多い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
- 2c. 黑褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまり多い。地土（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に微量、シルトを全体に多量に含む。
- 2d. 明褐色土 7.5YR4/8 粘性なし、しまり強い。地土を全体に多量含む。
3. 單褐色土 10YR3/4 粘性あり、しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
5. 單褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりなし。シルトを全体に多量、地土を全体に多く、炭化物（ $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少く、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
- 6a. 混褐色土 7.5YR4/3 粘性あり、しまりなし。地土を全体に多く含む。
- 6b. 黑褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりなし。シルト（ $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少く、地土（ $\phi 3 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に含む。
7. 單褐色土 10YR3/3 粘性あり、しまりなし。炭化物（ $\phi 5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 30\text{mm}$ ）を部分的に少く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
8. 黄褐色土 10YR5/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少く、シルトを全体に多量、地土（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に多く含む。
- 9a. 棕褐色土 7.5YR4/6 粘性あり、しまり多い。地土を全体に多量、シルトを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少く含む。
- 9b. 棕褐色土 10YR4/4 粘性あり、しまり強い。地土（ $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少く、シルトを全体に多量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に少く含む。
- a. 棕褐色土 10YR4/6 粘性あり、しまりあり。ロームブロック・ローム粒子を含む。

第73図 50号堅穴建物跡カマド



第74図 50号竪穴建物跡出土遺物

第27表 50号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	粘土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 环	口径:12.2 高さ:4.0 底径:13.0	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色鉱状物質	良好	100	にふい黄褐色 (10YR6/4)	底部外面ヘラケズり。ミガキ。内面 放射状のミガキ。口縁部内外面横ナデ。
2	須恵器 蓋	口径:(5.4) 高さ:(5.6) 底径:14.9	白色粒子・石英・小礫・ 微砂粒	良好	85	灰白色(5Y7/1)	左ロクロ。頂部回転ヘラケズリ。頂部 に平行線のヘラ描きが認められる。
3	土師器 鉢	口径:(12.4) 高さ:10.9 底径:6.7	白色粒子・石英・雲母・ 微砂粒	良好	75	明赤褐色 (2.5YR5/6)	胸部外面ナデ。内面黒色処理、ミガキ。 口縁部内外面横ナデ。胸部外面に擦痕 がある。紙石として再利用したものと 思われる。
4	土師器 甕	口径:17.6 高さ:(7.5) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 白色鉱状物質・微砂 粒	良好	5以下	褐色(5YR6/6)	胸部外面斜位のケズリ。内面横ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。

51号竪穴建物跡（第75～77図、第28表、図版4・10）

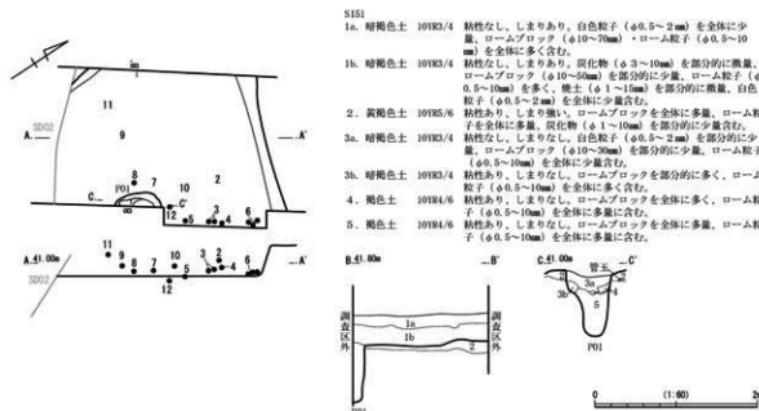
平面位置 AH - 59・60 グリッド

重複関係 2号溝跡

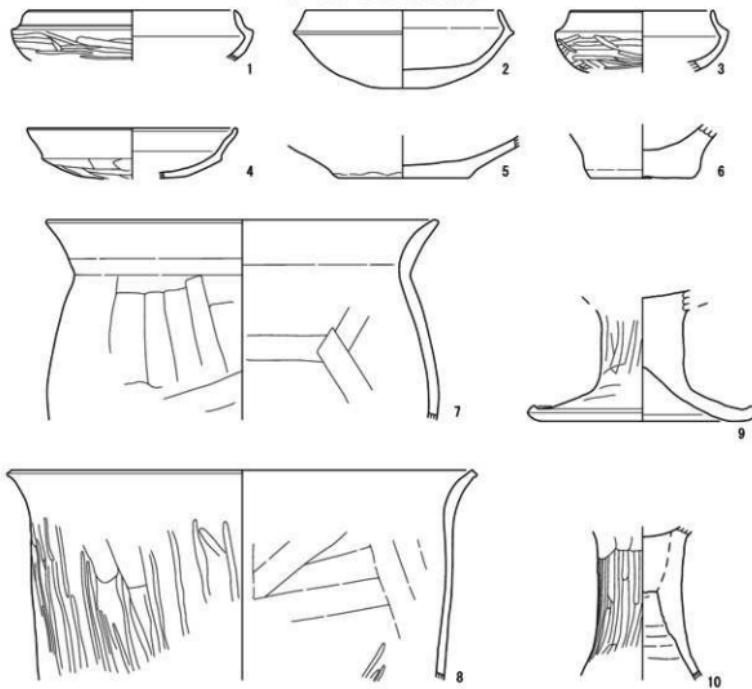
遺構形態 遺構は北壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.67 m、短軸 1.82 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.385 m を測る。床は縮まりがない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が 1 基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は覆土中から多く検出されており、単口縁の土師器壺（第76図7）、甕（第〇図6）、須恵器環身模倣の环（第76図1～3）、須恵器环蓋模倣の环（第76図4）、壺（第76図5）、高环の脚部（第76図9・10）、甕（第76図8）、口縁部が直立する鉢（第77図11）、掘方埋め土出土の碧玉製の管玉（第77図12）、使用痕が観察されたチャート製の小形磨石（第77図13）、赤彩の土器、チャート製、砂岩製の礫、石英製、片岩製の礫片などが検出されている。

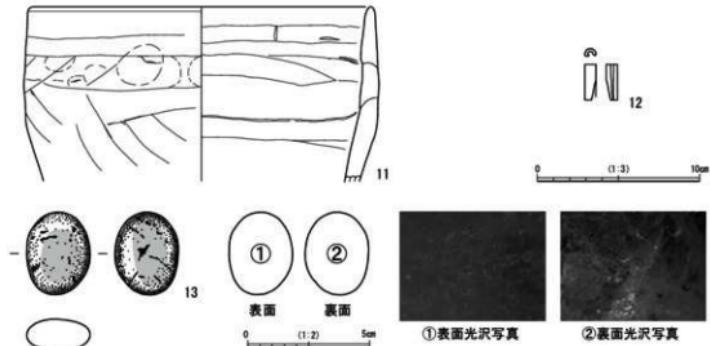
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第75図 51号竖穴建物跡



第76図 51号竖穴建物跡出土遺物（1）



第77図 51号竖穴建物跡出土遺物（2）

第28表 51号竖穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 环	口径:(12.55) 高さ:(3.1) 底径:-	白色粒子・雲母・角 閃石・微砂粒	良好	10	明赤褐色 (5YR5/6)	底部外面へラケズリ後ミガキ、内面ナ デ。口縁部内外強い横ナデ。内外面 黒色化。
2	土師器 环	口径:(12.0) 高さ:4.8 底径:(13.5)	白色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石・白色 針状物質・ 微砂粒	良好	40	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	底部外面へラケズリ後、ミガキ、内面 ナデ。口縁部内外強い横ナデ。
3	土師器 环	口径:(8.6) 高さ:(3.8) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	15	橙色(7.5YR6/6)	底部外面ケズリ後横ナデ。内面ナデ。 口縁部内外強い横ナデ。
4	土師器 环	口径:(12.6) 高さ:(3.3) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・ 白色針状物質・ 微砂粒	良好	25	橙色(5YR6/6)	底部外面中心部へラケズリ後、肩部 へラケズリ。内面ナデ。口縁部内外面 強い横ナデ。
5	土師器 壺	口径:- 高さ:(2.6) 底径:(8.0)	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	肩部下端ナデ、凹凸が認められる。内 面ナデ。底部外面ナデ。
6	土師器 壺	口径:(7.4) 高さ:(3.3) 底径:6.2	白色粒子・石英・角 閃石・小繩・微砂粒	良好	5以下	橙色(7.5YR6/6)	内面ナデ。
7	土師器 壺	口径:(24.0) 高さ:(12.3) 底径:-	白色粒子・雲母・角 閃石・白色針状物質・ 微砂粒	良好	10	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	肩部外面横ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外強い横ナデ。
8	土師器 壺	口径:(28.4) 高さ:(12.9) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・小繩・微砂 粒	良好	10	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	肩部外面ケズリ後縦ミガキ、内面横ナ デ。口縁部内外強い横ナデ。
9	土師器 高杯	口径:- 高さ:12.2 底径:(12.6)	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・小繩・微砂 粒	良好	60	赤色(10R5/6)	脚部外面纏ナデ。底部横ナデ。环部及 び脚部外面赤彩。
10	土師器 高杯	口径:- 高さ:(9.4) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	35	明褐色 (7.5YR5/6)	脚部外面纏ナデ。底部内面赤彩。
11	土師器 鉢	口径:(20.1) 高さ:(10.65) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 角閃石・微砂粒	良好	20	明赤褐色 (2.5YR5/6)	肩部外面ケズリ後、部分的にナデ。内 面横ナデ。口縁部指痕が残る。外面 黒斑が認められる。
12	石製品 碧玉	長さ:3.2 長径:(0.7) 穿孔:- 重さ:0.8 g	碧玉	良好	45	暗オリーブ灰色 (5GY3/1)	片側穿孔。外面ミガキ。碧玉製

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
13	磨石	チャート	3.4	2.6	1.2	16.2	表裏の平端面は非常に平滑。

52号竪穴建物跡（第78図）

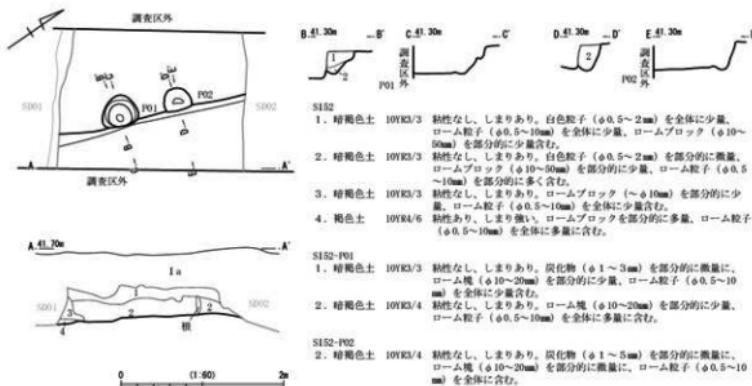
平面位置 AG - 78・79 グリッド

重複関係 1・2号溝跡より古い。

遺構形態 遺構は西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.38 m、短軸 0.915 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.4 m を測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が西壁に沿って 2 基検出されている。これらの柱穴は、切り合い関係が確認できなかつたので、建物に帰属する遺構と認定した。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第78図 52号竪穴建物跡

67号竪穴建物跡（第79図）

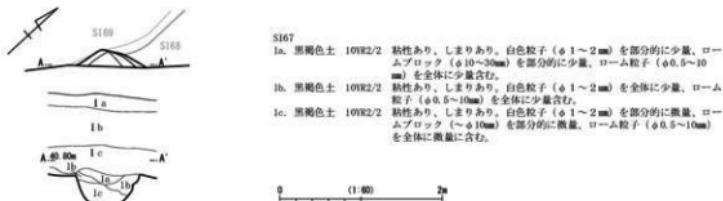
平面位置 AN - 84 グリッド

重複関係 68・69号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁、西壁の一部、北西角と床が検出され、平面サイズは長軸 1.95 m、短軸 0.88 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.415 m を測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第 79 図 67 号竪穴建物跡

68 号竪穴建物跡（第 80 図）

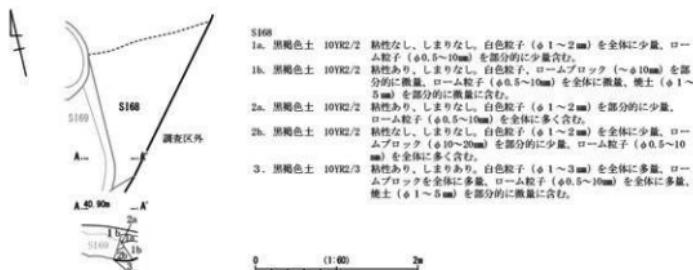
平面位置 AN - 84 グリッド

重複関係 67・69 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は床面のみが検出され、平面サイズは長軸 1.63 m、短軸 1.56 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.385 m を測る。床は踏み締まりが強い床である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。



第 80 図 68 号竪穴建物跡

(3) 土坑

土坑は 1 基検出されたのみである。

3 号土坑（第 81・82 図、第 29 表、図版 4・10）

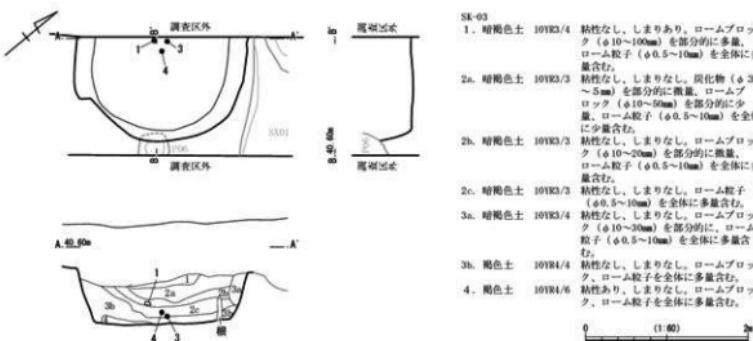
平面位置 T - 68・69 グリッド

重複関係 1 号性格不明遺構より新しく、6 号ピットより古い。

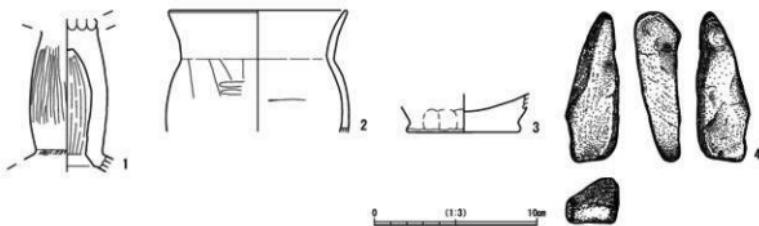
遺構形態 遺構は平面サイズが長軸 1.33 m、短軸 1.26 m である。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がり、遺構検出面からの深さは最大で 0.6 m である。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器高杯（第82図1）、甕（第82図2・3）、磨石+敲石（第82図4）、砂岩製の礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。



第81図 3号土坑



第82図 3号土坑出土遺物

第29表 3号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:- 高さ:(9.2) 底径:-	白色粒子・石英・角 閃石・微砂粒	良好	30	明赤褐色 (2.5YR5/6)	脚部外面縦ナデ。内面絞り痕が残る。
2	土師器 甕	口径:11.0 高さ:(7.5) 底径:-	白色粒子・石英・角 閃石・微砂粒	良好	5以下	灰褐色(5YR4/2)	内外面横ナデ。
3	土師器 甕	口径:- 高さ:(2.4) 底径:7.0	白色粒子・赤色粒子・ 石英・微砂粒	良好	5以下	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面ケズリ。内面ナデ。
図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
4	磨石・敲石	緑色岩	9.2	3.3	2.8	96.8	下端部は平滑で平滑。その周辺の稜線部に敲打痕が みられる。左下側面部は折れ欠損したが、そのうち も敲打が行われている。

(4) 性格不明遺構

2号性格不明遺構（第83図）

平面位置 U-69・70グリッド

重複関係 18号堅穴建物跡、3号性格不明遺構より新しい。

遺構形態 遺構は南南西側では壁が検出されているが形状が不明で、底面が西北西から東南東方向に延び、長軸1.73m、短軸0.82m、深さ0.29mを測る。底面は弧状で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕、手づくね土器、横走する平行沈線文が施された縄文時代前期の興津式土器（第〇図5）、砂岩の礫などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

3号性格不明遺構（第83図）

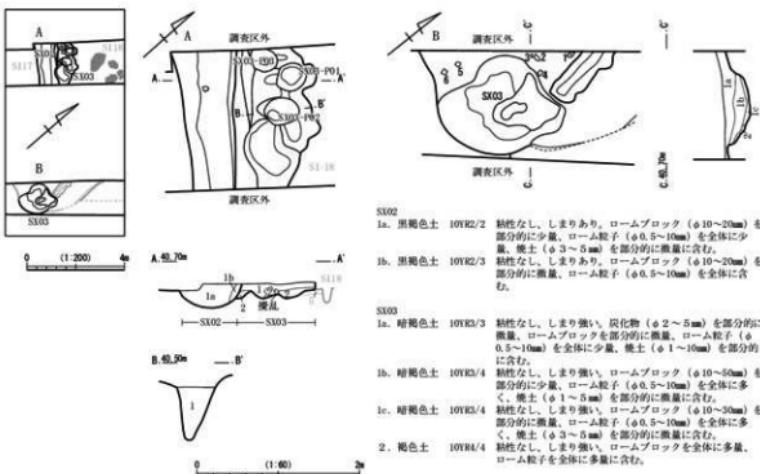
平面位置 U-69・70グリッド

重複関係 18号堅穴建物跡より新しく、2号性格不明遺構より古い。

遺構形態 北西側は不定形な溝状の掘り込み（最大長1.87m、最大幅1.14m、最大深0.17m）で底面にピットを2基持ち、南東側は不定形な掘り込み（最大長3.82m、最大幅1.28m、最大深0.32m）で、床は部分的に凹凸があり、壁は緩やかから急角度で立ち上がる。ある。覆土は北東側では黒褐色土を主体とし、南東側では暗褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 遺物は、土師器甕、塊、片岩製の砾器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



第83図 2・3号性格不明遺構

(5) ピット

4号ピット（第84図）

平面位置 P - 64 グリッド

重複関係 9号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は長楕円形で、長軸 0.3 m、短軸 0.22 m、深さ 0.58 m を測る、覆土は黒褐色土を主体とするが、1a・b層は柱抜き取り痕と推定される。

遺物 遺物は、土師器甕が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期以降と推定される。

5号ピット（第84・85図、第30表、図版4・11）

平面位置 P・Q - 62 グリッド

重複関係 10号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は楕円形で長軸 1.02 m、短軸 0.935 m、深さ 0.62 m を測り、床面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は暗褐色土を主体とし、黒褐色土を含む。1a・b層が柱抜き取り痕で、2層が柱埋め土の可能性がある。

遺物 遺物は、土師器甕、砂岩製の礫器+石皿+敲石（第85図1）などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期以降と推定される。

6号ピット（第84図）

平面位置 T - 68 グリッド

重複関係 3号土坑より新しい。

遺構形態 遺構は、平面は不定形で、長軸 0.4 m、短軸 0.32 m、深さ 0.32 m を測り、床面は不明で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は、暗褐色土を主体とし、底面に柱の当りと思われる黄褐色土を含む。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代前期以降と推定される。

9号ピット（第86図）

平面位置 S - 67 グリッド

重複関係 16号竪穴建物跡、10号ピットより新しい。

遺構形態 以降は、平面形は楕円形で、長軸 0.24 m、短軸 0.21 m、深さ 0.405 m を測り、覆土は黒褐色土の単層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以降と推定される。

10号ピット（第86図）

平面位置 R・S - 67・68 グリッド

重複関係 16号竪穴建物跡より新しく、9号ピットより古い。

遺構形態 遺構は、平面形は楕円形で、長軸 0.43 m、短軸 0.36 m、深さ 0.23 m で、覆土は黒褐色

土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代後期以前と推定される。

11号ピット（第86図）

平面位置 Y-72 グリッド

重複関係 25号竪穴建物跡、6号性格不明遺構より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は不定形で長軸 0.345 m、短軸 0.245 m、深さ 0.31 m で、覆土は黒褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。

12号ピット（第86図）

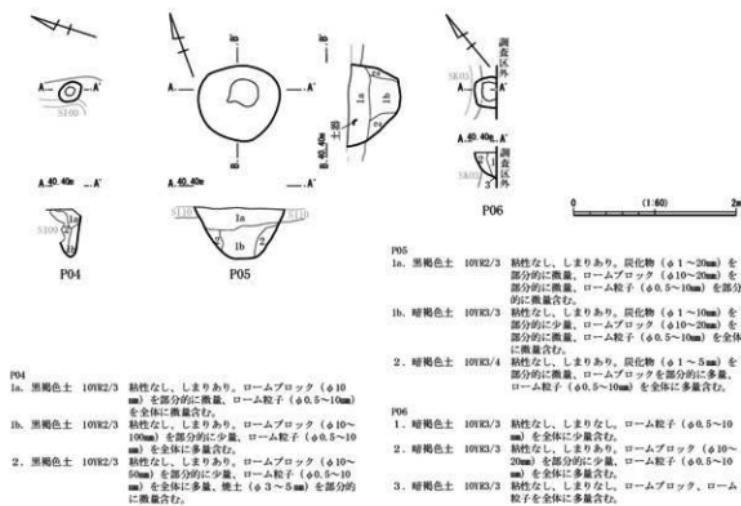
平面位置 Z-73 グリッド

重複関係 27号竪穴建物跡、9号土坑より新しい。

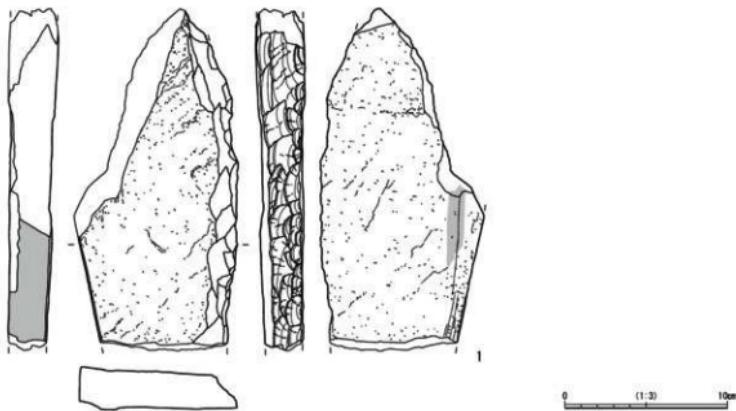
遺構形態 平面形は長楕円形で、長軸 0.38 m、短軸 0.315 m、深さ 0.635 m で、覆土は褐色土の單一層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。



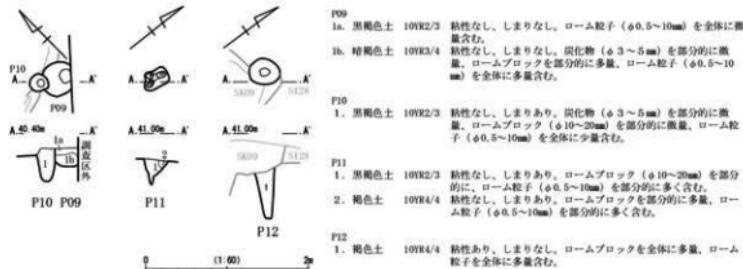
第84図 4・5・6号ピット



第85図 5号ピット出土遺物

第30表 5号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
1	石皿・櫛器・砥石	砂岩	<21.0	<10.1	<3.0	796.8	平たい素材で右側縁を連続する剥離を施し、刃をしている。右側下部は砥石として使用か?裏面右下半部にも摩耗著しい部分がある。



第86図 9・10・11・12号ピット

第4節 奈良～平安時代

(1) 遺構の概要

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡

竪穴建物跡 16軒、溝跡 1条、土坑 1基、性格不明遺構 1基などが検出されている。遺構は、調査区南西から北東の範囲に散発的に分布している。

(2) 竪穴建物跡

2号竪穴建物跡 (第 87 ~ 89 図、第 31 表、図版 5・11)

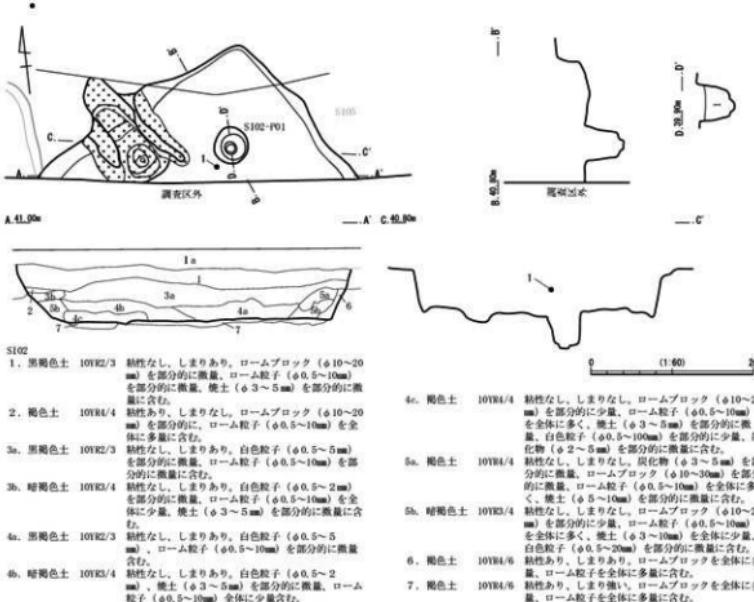
平面位置 P - 61・62 グリッド

重複関係 4・5号竪穴建物跡より新しい。

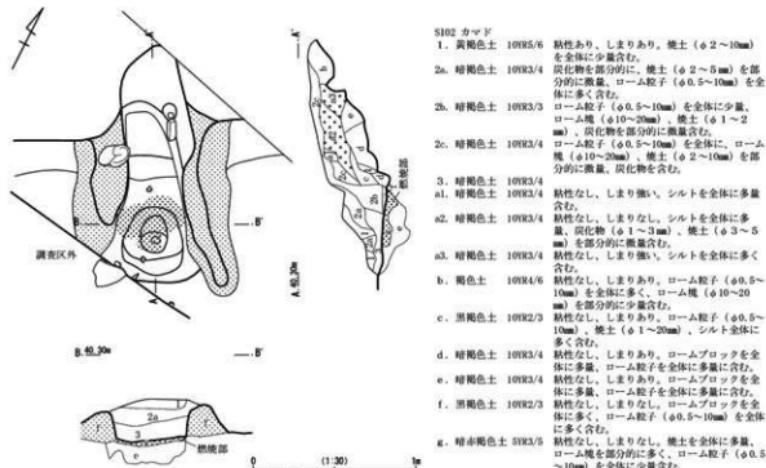
遺構形態 遺構は北壁と東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.985 m、短軸 1.91 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.69 m を測る。床はほぼ平坦で硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。北壁中央に竈が設置され、焚口から煙道まで 1.465 m を測る。竈の構築材はシルト質土である。柱穴が 1 基検出されている。覆土は黒褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕、壺 (第 89 図 1)、須恵器甕、碟、碟片などが検出されている。

時期 出土遺物と他の遺構との切り合い関係から奈良時代以降と推定される。



第 87 図 2号竪穴建物跡



第88図 2号竖穴建物跡カマド



第89図 2号竖穴建物跡出土遺物

第31表 2号竖穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 环	口径: (16.0) 高さ: 5.1 底径:-	石英	良好	30	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	底部外面中央部へラケズリ後、周辺部 ヘラケズリ。口縁部内外強い横ナデ。

5号竖穴建物跡 (第90図)

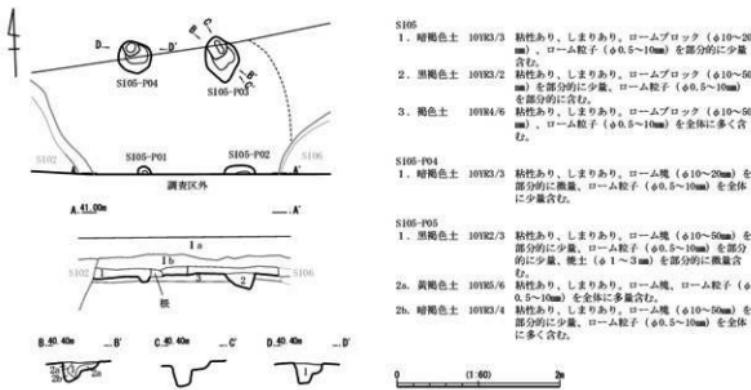
平面位置 P - 62

重複関係 2・6号竖穴建物跡より古い。

構造形態 遺構は掘方が浅く、床面のみの検出で、平面サイズは長軸 2.625 m、短軸 1.73 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.13 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのある貼り床である。柱穴が南壁下で 2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器窯が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代以降と推定される。



第90図 5号竖穴建物跡

16号竖穴建物跡 (第91~93図、第32表、図版11)

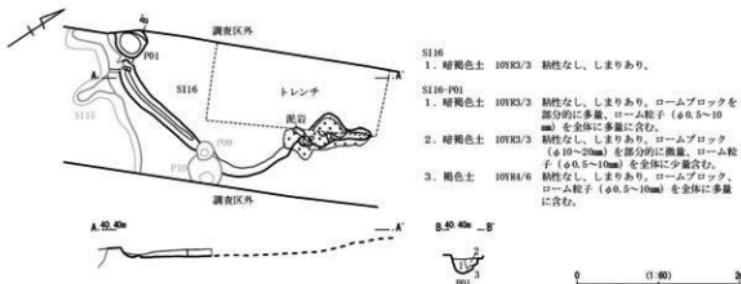
平面位置 R - 67, S - 67・68グリッド

重複関係 15号竖穴建物跡より古い。

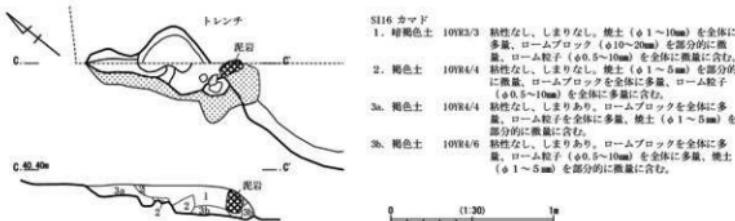
遺構形態 遺構は、東竈と東壁、西壁の一部と床と南壁が検出され、平面サイズは長軸2.5m、短軸1.2m、遺構検出面からの深さは最大で0.085mを測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、南壁には周溝が形成されている。床面の西側で柱穴が1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。竈は東壁の中央部付近に設けられているが、試掘溝の掘削により半分以上が破壊されている。竈の構築材はシルト質土を使用しており、部分的に泥岩を使用している。覆土は褐色土が堆積している。

遺物 遺物は土師器窯（第93図1）、礫片などが検出されている。

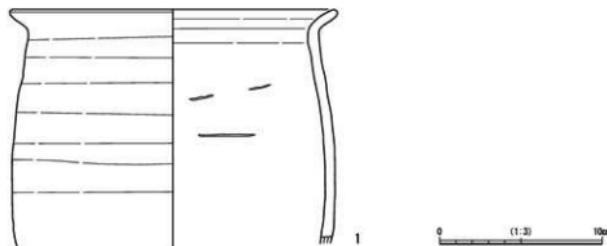
時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代と推定される。



第91図 16号竖穴建物跡



第92図 16号堅穴建物跡カマド



第93図 16号堅穴建物跡出土遺物

第32表 16号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 壺	口径:(20.0) 高さ:<14.4> 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 小砾	良好	10	橙色 (5YR6/6)	腹部内外面横ナデ、その後口縁部内外面強い横ナデ。

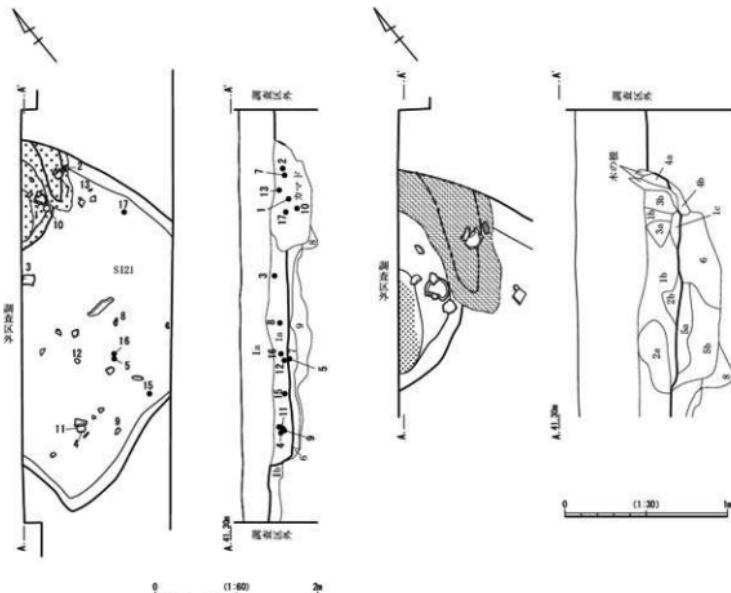
21号堅穴建物跡 (第94・95図、第33表、図版11)

平面位置 W・X-71グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は、南壁、西壁、東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸 2.875 m、短軸 2.4 m、遺構検出面からの深さは最大で 0.285 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりのない貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。竈が東壁北よりから調査区北東壁付近で部分的に検出されている。竈の構築材はシルト質土を基層として使用し、右袖のみが検出され焚口から煙道付近までの天井部は破壊されている。竈内から土師器壺破片が検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

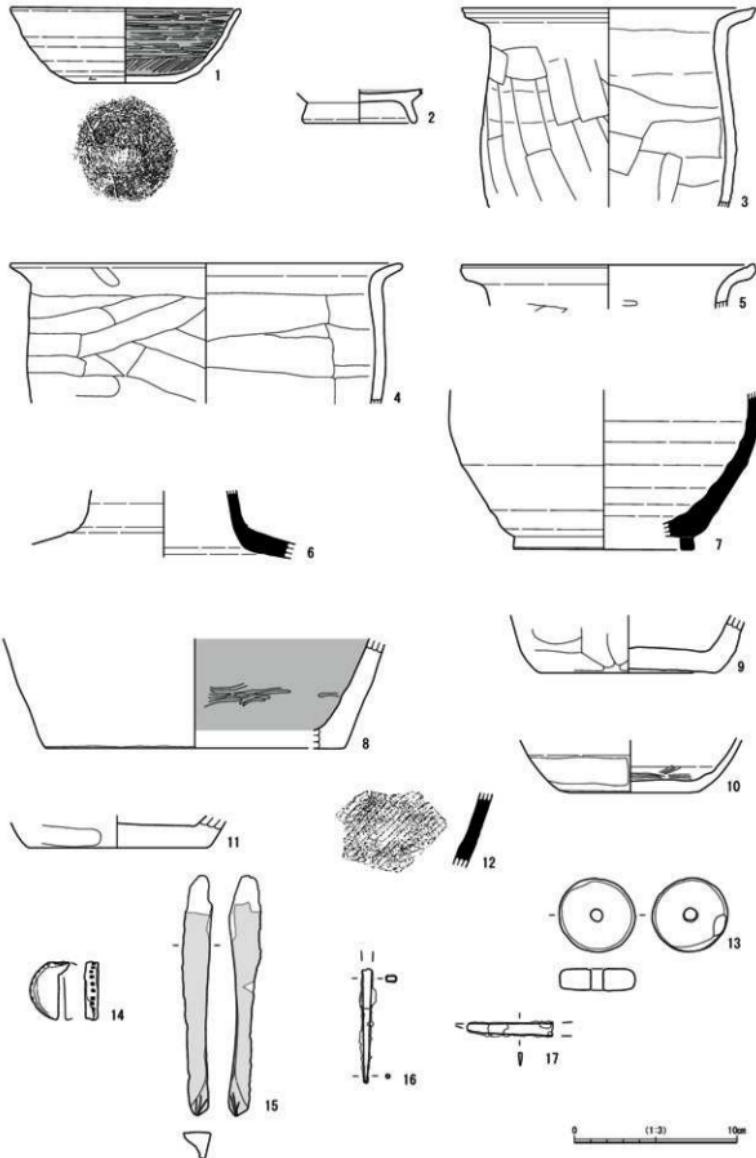
遺物 遺物は、覆土と床面から散漫に分布している。土師器ロクロ成形の壺 (第95図1)、高台付壺 (第95図2)、壺 (第95図3~5・8・9・11)、瓶 (第95図4)、鉢 (第95図10)、須恵器壺 (第95図6・7)、壺 (第95図12)、土製品の紡錘車 (第95図13)、円形の耳飾り状の土製品 (第95図14)、砂岩製の砥石 (第95図15)、鐵鎌 (第95図16)、刀子 (第95図17)、などが検出されている。



- SI21
1a. 喻褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。炭化物 ($\phi 1\sim50mm$) を全体に多く、ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に、他土 ($\phi 1\sim20mm$) を全体に少量、シルト ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に少量含む。
1b. 喻褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。炭化物 ($\phi 1\sim50mm$) を全体に多く、ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に、他土 ($\phi 1\sim10mm$) を部分的に少量含む。ローム粒子 ($\phi 1\sim10mm$) を部分的に少量含む。
1c. 褐色土 10YRA/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多く含む。
2a. 喻褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりなし。他土 ($\phi 1\sim10mm$) を全体に多く、炭化物 ($\phi 1\sim50mm$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を部分的に少
2b. 喻褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。他土 ($\phi 1\sim10mm$) を全体に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に、炭化物 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量、シルト ($\phi 1\sim30mm$) を部分的に少
3a. 喻褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。炭化物 ($\phi 1\sim15mm$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を部分的に少
3b. 喻褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりなし。炭化物 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に、他土 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量、シルト ($\phi 1\sim10mm$) を部分的に微量含む。

- 4a. 褐色土 10YRA/6 粘性なし。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量、他土 ($\phi 1\sim10mm$) を部分的に少量、シルト ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に少
4b. 褐色土 10YRA/6 粘性なし。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量、他土 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に少
5a. 褐色土 7.5YRA/2 粘性なし。しまり強め。他土を全体に多く、シルト ($\phi 1\sim10mm$) を部分的に多量含む。
5b. 喻褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim30mm$) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に、他土 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量含む。
6. 褐色土 10YRA/4 粘性なし。しまりあり。シルトを全体に多く、ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に、他土 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量含む。
7. 褐色土 10YRA/6 粘性なし。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を部分的に少
8. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし。しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim10mm$) を全体に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に微量含む。
9. 喻褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強め。炭化物 ($\phi 1\sim10mm$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$) を部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に微量含む。他土 ($\phi 1\sim20mm$) を部分的に微量、シルトを部分的に多く含む。

第94図 21号堅穴建物跡



第95図 21号竪穴建物跡

第33表 21号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 环	口径:14.0 高さ:4.6 底径:6.2	雲母・小礫・微砂粒	良好	100	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	内外面口クロナデ。底部外面回転角切り後、周辺部回転ヘラケズリ。内面黑色処理後、細かなミガキ。
2	土師器 高台付环	口径:- 高さ:(2.1) 底径:7.1	雲母・白色針状物質・ 微砂粒	良好	20	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	高台部貼り付け。环内部内面黑色処理後、ミガキ。
3	土師器 甕	口径:(18.0) 高さ:(12.2) 底径:-	雲母・小礫・ 微砂粒	良好	10	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	胴部外面斜位のナデ後、最上段横ナデ。内面横ナデ。口縁部内面強い横ナデ。常陸型甕。
4	土師器 壺	口径:(24.0) 高さ:(8.6) 底径:-	石英・雲母・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	胴部外面斜位及び横ナデ。内面横ナデ。口縁部内外面横ナデ。
5	土師器 甕	口径:(16.0) 高さ:(2.8) 底径:-	雲母・小礫	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	口縁部内外面強い横ナデ。常陸型甕。
6	須恵器 壺	口径:- 高さ:(4.1) 底径:-	角閃石・微砂粒	良好	10	黄灰色 (2.5Y5/1)	内外面口クロナデ。肩部に自然軸がかかる。
7	須恵器 壺	口径:- 高さ:(9.8) 底径:(11.0)	石英	良好	10	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	輪轂整形後、高台部貼り付け。外面部に自然軸がかかる。
8	土師器 甕	口径:- 高さ:(6.4) 底径:(18.2)	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	外面黒ケズリ。内面黑色処理後、細かな横ミガキ。
9	土師器 甕	口径:(13.4) 高さ:(3.7) 底径:10.6	白色粒子・石英・角 閃石・微砂粒	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面胴部下端ケズリ。底部内外面ナデ。
10	土師器 鉢?	口径:- 高さ:(3.4) 底径:8.4	角閃石・小礫・ 微砂粒	良好	15	褐灰色 (7.5YR4/1)	胴部外面ナデ。内面細かなミガキ。底部外面ヘラケズリ。
11	土師器 甕	口径:(2.0) 高さ:(11.0)	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	内面ナデ。
12	須恵器 甕	口径:- 高さ:(4.8) 底径:-	石英・微砂粒	良好	5以下	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面平行線状のタタキ。
13	土製品 紡錘車	長さ:4.5 幅:4.6 厚さ:1.3 重さ:32.0g	白色粒子・石英	良好	100	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	側面に指痕を残す。
14	土製品 耳鉢?	長さ:(3.55) 幅:(2.4) 厚さ:(0.9) 重さ:6.5g	石英・角閃石	良好	50	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	扁平で平面形は円形を呈し、中央部分に切り込みを入れる。側面は柳状工具による刺突が巡る。
15	石製品 砥石	長さ:(14.8) 幅:(1.9) 厚さ:(2.0) 重さ:38.1g	なし			灰黄褐色 (10YR6/2)	2面を使用、長軸方位で破砕している。砂岩。
16	鉄製品 鉄鎌	長さ:(7.0) 幅:(0.7) 厚さ:(0.35) 重さ:7.9g	鉄製品			赤褐色 (2.5YR4/6)	端部は丸みを帯びる。
17	鉄製品 刀子?	長さ:(5.3) 幅:(0.8) 厚さ:(0.2) 重さ:4.6g	鉄製品			赤褐色 (5YR4/6)	断面三角形を呈することから刀子と考えられる。二個体以上が付着したものか。

時期 出土遺物から平安時代（9世紀中頃）と推定される。

23号竪穴建物跡（第96・97図、第34表、図版12）

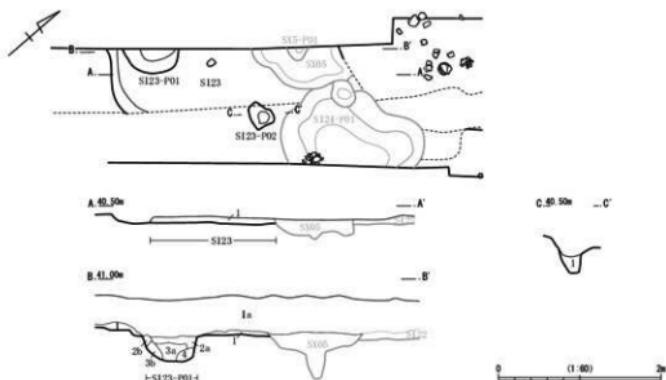
平面位置 U・V-71・72グリッド

重複関係 22・24号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は南西壁付近と床が検出され、平面サイズは長軸2.475m、短軸0.8m、遺構検出面からの深さは最大では0.06mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が南西壁際の床面から1基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、高坏（第97図1）、土師器の常陸型甕（第97図2）、高台付坏（第97図3）、礫片（砂岩、片岩）などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第34表 23号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径: - 高さ: (7.2) 底径: -	雲母・角閃石・白色 針状物質・小礫・微砂粒	良好	40	褐色 (5YR6/6)	脚部外面縦ミガキ。内面絞り痕の质感が認められる。
2	土師器 甕	口径: (18.0) 高さ: (3.0) 底径: -	白色粒子・雲母・角 閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	口縁部内外面強い横ナデ。常陸型甕。
3	土師器 壺	口径: - 高さ: (1.4) 底径: (6.5)	白色粒子・赤色粒子・ 雲母・白色針状物質・ 微砂粒	良好	15	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	底部外面回転糸切り後。高台貼り付け。 内面黒色処理後ミガキ。

33号竪穴建物跡（第98～100図、第35表、図版5・12）

平面位置 AA・AB-76グリッド

重複関係 34号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸3.045m、短軸1.695m、遺構検出面からの深さは最大で0.105mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。窓は北壁に設けられ、焚口から煙道までの天井部が破壊され、右袖のみが残されている。窓の構築材はシルト質土を使用しており、燃焼部は焼成が良好で赤化、硬化している。柱穴が竪石際と北西壁際で3基検出されている。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 出土遺物は散漫に出土しているが、土師器甕（第100図1・2）、瓶（第100図3）、須恵器甕、器種不明の鉄製品、片岩製の砥石、緑色岩製の磨石・敲石（第100図4）、縄文施文の縄文時代中期の縄文土器、礫器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代（9世紀前半）と推定される。

34号竪穴建物跡（第98・101図、第36表、図版12）

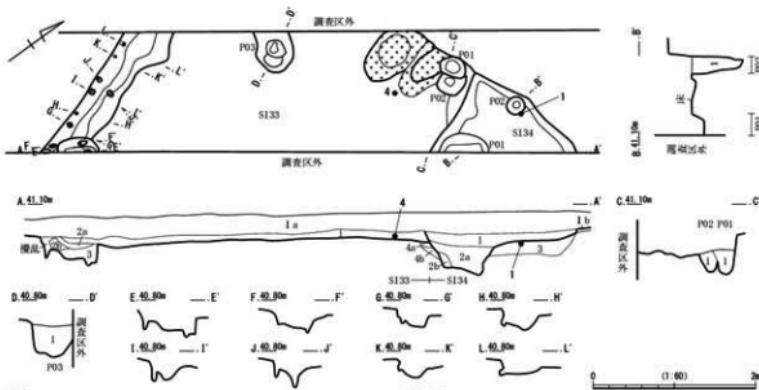
平面位置 AC-76グリッド

重複関係 33号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁と西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.55m、短軸1.115m、遺構検出面からの深さは最大で0.01mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが弱い貼り床である。柱穴が2基検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕（第101図1・2）が検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代以前と推定される。



- S133
1. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。炭化物 ($\phi 1 \sim 3\text{mm}$) を部分的に微細、ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に微細、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を全体に、白い粘土 ($\phi 0.5 \sim 1\text{mm}$) を全体に含む。
- 2a. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に、白色粘土 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 2b. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。
3. 褐色土 10YR6/6 粘性なし。しまりあり。ロームブロックを部分的に含む、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に微量含む。
- 4a. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
- 4b. にじむ黃褐色土 10YR4/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
- S133-P01
1. 埋藏褐色土 10YR3/4 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全量に多量、他土 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) を部分的に含む。

S133-P02
1. 埋藏褐色土 10YR3/4 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全量に多量、他土 ($\phi 1 \sim 10\text{mm}$) を部分的に微量含む。

S133-P03
1. 埋藏褐色土 10YR4/6 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全量に微量含む。

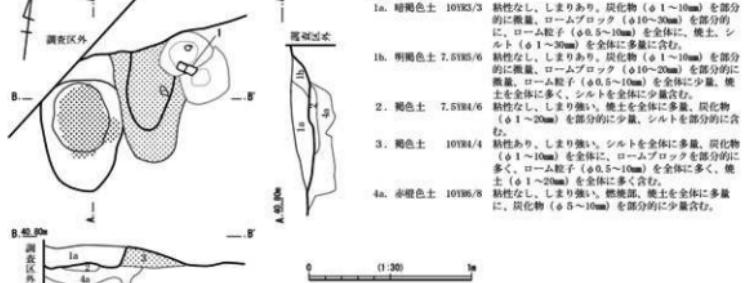
S134
1. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。白色粘土 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量、他土 ($\phi 1 \sim 5\text{mm}$) を部分的に微量含む。

2a. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に、白色粘土 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に含む。

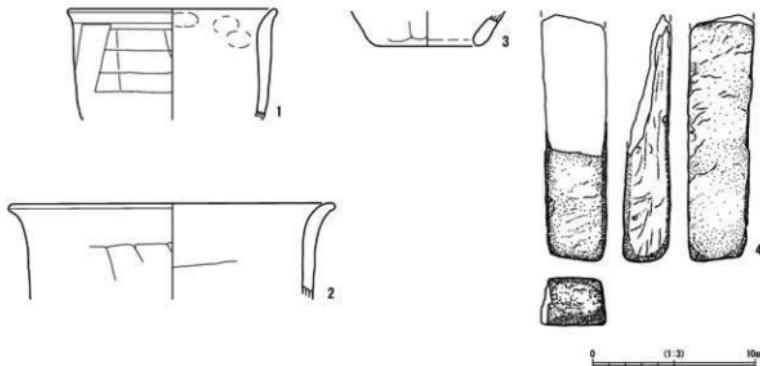
2b. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に、白色粘土 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に含む。

3. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に、他土 ($\phi 1 \sim 20\text{mm}$) を部分的に多く、シルトを部分的に含む。

S134-P02
1. 埋藏褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量含む、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。



第99図 33・34号堅穴建物跡カマド



第100図 33号堅穴建物跡出土遺物

第35表 33号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(12.6) 高さ:(6.7) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	5以下	橙色 (5YR6/6)	胴部外面横ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面強い横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(19.6) 高さ:(5.9) 底径:-	赤色粒子・石英・雲母・ 角閃石	良好	5以下	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	胴部外面縦ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面横ナデ。
3	土師器 甕	口径: 高さ:(2.1) 底径:(5.0)	白色粒子・石英・角 閃石・白色針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	橙色 (7.5YR6/6)	外面斜位のケズリ。黒斑が認められる。
図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
4	磨石・敲石	緑色岩	<15.1>	<4.0>	<2.8>	261.5	下端部やその周辺部に敲打痕や平滑面がみられる。



第101図 34号堅穴建物跡出土遺物

第36表 34号堅穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(14.6) 高さ:(5.0) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石・白色 針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	明黄褐色 (10YR7/6)	胴部外面斜位のケズリ。内面横ナデ。 口縁部内外面強い横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(12.0) 高さ:(4.9) 底径:-	白色粒子・赤色粒子・ 石英・雲母・白色針 状物質・ 微砂粒	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	胴部外面縦ケズリ、内面横ナデ。口縁 部内外面強い横ナデ。

35号竪穴建物跡（第102・103図、第37表、図版12）

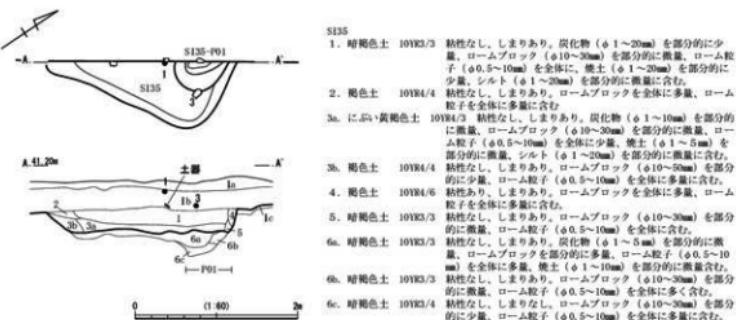
平面位置 AC-75・76グリッド

重複関係 なし

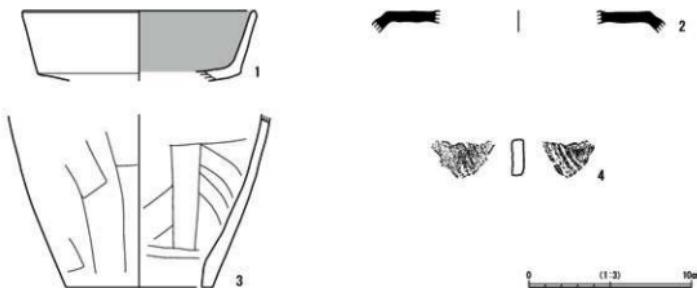
遺構形態 遺構は北東壁と南西壁と床が部分的に検出され、平面サイズは長軸1.77mm、短軸0.89m、遺構検出面からの深さは最大で0.335mを測る。床はほぼ平坦で踏み縮まりがある貼り床で、壁は西側では緩く、北東壁では急角度で立ち上がる。北西壁際の床面で柱穴が1基検出されている。覆土は褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土と暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺、ロクロ成形の坏、高台付坏（第103図1）、瓶（第103図3）、須恵器坏、蓋（第103図2）、壺（第103図4）などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第102図 35号竪穴建物跡



第103図 35号竪穴建物跡出土遺物

第37表 35号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高台付环	口径: (14.0) 高さ: (4.3) 底径: -	青白・角閃石・ 白色斜状物質・ 微砂粒	良好	25	にふい黄褐色 (10YR7/4)	内外面横ナデ。内面黒色処理、細かな ミガキ。
2	須恵器 壺	口径: - 高さ: (1.3) 底径: -	白色粒子・石英・雪母・ 白色斜状物質・微砂 粒	良好	5以下	灰色 (5Y6/1)	内外面ロクロナデ。
3	土師器 壺	口径: - 高さ: (10.7) 底径: 9.0	白色粒子・石英・雪母・ 角閃石・小礫・微砂 粒	良好	5以下	明赤褐色 (5YR5/6)	外面縦ケズリ後ナデ。下端部横ナデ。 内面部及び縦ナデ。下端部横ナデ。
4	須恵器 壺	口径: - 高さ: (2.5) 底径: -	白色粒子・石英・角 閃石・微砂粒	良好	5以下	灰色 (5Y6/1)	外面平行線状のタタキ。内面同心円状 の当て具痕が残る。

37号竪穴建物跡(第104・105図、第38表、図版12)

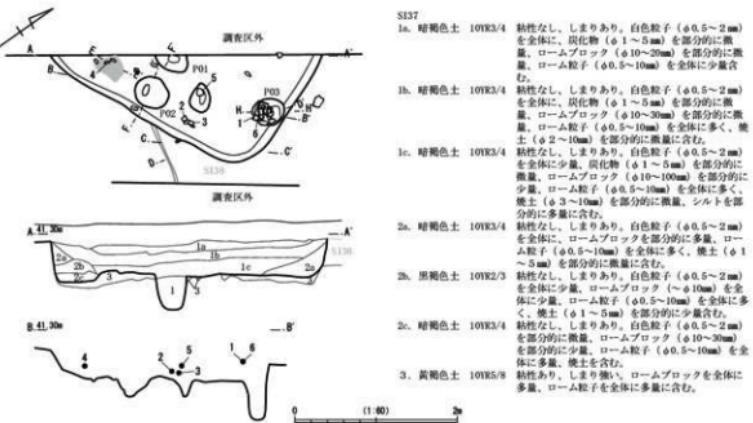
平面位置 AD-76・77、AE-77グリッド

重複関係 38号竪穴建物跡より新しい。

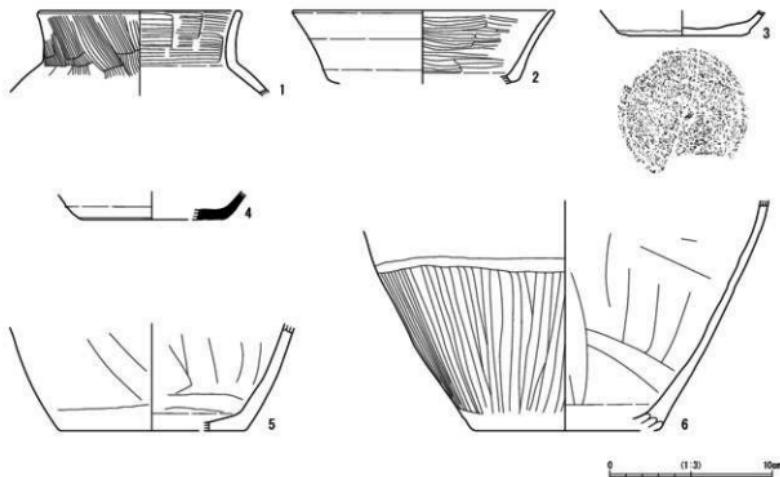
遺構形態 遺構は南東壁と北東壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.685m、短軸1.51m、遺構検出面からの深さは最大で0.445mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が4基検出されている。北西隅の覆土内で最大径0.41mのシルト質土の塊が検出されたが用途は不明である。覆土は暗褐色土を主体として黒褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 出土遺物は、散漫に分布するが、ピット3上で土師器壺破片が集中して出土しており、土師器ハケ調整の壺(第105図1・5・6)、ロクロ成形の壺(第105図2・3)、須恵器壺(第105図4)、単節繩文施文の繩文土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第104図 37号竪穴建物跡



第105図 37号竪穴建物跡出土遺物

第38表 37号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径:(12.0) 高さ:(5.0) 底径:-	石英・微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面ハケ調整。内面横ハケ調整。
2	土師器 环	口径:(15.8) 高さ:(4.2) 底径:-	雲母・角閃石	良好	10	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	内外面横ナデ。内面黒色処理、細かなミガキ。
3	土師器 环	口径:- 高さ:(1.55) 底径:7.0	赤色粒子・石英・白色針状物質	良好	30	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	内外面クロナデ。底部外面全面回転ヘラケズリ。
4	土師器 环	口径:- 高さ:(1.7) 底径:(8.6)	雲母・角閃石・微砂粒	良好	10	褐色(7.5YR7/6)	内外面横ナデ。
5	土師器 甕	口径:- 高さ:(6.6) 底径:(12.0)	角閃石・微砂粒	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面斜位のケズリ。内面斜位のナデ。
6	土師器 甕	口径:- 高さ:(14.0) 底径:(11.0)	石英・雲母・角閃石・白色針状物質・小礫・微砂粒	良好	25	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	外面継ミガキ。内面横ナデ。

53号竪穴建物跡（第106図）

平面位置 AJ-81グリッド

重複関係 54・55・57号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は北壁、西壁の一部、北西角と床が検出され、平面サイズは長軸1.1m、短軸0.515m、遺構検出面からの深さは最大で0.55mを測る。床は踏み締まりが強く硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が床面で1基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

54号竪穴建物跡（第106・107図、第39表、図版12）

平面位置 AJ・AK-81グリッド

重複関係 55・57号建物跡より新しく、53号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は北壁、南壁、西壁と南西角と床が検出され、平面サイズは長軸1.9m、短軸1.445m、遺構検出面からの深さは最大で0.415mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。北西角の床面から柱穴が基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とし、黒色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器甕（ハケ調整の甕を含む）、ロクロ成形の内面黒色処理の坏（第107図1）、赤彩の土器などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

57号竪穴建物跡（第106図）

平面位置 AJ-81グリッド

重複関係 55・58号竪穴建物跡より新しく、53・54号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は南西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸1.11m、短軸0.37m、遺構検出面からの深さは最大で0.265mを測る。床は踏み締まりのある貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とし、黒色土を含む自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

58号竪穴建物跡（第106図）

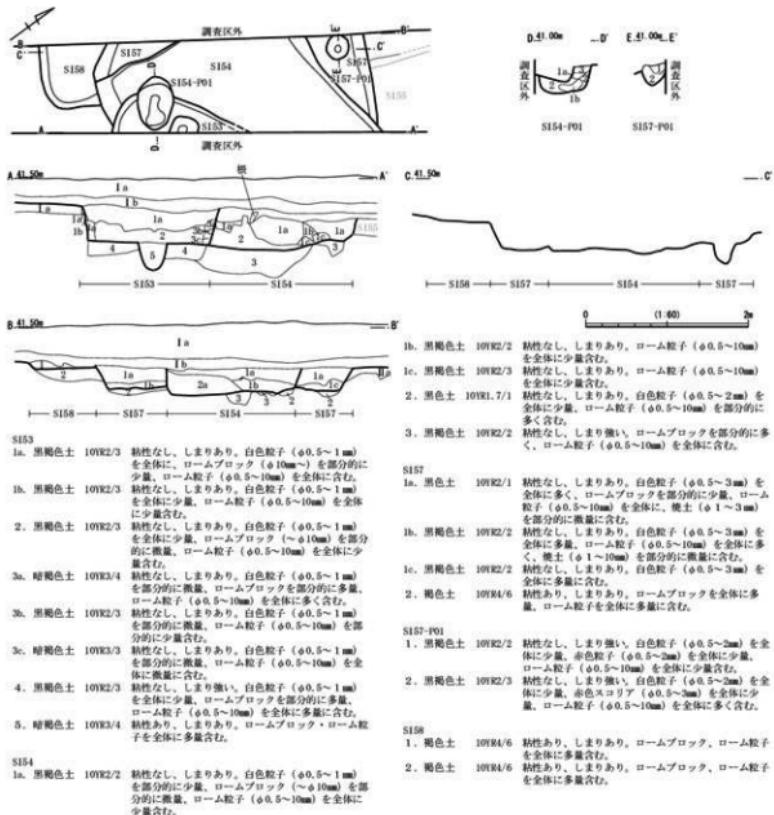
平面位置 AJ-81グリッド

重複関係 53～55・57号竪穴建物跡より古い。

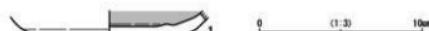
遺構形態 遺構は南西壁、南東壁の一部と南東角が検出され、平面サイズは長軸0.785m、短軸0.65m、遺構検出面からの深さは最大で0.1mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第106図 53・54・57・58号竪穴建物跡



第107図 54号竪穴建物跡出土遺物

第39表 54号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	黏土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土肺器 环	口径: - 高さ: <1.5 底径: φ0	青母・角閃石・微砂 粒	良好	10	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	内外面クロナデ。体部下端及び底部 外面回転ヘラケズリ。内面黑色処理。

55号竪穴建物跡（第108図）

平面位置 AK-81・82グリッド

重複関係 35・54・56・57号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は西壁の一部が検出され、平面サイズは長軸1.885m、短軸1.145m、遺構検出面からの深さは最大で0.205mを測る。床は踏み締まりの強い貼り床で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

56号竪穴建物跡（第108図）

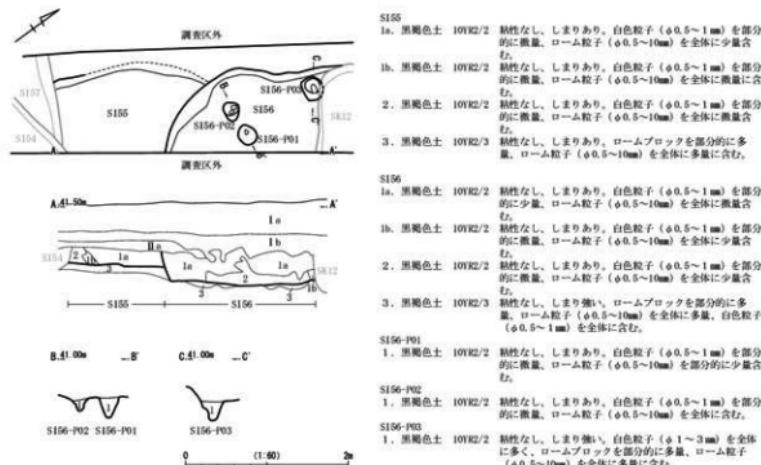
平面位置 AK-81・82、AL-82グリッド

重複関係 55号竪穴建物跡より新しく、12号土坑より古い。

遺構形態 遺構は南壁から西壁の一部と床が検出され、平面サイズは長軸2.42m、短軸1.13m、遺構検出面からの深さは最大で0.47mを測る。床は踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。柱穴が床面で3基検出されている。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺、ロクロ成形の高台付坏、須恵器壺などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



第108図 55・56号竪穴建物跡

66号竪穴建物跡（第109・110図、第40表、図版5・12）

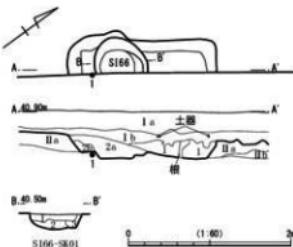
平面位置 A J - 82・83 グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は北東壁から北角、北西壁、南西角と床が検出され、平面サイズは長軸1.82m、短軸0.52m、遺構検出面からの深さは最大で0.265mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。土坑は中央より南西側の床面で1基検出されている。覆土はの黒褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺、高台付坏（第110図1）などが検出されている。

時期 平安時代と推定される。



- S166
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2a. 單褐色土 10YK3/4 粘性あり、しまりあり。白色粒子（φ0.5～10mm）、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量含む。
2b. 黄褐色土 10YH5/6 粘性あり、しまりあり。白色粒子（φ0.5～10mm）、ロームブロック、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
S166-SK01
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2. 黑褐色土 10YH2/2 ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
3. 褐色土 10YR4/6 ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

第109図 66号竪穴建物跡



第110図 66号竪穴建物跡出土遺物

第40表 66号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高台付坏	口径：- 高さ：(2.5) 底径：-	白色粒子・石英・雲母・ 微砂粒・小礫	良好	20	明赤褐色 (2.5YR5/6)	内外面ロクロナデ。高台部貼り付け。

69号竪穴建物跡（第111・112図、第41表、図版12）

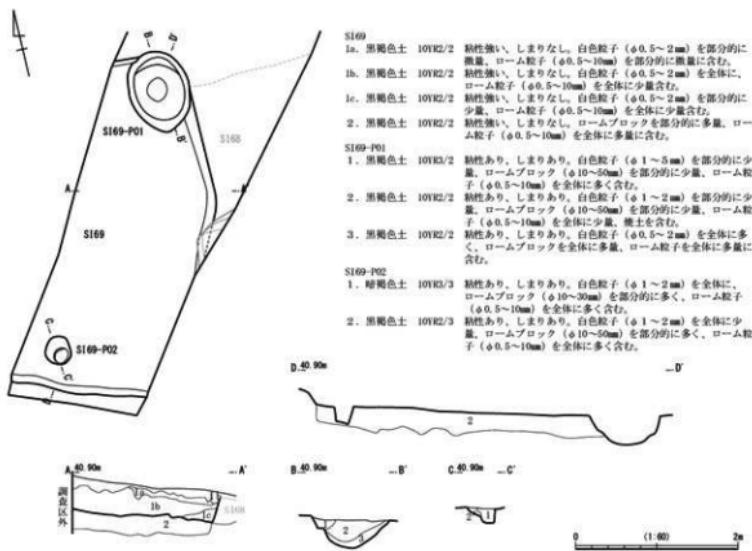
平面位置 AM - 83、AN - 83・84 グリッド

重複関係 68号竪穴建物跡より新しく、67号竪穴建物跡より古い。

遺構形態 遺構は南壁、東壁、北壁の一部と北東角と床が検出され、平面サイズは長軸4.11m、短軸1.77m、遺構検出面からの深さは最大で0.345mを測る。床は締まりが強い硬化した貼り床で、壁は急角度で立ち上がる。南壁と北東角付近の床面から柱穴が2基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は土師器壺（第112図1）、壺（第112図2）、ロクロ成形の高台付坏、須恵器壺、蓋、砂岩、片岩、チャート製の砾片などが検出されている。

時期 出土遺物から平安時代と推定される。



第112図 69号竪穴建物跡出土遺物

第41表 69号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 环	口径:(12.7) 高さ:(3.7) 底径:-	白色粒子・石英・雲母・ 白色針状物質・微砂 粒	良好	20	橙色(5YR6/6)	底部外面へラケズリ、内面ナデ。口縁 部内外面横ナデ。
2	土師器 甕	口径:(13.6) 高さ:(2.0) 底径:-	石英・雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にふい橙色(7.5YR6/4)	口縁部内外面横ナデ。常陸型甕。

(3) 溝跡

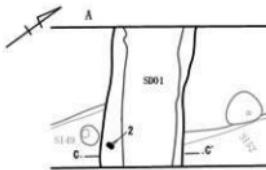
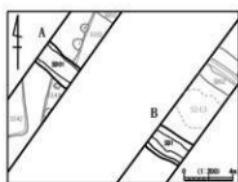
1号溝跡（第113・114図、第42表、図版5・12）

平面位置 AG - 78・79グリッド

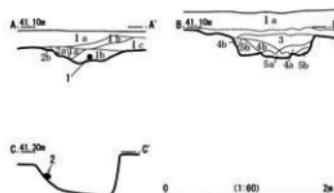
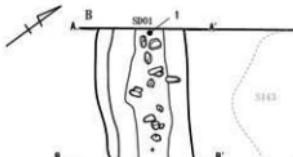
重複関係 49・52号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 遗構は、中央の未調査区をはさんで北西から南東方向に延びるが、北西側は長軸1.74m、短軸1.2m、南西側は長軸1.6m、短軸0.86m、深さ0.165～0.3mを測る。溝跡の断面形は、場所によって皿状、逆台形状で、底面は部分的に凹凸がある。覆土は暗褐色土を主体とし、褐色土、黄褐色土などの自然堆積層である。

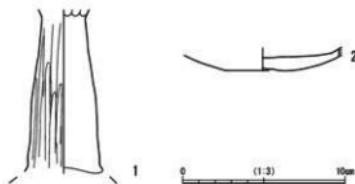
遺物 遺物は土器器窯（第114図2）、高坏（第114図1）、須恵器窯、砂岩製の磨石、砥石、砂岩、片岩製の礫などが検出されているが、南東側では礫が覆土から帶状に分布して検出されている。



- SD01
 1a. 塗褐色土 10YR3/3 脱性なし、しまりあり。ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に少量含む。
 1b. 褐色土 10YR4/4 脱性なし、しまりあり。ロームブロック（ $\phi 10\sim70mm$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に少量含む。
 2a. 塗褐色土 10YR3/3 脱性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に多く含む。
 2b. 黄褐色土 10YR5/6 脱性なし、しまりあり。ロームブロック、白色粒子を全般に含む。
 3. 塗褐色土 10YR3/3 脱性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5\sim2mm$ ）を全体に微量、炭化物（ $\phi 1\sim10mm$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に少量、他土（ $\phi 1\sim5mm$ ）を部分的に微量含む。
 4a. 塗褐色土 10YR3/3 脱性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5\sim2mm$ ）を全体に微量、炭化物（ $\phi 1\sim5mm$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10mm$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に少量、他土（ $\phi 1\sim5mm$ ）を部分的に微量含む。
 4b. 塗褐色土 10YR3/3 脱性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5\sim2mm$ ）を全体に微量、炭化物（ $\phi 1\sim5mm$ ）を部分的に微量、ロームブロック（ $\phi 10mm$ ）を部分的に微量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に少量、他土（ $\phi 1\sim5mm$ ）を部分的に微量含む。
 5a. 黄褐色土 10YR5/6 脱性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に多量含む。
 5b. 黄褐色土 10YR5/6 脱性なし、しまりあり。白色粒子（ $\phi 0.5\sim2mm$ ）を全体に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5\sim10mm$ ）を全般に多量含む。



第113図 1号溝跡



第114図 1号溝跡出土遺物

第42表 1号溝跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高杯	口径:- 高さ:(10.3) 底径:-	赤色粒子・石英・角 閃石・白色針状物質・ 微砂粒	良好	40	橙色(7.5YR7/6)	脚部外側縫ナデ。
2	土師器 甕	口径:- 高さ:(1.45) 底径:(4.5)	雲母・角閃石・微 砂粒	良好	5以下	にじむ赤褐色 (5YR5/3)	内外面ナデ。

2号溝跡（第115・116図、第43表、図版12）

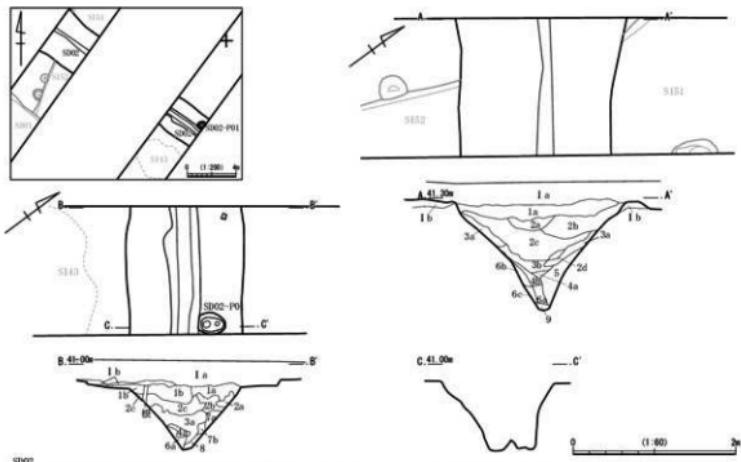
平面位置 AG・AH-79グリッド

重複関係 51・52号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、中央の未調査区をはさんでの区政から南東方向に延びるが、北西側は長軸1.37m、短軸1.85m、深さ1.79m、南東側は長軸1.67m、短軸1.45m、深さは浅くなり0.795～0.845mを測る薬研堀で、底面は緩い弧状である。覆土は自然堆積層で、暗褐色土を主体とし、黄褐色土と褐色土が堆積している。

遺物 土師器甕（第116図1）、須恵器环身模倣の坏、高坏脚部、須恵器甕、砂岩礫片などが検出されている。

時期 出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代以降と推定される。



- SD62
1a. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 1b. 單褐色土 10YR3/3 粘性あり。しまり強い。
- 2a. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 40\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 2b. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を全体に少量、ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 2c. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量、鐵土 ($\phi 1 \sim 10\text{mm}$) を部分的に微量含む。
- 2d. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりなし。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 3a. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまり強い。白色粒子 ($\phi 0.5 \sim 2\text{mm}$) を部分的に微量、ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 3b. 單褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまり強い。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を全体に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
- 4a. 單褐色土 10YR3/5 粘性なし。しまり強い。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。
- 4b. 單褐色土 10YR3/5 粘性なし。しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
5. 單褐色土 10YR4/6 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- 6a. 單褐色土 10YR5/6 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
- 6b. 單褐色土 10YR5/6 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
- 6c. 單褐色土 10YR5/6 粘性あり。しまりなし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- 7a. 單褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を全体に、ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体的に少量含む。
- 7b. 單褐色土 10YR4/4 粘性あり。しまり強い。ロームブロック、ローム粒子を全体に多量含む。
8. 單褐色土 10YR3/3 粘性あり。しまり強い。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に微量含む。
9. 單褐色土 10YR3/3 粘性あり。しまり強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。

第115図 2号溝跡



第116図 2号溝跡出土遺物

第43表 2号溝跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径: (15.6) 高さ: (5.2) 底径:-	赤色粒子・石英・角 閃石・白色針状物質・ 微砂粒	良好	5以下	橙色 (5YR6/6)	胴部外面斜位のナデ、内面横ナデ。口 縁部内外面強い横ナデ。

(4) 土坑

12号土坑（第117図）

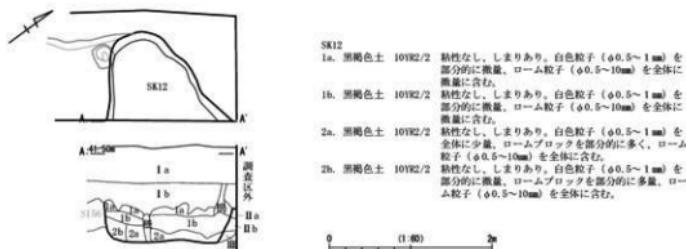
平面位置 AK・AL-82

重複関係 56号堅穴建物跡より新しい。

遺構形態 遺構は、平面形は不明で、長軸1.72m、短軸1.2m、深さ0.46mである。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 なし

時期 遺構の切り合い関係から平安時代以降と推定される。



4号性格不明遺構（第119・120図、第44表、図版12）

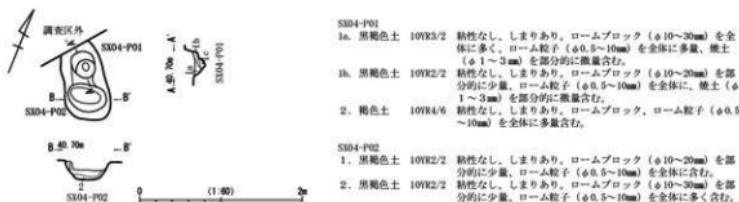
平面位置 V-70グリッド

重複関係 なし

遺構形態 遺構は、長椭円形で、長軸0.84m、短軸0.57m、深さ0.23mで、底面にはピットが1基あり長軸0.34m、短軸0.29m、深さ0.125mを測る。床は、部分的に凹凸があり、壁は急角度で立ち上がる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺物 遺物は、須恵器壺（第120図1）、高台付坏（第120図2）、土師器壺、坏などが検出されている。

時期 出土遺物から平安時代と推定される。



第119図 4号性格不明遺構



第120図 4号性格不明遺構出土遺物

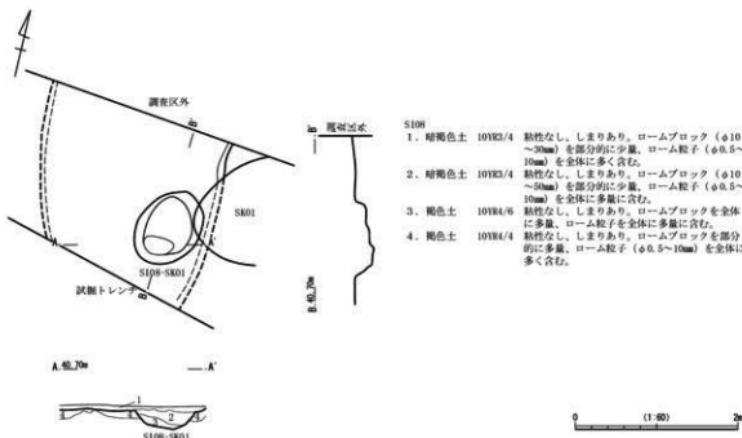
第44表 4号性格不明遺構出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	須恵器壺 环	口径:- 高さ:(3.0) 底径:(8.6)	白色粒子・雲母・角閃石・白色針状物質	良好	10	灰白色(5Y7/2)	内外面口クロナデ。底部外面手持ちヘラケズリ。
2	須恵器壺 环	口径:- 高さ:(1.3) 底径:-	白色粒子・石英・白色針状物質・微砂粒	良好	15	灰黄色(2.5Y7/2)	内外面口クロナデ。底部外面回転ヘラケズリ。

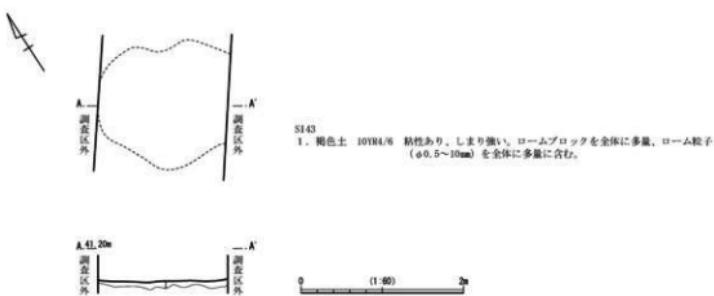
第5節 時期不明の遺構

(1) 壁穴建物跡 (第 121 ~ 127 図・第 45 表)

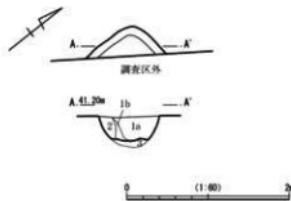
遺構が部分的に検出され、遺物が少ないと理由により帰属時期が判断できなかった壁穴建物跡は、9軒検出されている。これらの遺構は調査区の南西端で1軒、残りは中央から北東側の範囲で検出されている。



第 121 図 時期不明遺構 8号壁穴建物跡

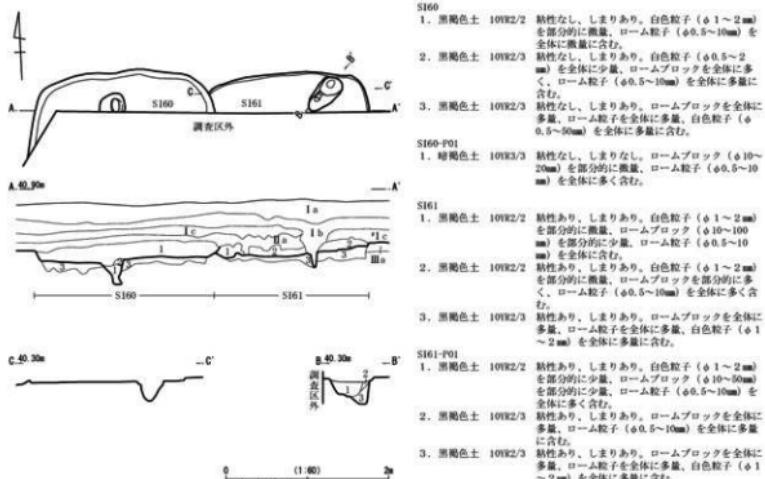


第 122 図 時期不明遺構 43号壁穴建物跡



第123図 時期不明遺構 47号堅穴建物跡

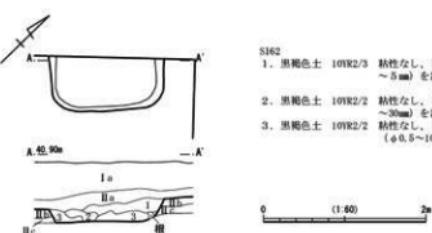
- S147
 1. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$)、炭化物 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量に含む。
 1b. 黒褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に含む。
 2. 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に含む。
 3. 褐色土 10YR4/6 粘性なし、しまり強。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に微量に含む。



第124図 時期不明遺構 60・61号堅穴建物跡

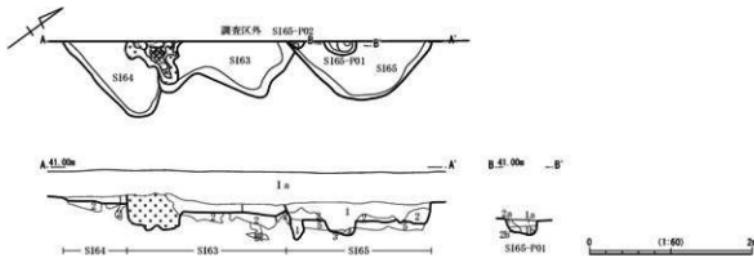
- S160
 1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量に含む。
 2. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を全体に微量。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量に含む。
 3. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に微量、白色粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量に含む。
 S160-P01
 1. 墓開褐色土 10YR3/3 粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim20mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多く含む。

- S161
 1. 黑褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を部分的に微量。ロームブロック ($\phi 10\sim100mm$) を全体に少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に含む。
 2. 黑褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多く含む。
 3. 黑褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を全体に多量に含む。
 S161-P01
 1. 黑褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を部分的に少量。ロームブロック ($\phi 10\sim50mm$) を部分的に少量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多く含む。
 2. 黑褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多量に含む。
 3. 黑褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量、白色粒子 ($\phi 1\sim2mm$) を全体に多量に含む。



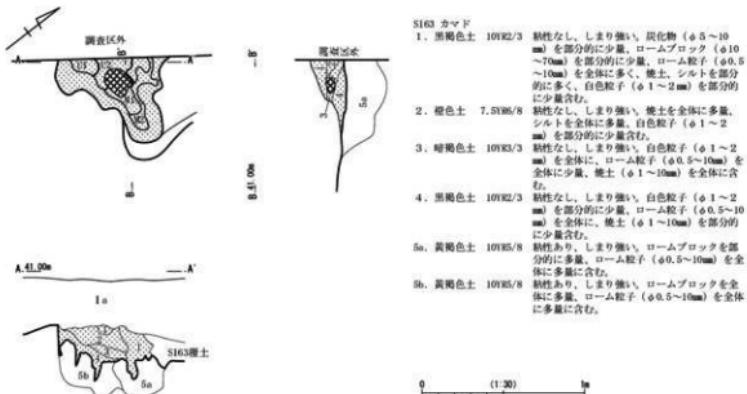
第125図 時期不明遺構 62号堅穴建物跡

- S162
 1. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 0.5\sim2mm$) を全体に、炭化物 ($\phi 1\sim5mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に少量含む。
 2. 黑褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 0.5\sim2mm$)、ロームブロック ($\phi 10\sim30mm$) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に含む。
 3. 黑褐色土 10YR2/2 粘性なし、しまりあり。白色粒子 ($\phi 0.5\sim3mm$) を全体に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10mm$) を全体に多く含む。



- S163
1. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし。しまりあり。白色粒子（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を全体に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に多く、他土（ $\phi 1 \sim 10\text{mm}$ ）を部分的に少量、炭化物（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 粘性なし。しまり強い。白色粒子（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を全体に多く、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多く、他土（ $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ ）を部分的に多量に含む。
- S164
1. 基褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまり強い。白色粒子（ $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ）を全体に多く、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
2. 黑褐色土 10YR2/2 粘性なし。しまり強い。白色粒子（ $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ）を全体に多量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子を全体に多量に含む。
- S165
1. 基褐色土 10YR2/2 粘性なし。しまりあり。白色粒子（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
2b. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。白色粒子（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
2a. 黑褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。白色粒子（ $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ ）を部分的に少量、ロームブロック（ $\phi 10 \sim 20\text{mm}$ ）を部分的に少量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む、他土（ $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ ）を部分的に多量に含む。
2b. 基褐色土 10YR4/6 粘性あり。しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。
- S165-P02
1. 基褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（ $\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$ ）を全体に多量に含む。

第126図 時期不明遺構 63・64・65号竪穴建物跡



第127図 時期不明遺構 63号竪穴建物跡カマド

第45表 時期不明遺構計測表 突穴建物跡

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ(m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
8	P・Q-60・61	不明	2.34	2.14	0.06	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	1号土坑より古い	土師器類、須恵器	不明	
43	AG-80	不明	1.6	1.54	—	不明	ほぼ平坦	なし	土師器類、縄文時代前期土器	不明	床面のみ検出
47	AC-76	不明	0.5	0.43	0.29	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	なし	不明	北西角のみ検出
60	AO-86・87	不明	2.22	0.53	0.5	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	61号突穴建物跡より新しい	土師器高台付环破片	不明	
61	AO-87	不明	1.9	0.5	0.16	急角度で立ち上がる。	起伏がある	60号突穴建物跡より古い	土師器類、須恵器	不明	
62	AQ・AP-87	不明	1.4	0.67	0.28	起伏がある	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
63	AJ-82	不明	2.09	0.69	0.14	不明	ほぼ平坦	64号突穴建物跡より新しく、65号突穴建物跡より古い。	泥岩のカマド構築材	不明	
64	AJ-82	不明	1.42	0.65	0.1	緩やかに立ち上がる。		64号突穴建物跡より古い。	なし	不明	
65	AJ-82・83	不明	2.09	0.73	0.24	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	63号突穴建物跡より新しい。	なし	不明	

(2) 井戸 (第128図・第46表・図版5)

井戸は調査区北東端から1基検出されたが、時期を決定する遺物が検出されなかった。



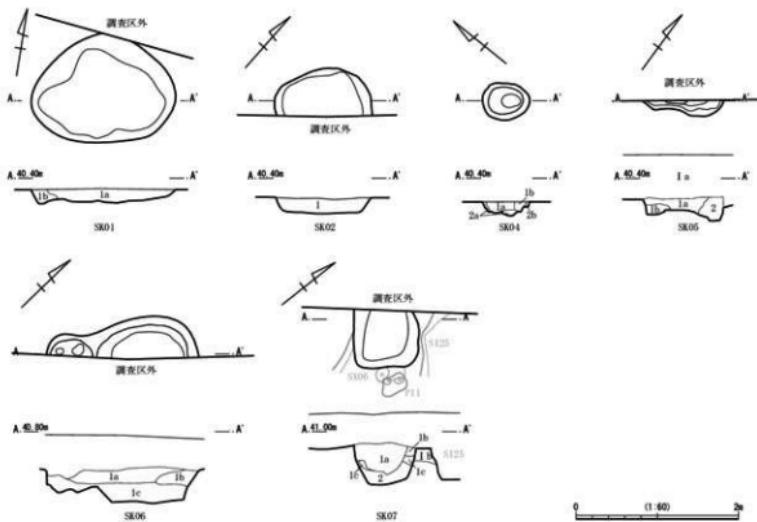
第128図 時期不明遺構 1号井戸

第46表 時期不明遺構計測表 井戸

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ(m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
1号	AO-86	不明	1.43	0.48	0.96	ほぼ垂直に立ち上がり、北側は平場を形成し急角度で立ち上がる。	不明	なし	砂岩製櫛、繊片	不明	

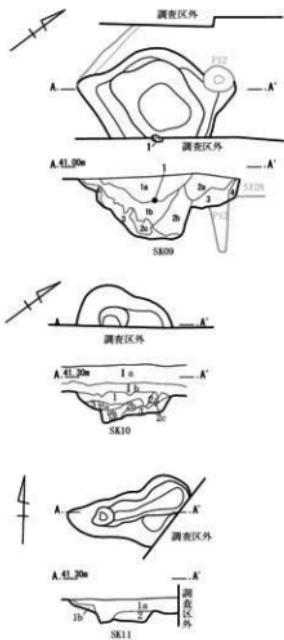
(3) 土坑 (第 129・130 図・第 47 表・図版 5)

土坑は、9 基検出されているが、調査区の南西端、Q～R ライン、A B～A C ライン付近にそれぞれ分布している。一部の遺構は他の遺構と重複するが、他は個別で検出され、帰属時期を決定する遺物の出土がない状況である。



SK01	1a. 黒褐色土 10YR2/3	粘性なし、しまりあり。炭化物 ($\phi 1 \sim 3$ mm) を部分的に微量。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	1b. 黒褐色土 10Y2/3	粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。
	1b. 黒褐色土 10YR2/3	粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	2. 喀斯特土 10Y3/3	粘性なし、しまりなし。ロームブロック、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。
SK02	1. 黒褐色土 10YR2/3	粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 70$ mm) を全体に、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く含む。	3. 黒褐色土 10Y2/3	粘性なし、しまりなし。炭化物 ($\phi 1 \sim 3$ mm) を部分的に微量。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。
SK04	1a. 黒褐色土 10YR2/2	粘性あり、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 70$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多く含む。	1a. 黑褐色土 10Y2/2	粘性なし、しまりなし。炭化物 ($\phi 1 \sim 10$ mm) を部分的に微量。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。
	1b. 黒褐色土 10YR2/3	粘性あり、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	1b. 黑褐色土 10Y2/3	粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。
SK05	2a. 黒褐色土 10YR2/3	粘性あり、しまりあり。ロームブロックを全体に多量含む。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	1a. 喀斯特土 10Y3/3	粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。
	2b. 黒褐色土 10YR2/3	粘性あり、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	1b. 喀斯特土 10Y3/3	粘性なし、しまりあり。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に少量含む。
SK07	1a. 黒褐色土 10YR2/3	粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	1c. 喀斯特土 10Y3/3	粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20$ mm) を部分的に微量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に少量含む。
	2. 喀斯特土 10Y3/4	粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。	2. 喀斯特土 10Y3/4	粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10$ mm) を全体に多量含む。

第 129 図 時期不明遺構 土坑 (1)



- SK9**
- 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に撒量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に撒量に含む。
 - 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。粘土物 ($\phi 3 \sim 5\text{mm}$) を部分的に撒量。ロームブロック ($\phi 10 \sim 30\text{mm}$) を部分的に撒量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。
 - にぶい黄褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を部分的に多量。ローム粒子を全体に多く含む。
 - にぶい黄褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に撒量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を多く含む。
 - 暗褐色土 10YR3/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に撒量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。
 - 褐色土 10YR4/6 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を全体に多量。ローム粒子を全体に多量に含む。
 - 褐色土 10YR4/6 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を全体に多量。ローム粒子を全体に多量に含む。
- SK10**
- 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。白色粒子 ($\phi 1 \sim 2\text{mm}$) を全体に。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量に含む。
 - 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 50\text{mm}$) を部分的に少量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
 - 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。ロームブロック ($\phi 10 \sim 20\text{mm}$) を部分的に撒量。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に含む。
 - 黒褐色土 10YR2/3 粘性なし。しまりあり。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に少量含む。
 - 褐色土 10YR4/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を全体に多く。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多量に含む。

- SK11**
- 暗褐色土 10YR3/4 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を部分的に。ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 10\text{mm}$) を全体に多く含む。土師陶器を部分的に撒量。泥水を部分的に多く含む。
 - 褐色土 10YR4/6 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を全体に多く。ローム粒子を全体に多量に含む。
 - 褐色土 10YR4/6 粘性なし。しまりあり。ロームブロック を全体に多量。ローム粒子を全体に多量に含む。

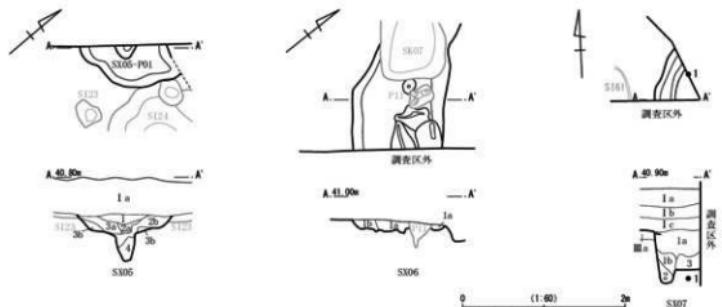
第130図 時期不明遺構 土坑(2)

第47表 時期不明遺構計測表 土坑

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
1 Q-61		長楕円形	1.78	1.34	0.21	急角度で立ち上がる。	部分的に凹凸がある。	8号竪穴建物跡より新し。	なし	不明	
2 Q-66		長楕円形	1.19	0.6	0.18	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	土師陶器	不明	
4 P-64・65		楕円形	2.23	1.33	0.6	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	なし	不明	
5 Q-65		不明	1	0.2	0.29	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	土師陶器、須恵器、鏡	不明	
6 Q・R-66・67		不明	1.88	0.52	0.44	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	土師陶器	不明	
7 X-72		不明	0.98	0.9	0.5	急角度で立ち上がる。	緩やかな弧状	25号竪穴建物跡、6号性格不明遺構より新し。	砂岩製鍬	不明	
9 Z-73・74		不定形	1.95	1.1	0.78	南北は段を持ちながら急角度で、北側は重ねから、段を持ちながら急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	P11より新し。	土師陶器、壇	不明	
10 AB-75		不定形	1.18	0.5	0.51	急角度で立ち上がる。	部分的に凹凸がある。	なし	なし	不明	
11 AB-75		不定形	1.53	0.72	0.28	急角度から緩やかへ急角度で立ち上がる。	凹凸あり	なし	なし	不明	

(4) 性格不明遺構 (第 131 図・第 48 表)

性格不明遺構は、3 基検出されており調査区の中央で 2 基、北東端で 1 基検出されている。遺構は部分的に検出されており、形状が様々であり、帰属時期を決定する遺物に乏しい状況であった。



SX05

1. 塗刷色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim30\text{mm}$) を部分的に、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多く、炭化物 ($\phi 1\sim2\text{mm}$)、焼土 ($\phi 1\sim5\text{mm}$) を部分的に微量含む。
- 2a. 塗刷色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim30\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多量含む。
- 2b. 塗刷色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim30\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多量含む。
- 3a. 塗刷色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim50\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多量含む。
- 3b. 塗刷色土 10YR3/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子を全体に多量含む。
4. 暗赤土 10R4/4 粘性なし、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多量含む。

SX06

- 1a. 塗刷色土 10YR3/3 粘性なし、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim30\text{mm}$) を部分的に多く、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多く含む。
 - 1b. 塗刷色土 10YR3/4 粘性なし、しまりなし。ロームブロック ($\phi 10\sim20\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に少量含む。
-
5. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を部分的に少量含む。
 6. 黒褐色土 10YR2/2 粘性あり、しまりあり。ロームブロック ($\phi 10\sim30\text{mm}$) を部分的に少量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に少量含む。
 7. 黑褐色土 10YR2/3 粘性あり、しまりあり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子 ($\phi 0.5\sim10\text{mm}$) を全体に多量含む。

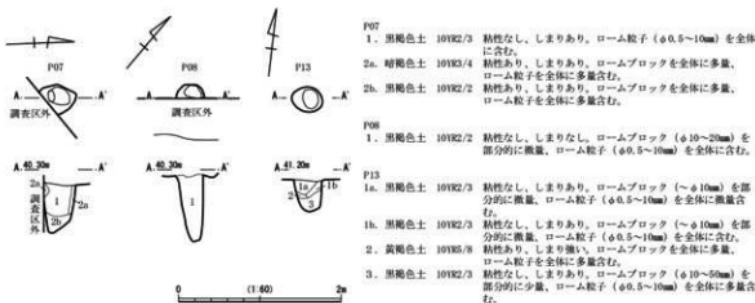
第 131 図 時期不明遺構 5・6 号性格不明遺構

第 48 表 時期不明遺構 性格不明遺構

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			埋面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
5	V-71・72	不明	1.29	0.58	0.52	ピットはほぼ垂直に、縁やから急角度で立ち上がる。	傾斜あり	22~24 号壁穴 建物跡より新しく	なし	不明	
6	X-72	不定形	2.04	1.05	0.14	急角度で立ち上がる。	凹凸あり	25 号壁穴建物跡 より新しく、7 号土坑より古い	土師器甕	不明	
7	AO-87	不明	0.71	0.51	0.63	急角度で立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	砂岩製砥石、 鉢石	不明	

(5) ピット (第132図・第49表)

ピットは、3基検出されており、調査区の南西で2基、中央で1基それぞれ単独で検出されており、掘方は0.3m以上で規模も柱穴と推定されるものであるが、帰属時期を決定する遺物に乏しい状況であった。



第132図 時期不明遺構 7・8・13号ピット

第49表 時期不明遺構 ピット

遺構番号	グリッド	平面形	サイズ (m)			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
7	Q-65・66	長椭円形	0.46	0.36	0.62	急角度から垂直に立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	土師器類、砂岩製譚	不明	
8	P-66	長椭円形	0.34	0.17	0.82	急角度から垂直に立ち上がる。	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
13	AC-76	長椭円形	38.5	31	0.38	急角度から垂直に立ち上がる。	弧状	なし	土師器類	不明	

第6節 調査区内出土遺物

(1) 繩文時代 (第133・134図1~8・10~12・30~32・第50表・図版13)

No 1~8・30は、竹管工具による沈線文や刺突文が施された前期の興津式土器である。

No 7は、口縁部に縱位の沈線文が施された土器で中期後葉、No 10は無節縄文が斜行で施文されている中期前葉の土器である。

No 10~12は、縄文施文の土器であるが、No 10は羽状縄文、No 11・12は斜行縄文が施されている。これらは後期前葉の土器である。

No 31は分胴形の斧形石器、No 32は短冊形の斧形石器が破損後に再加工されたものである。

(2) 弥生時代 (第133図13~15・第50表・図版13)

No 13は後期前半の縄文施文の土器で、No 14・15はの後期後葉の十王台式土器である。

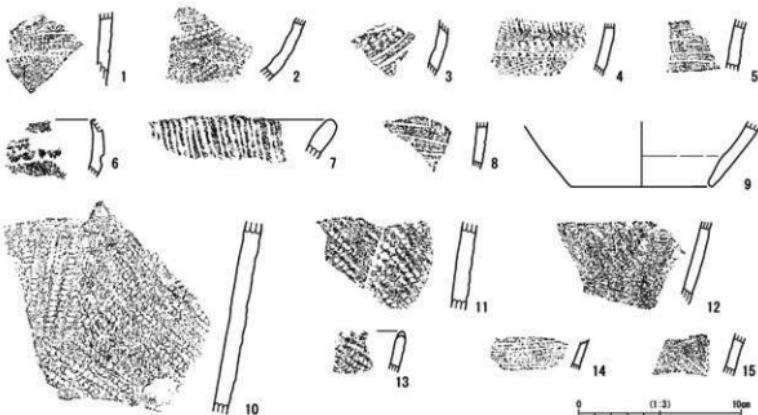
(3) 古代 (第133図9・16~29・33・第50表・図版13)

No 16~20は3号土坑出土の遺物であるが、No 16・17は須恵器壺蓋模倣の土師器壺、No 18は高坏脚部、No 19・20は焼成粘土塊である。

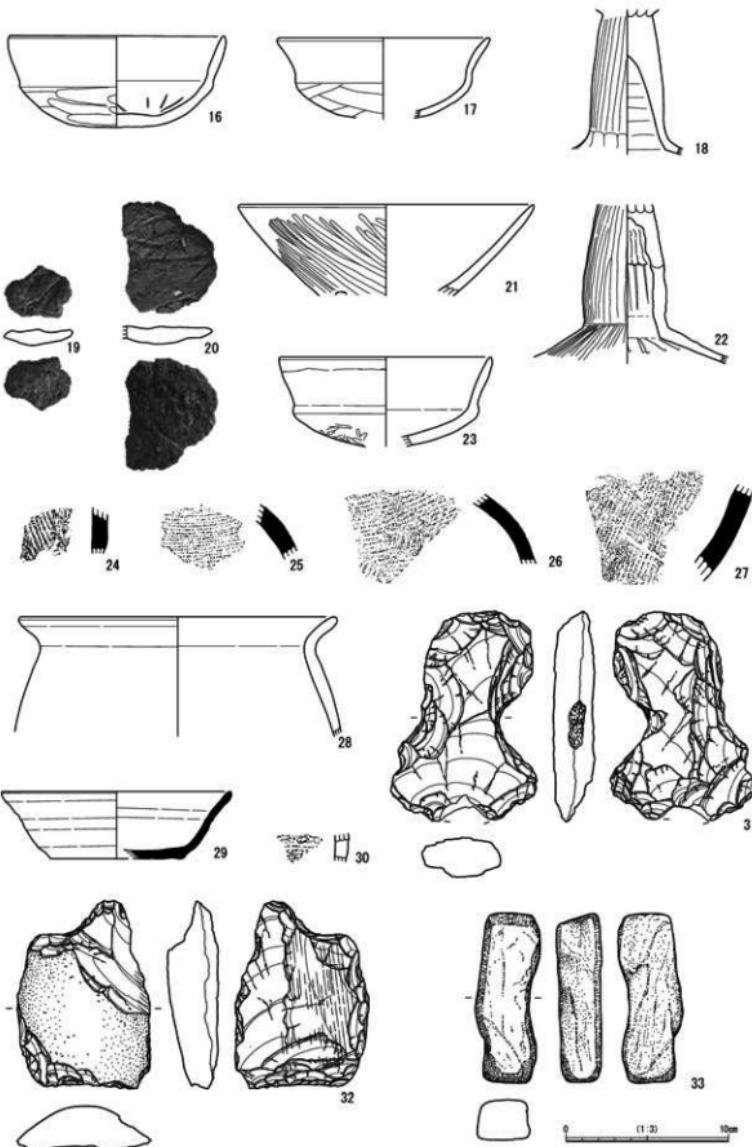
No 9は土師器壺、No 21・22は土師器高坏の壺部と脚部、No 23は須恵器壺蓋模倣の土師器壺、No 28は口縁から頸部の屈曲が強い壺で古墳時代中期頃と推定される。

No 24・26・27は平行線文の叩き目のみ須恵器壺、No 25は重張文の叩き目が施された須恵器壺、No 29は須恵器壺である。

No 33は7号土坑から出土した緑色岩製の磨石・敲石である。



第133図 調査区内出土遺物（1）



第134図 調査区内出土遺物（2）

第50表 調査区内出土遺物観察表

団版 番号	取上№	種類 器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	SI31 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<4.5) 底径：-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	竹管状工具による連続刺突の後、沈線で区画する。
2	SI31 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(3.6) 底径：-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 小礫	良好	5以下	褐灰色 (10YR4/1)	竹管状工具による連続刺突の後、沈線で区画する。
3	SI51 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(3.4) 底径：-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	櫛歯状工具による連続刺突後、沈線を施す。
4	SK01 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(3.2) 底径：-	石英・角閃石・ 白色針状物質	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	竹管状工具による連続刺突の後、沈線で区画する。以下に貝殻腹縫文を施す。
5	SX02 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(3.2) 底径：-	白色粒子・赤色 粒子・石英・角 閃石・白色針狀 物質	良好	5以下	褐色 (5YR6/6)	竹管状工具で平行線を描く。
6	SI33 周溝覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(3.5) 底径：-	白色粒子・赤色 粒子・雲母・白 色針状物質	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	口縁部直下に三角形の彫刻文が巡り、以下は撚糸Lを擬似腹文とする。
7	SI09 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(2.4) 底径：-	石英・白色針狀 物質	良好	5以下	浅黄色 (2.5Y7/4)	口縁部直下から竹管状工具で縱沈線を密に施す。
8	SI09 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(2.8) 底径：-	石英・雲母	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	沈線で重四角状のモチーフを描いたものか。
9	表土一括	土師器 瓶	口径：> 高さ：<(4.0) 底径：(8.6)	白色粒子・石英・ 雲母	良好	5以下	褐色 (7.5YR7/6)	外面部下端ケズリ。内面ナデ。
10	SI09 №17	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(11.9) 底径：-	石英・雲母・白 色針状物質・微 砂粒	良好	5	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	RLを斜位及び横位施す。縦之内式。
11	SI23 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(5.35) 底径：-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	5以下	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	無節L縦位施文。中期後半。
12	SD01 1号溝西側	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(5.0) 底径：-	雲母・微砂粒	良好	5以下	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	貝殻腹縫によるロッキング。
13	SI27 PO1 覆土	繩文土器 深鉢	口径：> 高さ：<(2.5) 底径：-	雲母・白色針狀 物質・微砂粒	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	RL横位施文。口縁部キザミ。
14	横出面 一括	弥生土器 壺	口径：> 高さ：<(1.8) 底径：-	白色粒子・石英・ 雲母	良好	5以下	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	輪隔不明にRを付加。
15	SI54 軸方埋 壺	弥生土器 壺	口径：> 高さ：<(2.5) 底径：-	赤色粒子・石英・ 角閃石	良好	5以下	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	R L横位施文。
16	SK09 №1	土師器 壺	口径：13.2 高さ：5.6 底径：11.9	石英・雲母・小礫・ 微砂粒	良好	95	褐色 (7.5YR7/6)	底部外面ヘラケズリ後、周辺部頃ミガキ、内面ナデ。口縁部外面強い横ナデ。
17	SK09 覆土	土師器 高杯	口径：(12.8) 高さ：(4.9) 底径：(10.8)	白色粒子・赤色 粒子・石英・雲母・ 角閃石・微砂粒	良好	25	明赤褐色 (2.5YR5/8)	底部外面ヘラケズリ、内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。
18	SK09 覆土	土師器 高杯	口径：> 高さ：(8.9) 底径：-	白色粒子・赤色 粒子・石英・雲母・ 角閃石・白色針狀物質	良好	50	褐色 (7.5YR6/6)	脚部外縁ケズリ。内面ナデ。
19	SK09 覆土	土製品 燒成粘土塊	口径：> 高さ：<(3.9) 底径：< 重量：11.07g	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 微砂粒	良好	80	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	表裏面に纖維痕が認められる。
20	SK09 覆土	土製品 燒成粘土塊	口径：> 高さ：(5.5) 底径：< 重量：40.47g	石英・雲母・白 色針狀物質・微 砂粒	良好	70	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	表裏面に纖維痕が認められる。
21	底土一括	土師器 高杯	口径：(18.0) 高さ：(5.6) 底径：-	石英・雲母・白 色針狀物質・微 砂粒	良好	15	褐色 (2.5YR6/6)	外面斜位のミガキ、内面ナデ。口縁部内外面横ナデ。

図版番号	取上面	種別 器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
22	縹出面 No.28	土師器 高杯	口径:- 高さ:(9.9) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・小礫・微 砂粒	良好	60	橙色 (7.5YR6/6)	脚部外面織ミガキ。内面横ナデ、絞り痕を残す。
23	塵土一括	土師器 环	口径:(12.8) 高さ:(5.6) 底径:-	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 白色針状物質	良好	25	淡黄色 (2.5Y8/3)	底部外面ヘラケズリ後、ミガキ、内 面ナデ。口縁部内外面強い横ナデ。
24	SI54 瓶方裡土	須恵器 甕	口径:- 高さ:(2.8) 底径:-	白色粒子・石英・ 白色針状物質	良好	5以下	黄灰色 (2.5Y6/1)	外面平行線状のタタキ目。内面ナデ。
25	縹出面 一括	須恵器 甕	口径:- 高さ:(3.6) 底径:-	白色粒子・石英	良好	5以下	褐色 (10YR6/1)	外面力キ目、内面横ナデ。
26	縹出面 一括	須恵器 甕	口径:- 高さ:(4.2) 底径:-	石英・雲母・白 色針状物質・微 砂粒	良好	5以下	灰色 (5Y5/1)	外面平行線状のタタキ目、内面横ナ デ。
27	SX07 No.2	須恵器 甕	口径:- 高さ:(5.5) 底径:-	石英・雲母・角 閃石・白色針状 物質	良好	5以下	灰色 (N5/0)	外面平行線状のタタキ目、内面同心 円状の当て具痕が残る。
28	縹出面 No.23	土師器 甕	口径:(19.0) 高さ:(7.4) 底径:(8.0)	白色粒子・石英・ 雲母・白色針状 物質・小礫・微 砂粒	良好	5以下	明赤褐色 (2.5YR5/6)	胸部内外面横ナデ。口縁部内外面横 ナデ。常陸型甕。
29	塵土一括	土師器 环	口径:(13.4) 高さ:(4.15) 底径:(8.0)	白色粒子・石英・ 雲母・角閃石・ 白色針状物質	良好	30	橙色 (7.5YR6/6)	内外面ロクロナデ。底部外面ナデ。
30	SI43 瓶方裡土	繩文土器 深鉢	口径:- 高さ:(1.7) 底径:-	白色粒子・石英	良好	5以下	暗赤褐色 (5YR3/2)	柳条状工具による連続刺突後、沈線 を強す。

図版番号	遺構名	グリッド	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
31	SI22	W・V-72	打製石斧	綠泥片岩	13.9	8.9	2.5	299.8	分離型の打製石斧で、刃部中央が欠損。 上部は陰対象となっていない。
32	SK03	T-68	打製石斧	黑色頁岩	11.5	8.2	3.1	290.1	裏面中央部は磨滅。かなり使用。刃部 は裏裏面とも作り直している。
33	SK07	X-72	磨石・敲石	綠色岩	10.4	4.0	2.8	196.6	下端部は平滑で敲打痕がうっすらみら れる。

第5章 総括

第1節 地形・立地

亀作遺跡が所在する地形は、久慈川支流の亀作川と大沢川に挟まれた上位砂礫台地のほぼ中央に位置する。調査区の地形は、ほぼ平坦であるが、南西と北東方向に緩やかに標高を減じており、舌状に張り出した台地である。特に、北東側は現在の県道付近に埋没谷があり、黒ボク土が厚く堆積しており、地山のローム層が浸食されている。遺跡が所在する上位砂礫台地から下位の河川までの標高差は約5~7mであるが、この点は台地が形成された年代が古いことが要因であり、そのために台地の縁辺には崖線が発達し、南西方向に向かいその高さを減じている。台地の両側には北東方向の山地に奥深く伸びる河川の浸食により形成された大きな谷あり、低位面を形成しており、古代には水利と農業生産のための利用されていたものと推定される。

遺跡の立地は、台地の平坦面のほぼ中央で、北東から南西方向の位置であり、日当たりが良く安定した地形の場所である。難点があるならば、遺跡は台地の中央部に位置するため水の確保が容易ではなかったではないだろうか。そのため、縄文時代、弥生時代など、水の貯蔵方法と容器が十分に発達していなかった時期に、集落が形成されなかつたのではないだろうか。水利の問題を除けば、亀作遺跡の立地は、竪穴建物跡の軒数を考慮すると集落形成には格好の場所であったものと判断される。また、今回の発掘調査地点は、現代の耕作により著しいカクランを受けており、表層から耕作が及ぶ深度まで遺構が破壊されていることが確認されている。

第2節 遺構の概要

(1) 縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、土坑が1基検出され縄文後期以前の時期に対比される。遺構の覆土は、他の時代の遺構と異なり淡色黒ボク土が堆積しており、色調の特徴から時代的な差異が明確に判断できた。しかし、他に縄文時代の遺構が存在しない、あるいは淡色黒ボク土が確認されていくことから、調査区は縄文時代の遺跡立地には適さない、あるいは構成の集落形成、あるいは開発により遺構や生活痕跡が消滅してしまった可能性がある。

(2) 弥生時代の遺構

弥生時代の遺構は、検出されていないが、後期前半の土器や十王台式土器が竪穴建物跡の覆土から出土しており、遺跡内において集落が存在した可能性がある。しかし、古墳時代の遺跡での竪穴建物跡の建設によって、弥生時代の遺構は破壊された可能性がある。

(3) 古墳時代の遺構

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡の数を確認すると時期判定が確定なもので、前期は竪穴建物跡7軒、中期は8軒と微増で、後期は10軒と微増で、ほぼ漸増の状況である。時期不明は竪穴建物跡があるため正確な傾向ではなく、全ての竪穴建物跡の帰属時期が確定できればその数的傾向は変

化するが、極端な遺構数の変化はなく、古墳時代初めの移住から絶え間なく集落が営まれ続けた可能性がある。周辺の古墳の分布を確認すれば、高貴東・西横穴墓群、高貴古墳群、馬舟古墳、よい塚古墳群、入淨塚古墳などがあることから、地域権力者が存在しその周辺に、集落と経済基盤が存在していたのだろう。また、古墳時代前期の堅穴建物跡の遺構の特徴として、掘方の深さが浅く、床が軟質であるなどの特徴があり、構築方法が異なる点が指摘できる。

屋内炉は、18号堅穴建物跡内の床面から4基検出された。いずれも焼成状態が良好で焼土が硬化しており、かなりの熱量を受けて形成されたものと判断される。その用途は、土器以外に遺物が検出されなかつたため不明である。

窯に関しては、一部のものは『常陸太田市史』の記載により、近郊で採集される水成層由来の泥岩、シルト岩などの堆積岩が構築材として使用されている。近郊の古墳の存在、あるいは加工、運搬のコストを考慮すると、石工による堆積岩切り出しの作業がわずかながら実施され、集落内のカマドで使用された可能性がある。

(4) 奈良・平安時代の遺構

奈良・平安時代の遺構は、堅穴建物跡の数を確認すると11軒で、古墳時代から集落がほぼ継続的に営まれていた可能性がある。亀作遺跡の立地する地域は、『倭名類聚抄』では、常陸國久慈郡の世矢郷と称される地域であり（常陸太田市史編さん委員会1984）、古墳時代から律令体制への政治的移行はスムーズに展開されたのかもしれない。

堅穴建物跡の分布は、AA～AE-75～77グリッド付近にまとまって分布しており、古墳時代の堅穴建物跡を避けて集落を構築した可能性がある。近隣の調査の際は、この点への留意が必要である。

第3節 遺物の概要

(1) 繩文時代の土器

出土した土器は、縩文時代前期から後期のものであるが、その中で前期後半の興津式土器が各遺構の覆土に混在して検出されている。中期は五領ヶ台式土器、中部高地の曾利式土器の破片などが検出され、後期は堀之内式土器、加曾利B式土器？の破片なども検出されている。

(2) 弥生時代の土器

出土した土器は、弥生時代後期前半の縩文施文の土器、後期後半の附加条の縩文施文の十王台式の壺の破片が検出されているが、点数は多くない。

(3) 古墳時代の土器

遺構から出土した土器は、土師器壺、壺、高壺、塊、埴、壇、瓶などで、須恵器は壺、壺、蓋などである。前期の土器は、内外面にナデを施したミニチュア土器（SI03）、ハケ目調整の單口縁の壺（SI37・40）などであり、他の時期より遺物量が極めて少ない。

中期の土器は、有段口縁の壺は、小形で口縁部の屈曲が弱く短寸で胴部が球形状のもの (SI18)、底面の径が小さく長胴化しているもの (SI41) などである。有段口縁の壺は口縁部が短寸化し段部の突出が弱くなっているが、口縁部の外反が弱く胴部が球状形のもの (SI24) と外反が強いもの (SI28) がある。高坏は裾部の径が小さいもの (SI03)、脚部が長脚化したもの (SI09・SD01)、坏部の下部に稜を持つもの (SI10・22)、坏部の口縁部が大きく開くもの (SI27)、脚部がエンタシス状のもの (SI23・25・28・SK03) などである。壺 (SI07) は口縁部が「く」の字に外反する器形である。丸底で口縁部が内湾するもの (SI39)、丸底のもの (SI41) などがある。壺は、單口縁で器面にヘラ削りや指頭圧痕を持つ壺 (SI09・18・28・36・38・39・45) などがある。器台は脚部に円形の透かしのあるもの (SI15)、短寸で裾部の径が大きく開くもの (SI38) などがある。鉢は口縁部が外反するもの (SI15)、内湾するもの (SI50) がある。塊は口縁部で屈曲しやや外反するもの (SI22・25)、胴部から内湾し口縁部が垂直立ち上がるもの (SI39) などがある。他に小形の壺 (SI22)、底部に丸みを持つ瓶 (SI09)、把手付の瓶 (SI25) などがあり他の時期よりも点数が多い。中期は、高坏や壺が多くなり数量が前期より飛躍的に増加する。

後期の土器は坏 (SI09・22・24・25・26・29・31・32・38・50・69・SK09)、壺は、口縁部がやや内湾してから垂直に立ち上がるもの (SI50)、口縁部が垂直に近い角度で外反するもの (SK03)、高坏 (SK09) などがある。後期は、出土量が卓越しているものが、須恵器坏蓋模倣、あるいは須恵器坏身模倣の坏であり、主要な日常的什器として使用されていたものと推定される。

(4) 奈良・平安時代の土器

遺構から出土した土器は、土師器壺は、横ナデの整形のもの (SI16)、常陸型壺 (SI21・23・69)、ケズリやナデによる整形のもの (SI33・34・37)、内面黒色処理のロクロ成形の坏 (SI21・37・54)、ロクロ成形の高台付坏 (SI21・23・35) などがある。瓶はケズリとナデ (SI33・35) で成形されている。

須恵器は、高台部のある壺 (SI21)、蓋 (SI35・50)、壺 (SI01・22・31・35・SX04・07)、坏 (SI37)、高台付坏 (SX04) などであり出土点数は少ない。

(5) 鉄製品

鉄製品は、刀子 (SI18・21)、鉄鎌基部 (SI21) などでありあまり出土していない。また、覆土から鉄滓 (SI37) がまとまって検出されたことから、屋内炉で製鉄作業が実施された可能性がある。

(6) 土製品・石器・石製品

土製品は、最大径 5 cm ほどの焼成粘土塊が 3 点 (SI25・SK09) 検出されているが、用途は不明である。土製の筒形の支脚 (SI44) が出土している。半分に破砕した土製勾玉が 39 号竪穴建物跡から出土している。また、21 号竪穴建物跡から紡錘車、耳飾り状土製品が出土している。

石器は、撥形の斧形石器 (SI33)、撥形の斧形石器 (SK03)、砥石 (SI21)、石皿 (SI32)、磨石・敲石 (SI33) チャート製の小形磨石 (SI51)、敲石 (SI48)、磨石・敲石 (SK03・07)、石皿・礫器・磨石 (SI22)、石皿・砥石・敲石 (SI44) などである。

石製品は、滑石製紡錘車 (SI48)、碧玉製管玉 (SI50) である。

Summary

Kamezaku site is located the east suburb of Hitachiota city, N36° 31' 41", E140° 33' 59" in Hitachiota city, Ibaraki Prefecture. It is situated on the upper sandy gravel terraces between the Kamezaku and Ohsawa rivers and its altitude is over 40m.

This site is known as large settlements of Jomon period, Yayoi period, Kofun period, Nara to Heian period archaeological remains and has large territory.

At this site, first excavation was conducted by a contractor or surveyor: a private company, Tokyo air and survey in Saitama Prefecture and Hitachiota city board of education has performed appropriate direction, coaching, and supervision to them in 2018 to 2019. It was concerned about the improvement work of Hitachiota city road and total excavation area is about 460.89m².

In this excavation, we were found that each of settlement remains were placed during Jomon period, Kofun period, Nara to Heian period. In Jomon period, a pit was found in the excavation area. Unearthed relics were the early to late Jomon potteries Okitus type, Goryogadai type, Sori type, Horinouchi type, Kasori B type were found.

In Kofun periods, 42 house pits, a ditch, a pit, 7 pillar holes and 3 remains having unclear functions were found in the excavation area. Unearthed relics were Haji potteries: shallow bowls, bowls, one-legged tries, pots, bowls, jars, a lid, Sueki potteries: jars, pots, lids, clay artifacts: supporting legs for Kamado-Farnese, clay blocks, ironware: an iron arrowhead, knives, slags, stone tools: a spinning wheel made from talc, grinding stones, hammerstones, pedestals, choppers, supporting legs for Kamado-Farnese, Kamado-Farnese constructing materials made from mudstone, late Yayoi potteries: Jyuohdai type, gravels.

In Nara to Heian period, 15 house pits, a ditch, a pit, two remains having unclear functions were found in the excavation area. Unearthed relics were Haji potteries: shallow bowls, bowls, pots, steamers, Sueki potteries: shallow bowls, pots, lids, clay artifacts, a spinning wheel, a ringed earring, iron wares: an arrow head, a knife, middle Jomon potteries, stone tools: grinding stones, hammerstones, pedestals, gravels. Most of remains were placed during Heian period: 9th century.

The remains of the time unknown, 9 house pits, a well, 9 pits, 3 pillar holes, 3 remains having unclear functions were found in the excavation area.

Based on this excavation, were suggested that this excavation area have begun to use from early Jomon period to late Yayoi periods for settlements but house pits no found particular evidence. Only one pit was found and some early to late Jomon potteries and late Yayoi potteries were found in the layer depositions of remains in the later periods.

In Kofun period, this excavation area has begun to use for settlements and found house pits and pits. The number of house pits increased gradually in early to late Kofun periods.

In Nara period, the number of house pits were less than the number of them in late Kofun period in this area. As the reason for moving, the rulers and political and economic system were changed during this period.

In Heian period, the number of house pits were more than the number of them in Nara period in this area. It is supposed that the increase in the number of them was occurred establishment of Ritsuryo system.

From above, it can be pointed out that this excavation area was mainly used for settlements continuously from Kofun period to Heian period. And Kamezaku site is one of the most important site for our understanding of human life during those periods.

Translated by Morohoshi Ryoichi: Tokyo Air and Survey Co., Ltd. Department of Cultural Properties.

引用・参考文献

市史・報告書

- 猪狩俊哉・大滝駿介 2017『東海道常陸路及び長者山官衙道路』日立市文化財調査報告第108集、日立市郷土博物館
小川貴行・松村秀和 2013『日向遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第274集、公益財団法人茨城県教育財団
奥村哲也 2016『瑞龍古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告第415集、公益財団法人茨城県教育財団
菊池壯一ほか 2010『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第2集、常陸太田市教育委員会
菊池壯一 2011『常陸太田市埋蔵文化財調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第3集、常陸太田市教育委員会
菊池壯一 2013『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第5集、常陸太田市教育委員会
菊池壯一 2014『常陸太田市内遺跡調査報告書』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第6集、常陸太田市教育委員会
菊池壯一ほか 2015『仲城遺跡』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第7集、常陸太田市教育委員会
菊池壯一ほか 2016『長者屋敷遺跡第7次』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第9集、常陸太田市教育委員会
白石真理 1999『武田石高遺跡古墳時代編』ひたちなか市教育委員会財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
鈴木素行 1998『武田石高遺跡旧石器・縄文・弥生時代編』ひたちなか市教育委員会財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
常陸太田市史編さん委員会 1984『常陸太田市史 通史編 上巻』
山口憲一・室間清公ほか 2018『長者屋敷遺跡第8次』常陸太田市埋蔵文化財調査報告書第10集、常陸太田市教育委員会

論文

- 赤井博之 1998「古代常陸国新治窯跡群の基礎的研究(1)」「婆良岐考古」第20号、婆良岐考古同人会
赤井博之・佐々木義則 1996「新治窯跡群産須恵器A1の変化」「婆良岐考古」第18号、婆良岐考古同人会
赤井博之・佐々木義則 2006「茨城県における須恵器の流通」「婆良岐考古」第28号、婆良岐考古同人会
浅井哲也 1992「茨城県内における奈良・平安時代の土器(I)」「研究ノート創刊号」財団法人茨城県教育財団
飯島一生 1997「茨城県における十王台式土器の高杯について」「研究ノート7号」公益財団法人茨城県教育財団
稻田健一 2014「茨城県の様相(1)」「東生」第3号、東日本古墳文化確立期土器検討会
茨城県 1993「土地分類基本調査日立5万分の1」
江口勇 1984「第一章第一節地理的性格」「常陸太田市史通史編上巻」常陸太田市市史編さん委員会
海老沢稔 1980「鬼高・真間郷における茨城県内出土土師器編年試論」「婆良岐考古」第1号、婆良岐考古同人会
大森信義 1984「第一章第二節地質」「常陸太田市史通史編上巻」常陸太田市市史編さん委員会
小笠原好彦 1971「丹波土師器と黒色土器」「考古学研究」第18卷2・3号
貝塚爽平 2000「-論述-」「日本の地形4関東・伊豆小笠原」東京大学出版会
櫻村宜行 1995a「和泉式土器編年考」「研究ノート5号」公益財団法人茨城県教育財団
櫻村宜行 1995b「茨城県における初期窯の様相」「みちのく発掘」
櫻村宜行 2007「[切石組み甕]の一考察」「考古学の深層」瓦吹堅先生還暦記念論文集刊行会
櫻村宜行・土生朗治・白石真理 1999「茨城県における5世紀の動向」「東国土器研究」第5号東国土器研究会
櫻村宜行ほか 1999「茨城県における5世紀の動向」「東国土器研究」第5号、東国土器研究会
瓦吹 堅 1989「浮鳥・興津式土器様式」「縄文土器大観 1」小学館
木村光輝 2016「石材を使用した甕について(2)」「研究ノート第13号」公益財団法人茨城県教育財団
木村光輝 2017「石材を使用した甕について(3)」「研究ノート第14号」公益財団法人茨城県教育財団
木村光輝・駒澤悦郎ほか 2017「茨城県内における壁溝甕の堅穴建物について(2)」「研究ノート第14号」公益財団法人茨城県教育財団
黒沢彰哉 1981「茨城県における古式土師器の問題」「婆良岐考古」第3号、婆良岐考古同人会
古墳時代研究班 1995「茨城の「S字状口縁台付甕」について」「研究ノート5号」公益財団法人茨城県教育財団
古墳時代研究班 1996「茨城の「S字状口縁台付甕(2)」について」「研究ノート6号」公益財団法人茨城県教育財団
古墳時代研究班 1997「茨城の「S字状口縁台付甕(3)」について」「研究ノート7号」公益財団法人茨城県教育財団
駒澤悦郎 2007「茨城県における古墳時代前、中期のが用土式支脚の変遷」「考古学の深層」瓦吹堅先生還暦記念論文集
刊行会

- 駒澤悦郎 2017 「大塚遺跡群と大口下郷遺跡群の遺構の変化」『研究ノート第14号』公益財団法人茨城県教育財团
- 駒澤悦郎 2018 「茨城県内における堆積窓の堅穴建物について（3）」『研究ノート第15号』公益財団法人茨城県教育財团
- 駒澤悦郎 2019 「茨城県北部における遺構の変化」『研究ノート第16号』公益財団法人茨城県教育財团
- 佐々木義則 1997 「木葉下窓群の須恵器生産」『倭良岐考古』第19号、倭良岐考古同人会
- 佐々木義則 1998 「常陸におけるロクロ成形土器窯の展開」『倭良岐考古』第20号、倭良岐考古同人会
- 佐々木義則 1999a 「2郡河川周辺における古墳時代前期の土器窯の展開（1）」『武田石高遺跡古墳時代編』財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化調査報告第17集、財ひたちなか市文化・スポーツ振興公社
- 佐々木義則 1999b 「茨城県北半部における土器窯の型式変遷」『倭良岐考古』第21号、倭良岐考古同人会
- 佐々木義則 2001 「茨城県における8・9世紀の須恵器窯概観」『倭良岐考古』第23号、倭良岐考古同人会
- 佐々木義則 2007a 「茨城県における奈良・平安時代土器研究の現状」『考古学の深層』瓦次堅先生還暦記念論文集刊行会
- 佐々木義則 2007b 「常陸型窯の生産と流通」『倭良岐考古』第29号、倭良岐考古同人会
- 佐々木義則 2009 「武田遺跡群における平安時代土器窯・小皿窯年」『倭良岐考古』第31号、倭良岐考古同人会
- 佐藤次男 1988 「茨城県における弥生時代終末期の一様相」『考古学叢考下巻』吉川弘文館
- 白石真理 1998 「常陸における土器群の隔離と交流」『庄内式土器研究会X - 庄内式併行期の土器生産とその動き -』庄内式土器研究会
- 白石真理 2004 「古墳時代の堅穴住居跡にみられる改築」『茨城県考古学協会誌』第16号、茨城県考古学協会
- 鈴木正博 1976 「十王台式」理解の為に（1）一分布圖と西部地域を中心として一」『常陸台地』7 當總台地研究会
- 高木勇夫 1970 「沖積平野の微地形と土地開発茨城県久慈川、那珂川下流域」『日本大学文理学部自然科学研究所紀要』5
- 田嶋明人 2015 「東日本にみる9・10期の高坏」『東生』第4号、東日本古墳確立期土器検討会
- 田中 裕 2016 「久慈郡にみる4・5世紀の世界」『常陸國風土記』の世界 東国古代遺跡研究会
- 田沼昭三 1981 『須恵器大成』角川書店
- 早川唯弘 2006 「茨城県北部多賀山地大北川流域の地形」『茨城大学政経学会雑誌』(76)
- 松田光太郎 2008 「浮島式・興津式土器」『総覧 繩文土器』株式会社アム・プロモーション
- 宮田 敦 2016 「十王台式土器の記憶」『利根川』38、利根川同人

写 真 図 版

図版1



亀作遺跡景観（北から）



調査区完掘状況（上空から）

図版 2



SI01 検出状況 (北東から)



SI07 検出状況 (北北東から)



SI09 検出状況 (南西から)



SI15 検出状況南 (西から)



SI18・SX02・03造構検出状況 (西から)



SI18-1・2号炉・遺物検出状況 (東から)



SI19 遺物検出状況 (南西から)



SI24SK01 遺物出土状況 (北から)

図版3



SI24 遺物検出状況（東から）



SI29 遺物検出状況（南西から）



SI32 検出状況（南西から）



SI38 遺物検出状況（南から）



SI39 罫検出状況（西から）



SI40 遺物検出状況（東から）



SI44 検出状況（南西から）



SI48 遺物検出状況（北から）

図版 4



SI48 検出状況 (西から)



SI48 紡錐車検出状況 (北から)



SI50 遺構検出状況 (西から)



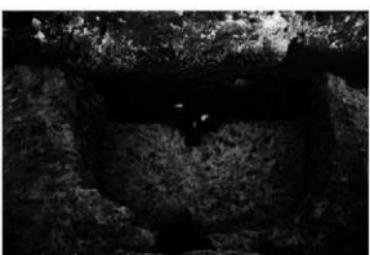
SI50 窓龜検出状況 (北から)



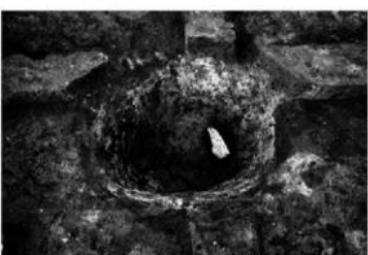
SI50 管玉検出状況 (西から)



SI51 遺物検出状況 (西から)



SK03 遺物検出状況 (東から)



P05 遺物検出状況 (東から)



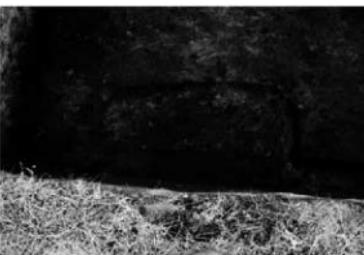
SI02 検出状況（東北東から）



SI02 窟検出状況（南西から）



SI33 遺物検出状況（西から）



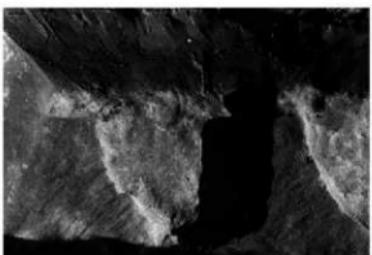
SI66 検出状況（西から）



SD01 遺物検出状況（南から）



SD01 西側検出状況（北から）



SK12 遺構検出状況（北から）



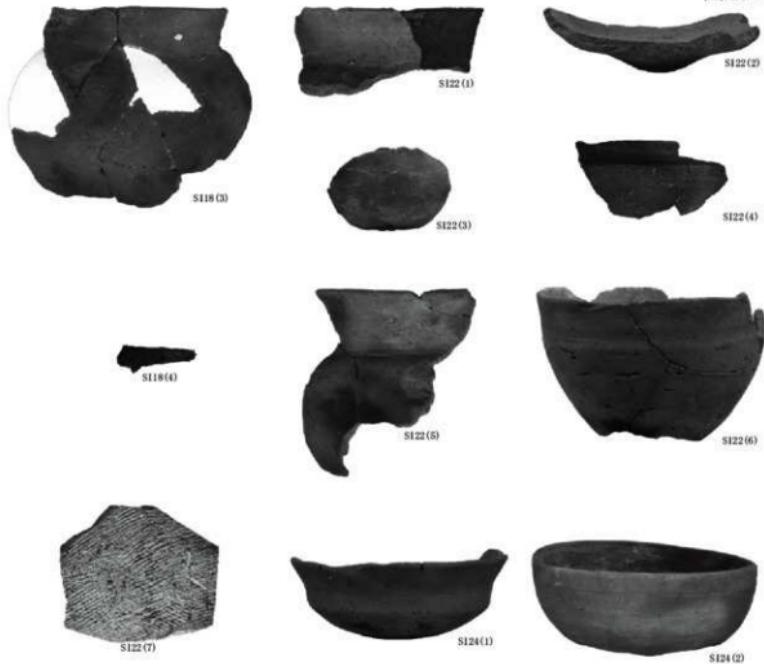
SE01 完掘状況（東から）

図版 6



遺物図版 (1)

図版 7



遺物図版 (2)

図版 8



遺物図版 (3)

図版9



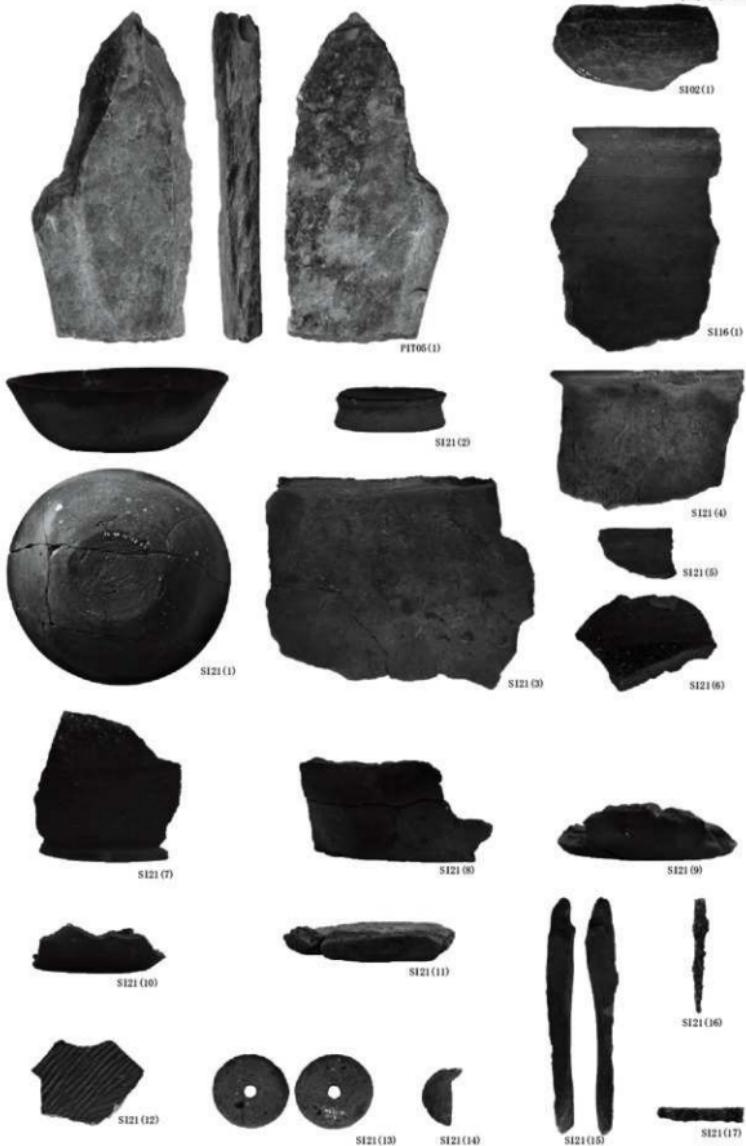
遺物図版 (4)

図版 10



遺物図版 (5)

图版 11



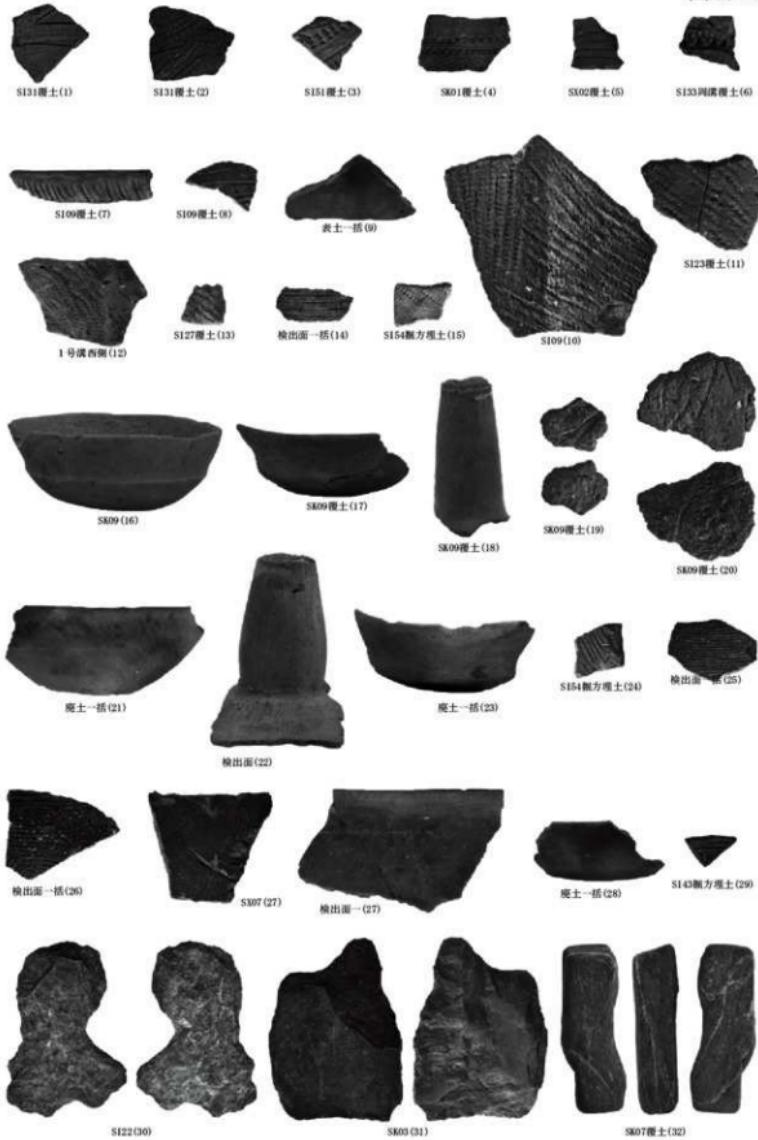
遗物图版 (6)

図版 12



遺物図版 (7)

图版 13



遗物图版 (8)

報告書抄録

ふりがな	かめざくいせき
書名	亀作遺跡
副書名	市道0112・4166・4168号線（亀作中角線）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	第1次
シリーズ名	常陸太田市内遺跡調査報告書
シリーズ番号	第14集
編著者名	山口憲一・諸星良一
編集機関	株式会社 東京航業研究所
所在地	〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1 TEL049-229-5771
発行機関	常陸太田市教育委員会
所在地	〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200 TEL0294-72-3201
発行年月日	西暦2020年（令和2年）3月25日

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	○○○			
かめざくいせき 亀作遺跡	ひたちおおた市亀作町 1171番地ほか	212	054	36°31'41"	140°33'59" ~ 20181126 20190219	460.89m ²	道路改良工事

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
			・縄文	・溝跡		
亀作遺跡	集落跡	・古代	・古墳	・井戸	68 2 1 12 7 10 縄文土器、石器 弥生土器、土師器 須恵器、鉄製品 土製品、石製品 疊、疊片 ビット	・古墳時代から奈良、平安時代の集落を調査した。縫穴建物跡は、古墳時代前期～後期を主体とし、遺構の分布密度が高い。遺跡範囲の未調査区を考慮すると、集落の規模が非常に大きい遺跡であるものと推定される。

要約	・古墳時代から奈良、平安時代の集落跡を調査した。縫穴建物跡は、古墳時代前期～後期を主体とし、遺構の分布密度が高い。遺跡範囲の未調査区を考慮すると、集落の規模が非常に大きい遺跡であるものと推定される。
----	---

常陸太田市内遺跡調査報告書 第14集

龟作遺跡第1次

市道 0112・4166・4168号線（龟作中角線）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日 2020（令和2）年3月25日

編 集 株式会社東京航業研究所
〒350-0855 埼玉県川越市大字伊佐沼28番1
TEL 049-229-5771

発 行 常陸太田市教育委員会
〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200
TEL 0297-72-3201

印 刷 朝日印刷工業株式会社
〒371-0846 群馬県前橋市元総社町67
TEL 027-251-1212